

南相馬市内遺跡発掘調査報告書 10

—平成26・27年度試掘調査報告—

八幡林遺跡(8次調査)
榎内遺跡(3次調査)
榎木沢C遺跡(5次調査)
大内館跡
小山田古墳群
戸ノ内遺跡・浮田太田切通跡
真野古墳群A地区
今宮遺跡
桜井B遺跡(11次調査)
桜井B遺跡(12次調査)
桜井C遺跡(2次調査)
高見町B遺跡(3次調査)
上流佐原甲遺跡(5次調査)
三島町遺跡(2次調査)
入竜田遺跡(3次調査)
泉館跡(2次調査)
萩原遺跡(4次調査)
谷中遺跡(2次調査)
前向遺跡
沢田館跡

内城遺跡
深野館跡
梨木下西館跡
北新田本町遺跡
原町区栄町地区
原町区深野地区
原町区高見町地区
小高区塚原地区
榎内遺跡(4次調査)
榎内遺跡(5次調査)
八幡林遺跡(11次調査)
八幡林遺跡(12次調査)
幡林遺跡(13次調査)
真野古墳群A地区(2次調査)
榎木沢C遺跡(6次調査)
八郎内遺跡(7次調査)
鷹内遺跡(2次調査)
桜井C遺跡(3次調査)
桜井C遺跡(4次調査)
桜井D遺跡(15次調査)

桜井原畑遺跡(4次調査)
堤下B遺跡(2次調査)
戸ノ内遺跡(2次調査)
陣ヶ崎B遺跡
信田沢古館跡
巢掛場遺跡(2次調査)
巢掛場遺跡(3次調査)
追合C遺跡(3次調査)
切付遺跡
楠木町A遺跡
袖原古墳群
大穴遺跡
鹿島区永田地区
原町区下太田地区
鹿島区大六天地区
原町区比丘尼沢地区
原町区石神地区
原町区入道迫地区

平成29年3月
南相馬市教育委員会

南相馬市内遺跡発掘調査報告書 10

—平成26・27年度試掘調査報告—

八幡林遺跡(8次調査)	内城遺跡	桜井原畑遺跡(4次調査)
榎内遺跡(3次調査)	深野館跡	堤下B遺跡(2次調査)
榎木沢C遺跡(5次調査)	梨木下西館跡	戸ノ内遺跡(2次調査)
大内館跡	北新田本町遺跡	陣ヶ崎B遺跡
小山田古墳群	原町区栄町地区	信田沢古館跡
戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡	原町区深野地区	巢掛場遺跡(2次調査)
真野古墳群A地区	原町区高見町地区	巢掛場遺跡(3次調査)
今宮遺跡	小高区塚原地区	追合C遺跡(3次調査)
桜井B遺跡(11次調査)	榎内遺跡(4次調査)	切付遺跡
桜井B遺跡(12次調査)	榎内遺跡(5次調査)	橋本町A遺跡
桜井C遺跡(2次調査)	八幡林遺跡(11次調査)	袖原古墳群
高見町B遺跡(3次調査)	八幡林遺跡(12次調査)	大穴遺跡
上渋佐原田遺跡(6次調査)	幡林遺跡(13次調査)	鹿島区永田地区
三島町遺跡(2次調査)	真野古墳群A地区(2次調査)	原町区下太田地区
入竜田遺跡(3次調査)	榎木沢C遺跡(6次調査)	鹿島区大六天地区
泉館跡(2次調査)	八郎内遺跡(7次調査)	原町区比丘尼沢地区
萩原遺跡(4次調査)	鷲内遺跡(2次調査)	原町区石神地区
谷中遺跡(2次調査)	桜井C遺跡(3次調査)	原町区入道泊地区
前向遺跡	桜井C遺跡(4次調査)	
沢田館跡	桜井D遺跡(15次調査)	

平成29年3月
南相馬市教育委員会

序 文

平成23年3月11日、東北地方から関東地方にかけた広範囲で大規模な地震が発生いたしました。後に『東日本大震災』と呼ばれることになるこの大地震と、地震によって発生した津波は東日本各地の太平洋沿岸に押し寄せ、家屋などの財産とともに多くの尊い人命を失うことになりました。また、津波の襲来に端を発した東京電力株式会社福島第一原子力発電所の事故は、福島県をはじめとした広範囲に放射性物質を放出するという世界史上まれに見る大規模災害を引き起こしました。

南相馬市でも地震や津波によって多くの家屋が被災し、多くの尊い人命を失いました。放射性物質の拡散では市内の一部が警戒区域、計画的避難区域、特定避難勧奨地点、緊急時避難準備区域等の避難区域に指定され、自宅への立ち入りが制限される事態となりました。事故後6年が経過した現在では、避難指示等が出されていた地域の多くの避難指示が解除され、見た目には震災以前の状態に戻りつつはありますが、それでも今なお、多くの方々が住み慣れた故郷を離れ、南相馬市外や福島県外、そして仮設住宅等で避難生活を送っています。

本書は、東日本大震災の混乱が続く平成26年度と平成27年度に、文部科学省の補助金の交付を得て実施した埋蔵文化財の調査報告です。

埋蔵文化財をはじめとする地域に残る文化財は、我が国の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた国民共有の財産です。また、その地域の歴史、伝統、文化などの理解のために欠くことのできないものであると同時に、将来の文化の向上や発展、そして地域のアイデンティティ形成の根幹をなすものであります。

これらの埋蔵文化財の調査の成果が文化財の保護や地域研究ため、更には被災され方々の目に触れ、震災を経験した南相馬市の復興の礎として活用されることを祈念します。

終わりに、試掘調査の実施にご協力賜りました地権者の皆様、ならびに関係機関の皆様、加えて震災復旧、復興にご支援、ご尽力頂きました皆様に、心から感謝申し上げます。

平成29年3月

南相馬市教育委員会
教育長 阿部 貞 康

例 言

1. 本書に記載した内容は、平成26・27年度に南相馬市教育委員会が実施した南相馬市内の埋蔵文化財試掘調査、発掘調査の成果報告である。
2. 試掘調査・発掘調査等にかかる経費は、文部科学省補助金の交付を得ている。
3. 発掘調査ならびに報告書刊行は、以下の体制で実施した。
 - ・調査期間 平成26年4月1日～平成28年3月31日
 - ・整理期間 平成26年4月1日～平成29年3月31日
 - ・調査主体 南相馬市教育委員会

事務局 南相馬市教育委員会文化財課

平成26年度

教育長	青木紀男	主 査	佐藤友之
事務局長	小林総一郎	主任文化財主事	荒 淑 人
文化財課長	堀 耕 平	主任文化財主事	藤 木 海
文化財係長	川 田 強	主任文化財主事	佐 川 久
		文化財主事	岩 崎 勉

平成27年度

教育長	阿部貞康	主任文化財主事	藤 木 海
事務局長	小林総一郎	主任文化財主事	佐 川 久
文化財課長	堀 耕 平	文化財主事	岩 崎 勉
文化財係長	川 田 強	主任文化財主事	吉 岡 弘 樹 (山梨県支援)
主 査	佐藤友之	埋蔵文化財調査員	濱 須 脩 (囑託)
主任文化財主事	荒 淑 人		

平成28年度

教育長	阿部貞康	主任文化財主事	藤 木 海
事務局長	木村浩之	主任文化財主事	佐 川 久
文化財課長	堀 耕 平	主 査	林 紘太郎
文化財係長	川 田 強	埋蔵文化財調査員	濱 須 脩 (囑託)
主 査	佐藤友之	埋蔵文化財調査員	横 田 克 己 (囑託)
主任文化財主事	荒 淑 人		

- ・整理補助員 阿部千恵・泉田あずさ・岩崎美和子・岡田光生・岡本ミツ子
加藤恵美子・亀田まゆみ・小泉達彦・佐藤淑子・寺島千尋
飯崎健二・渡部定子

8. 平成26年度・平成27年度には、福島県教育委員会からの市町村技術支援により、以下の職員からの支援を受けた。
- ・平成26年度 中 居 和 志 (京都府支援) ・中 山 晋 (沖縄県支援)
齋 藤 貴 史 (茨城県支援) ・山 崎 孝 盛 (高知県支援)
 - ・平成27年度 山 梨 千 晶 (長崎県支援)
 - ・平成28年度 柴 田 亮 平 (山梨県支援)
9. 発掘調査に際しては、次の機関及び個人から協力を得た。記して感謝の意を申し上げる。
南相馬市・有限会社尚楠・公益社団法人移動通信基盤整備協会・福相建設株式会社株式会社以輪富・ネットヨタ福島株式会社・ヤマダホーム株式会社・加藤建材株式会社株式会社大橋建設・昭和運輸株式会社・懸の森太陽光発電合同会社・株式会社アドバンテック
有限会社番場産業・双葉地方広域市町村圏組合・高野信一郎・但野俊一・蒔田昌弘
長谷川一夫・青田芳久・佐藤廣一・半澤希信・田村幸子・渡部公達・眞田晃一・門馬孝之
大内敏文・池崎信一・橋本クニ・大久勝範・遠藤利直・斉藤義則・遠藤澄子・渡辺直樹
小倉陽一 (順不同 敬称略)
10. 発掘調査、報告書作成にあたり、次の方々から指導・助言を得た。記して感謝申し上げる。
文化庁文化財部記念物課・独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・福島県教育委員会
公益法人福島県文化振興財団・福島県立博物館・村木 亨・長島雄一・佐藤耕三・木村裕之
木田寿憲・荒木 隆・西戸純一・響田克史・岡部睦美・山本友紀・福田秀生・門脇秀典
青山博樹・今野 徹・山岸英夫 (福島県教育委員会) ・山本 誠・甲斐昭光 (兵庫県支援)
野村信生・業天唯正 (青森県支援) ・若林 卓・藤原直人 (長野県支援) ・福島孝行・古川 匠
中居和志 (京都府支援) ・妹尾 聡・橋本玲未 (埼玉県さいたま市支援) ・高尾榮市 (福岡県築
上町支援) ・橋本正春・岡本淳一郎・島田修一 (富山県支援) ・宮地聡一郎 (福岡県支援)
中山 晋 (沖縄県支援) ・作山智彦・齋藤貴史 (茨城県支援) ・山崎孝盛 (高知県支援) ・萩野
谷正宏 (和歌山県支援) ・山梨千晶 (長崎県支援) ・木川正夫 (愛知県支援) ・杉崎茂樹 (埼玉
県支援) ・真鍋貴匡 (香川県支援) ・宮崎敬士 (熊本県支援) ・吉岡弘樹・柴田亮平 (山梨県支
援) ・小口英一郎・福島雅儀 (鳥取県支援) ・内田和典 (北海道支援) ・山田侑生 (兵庫県神戸
市支援) ・吉田秀享・能登谷宣康・松本 茂・飯村 均 (公益法人福島県文化振興財団)
11. 本報告書に掲載した文章ならびに挿図・写真図版は調査担当者が執筆・作成し、最終的な編集は各担当者と協議して荒が行った。
12. 調査で得られた資料は、南相馬市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 図中の方は真北方向を示し、水糸レベルは海拔高度を示す。
4. 本文並びに図作成に使用した記号・略号は、以下の内容を示す。
T: トレンチ SB: 掘立柱建物跡 SD: 溝跡 SI: 竪穴住居跡 SK: 土坑 P: ビット
SX: 性格不明遺構 L: 基本層位 ℓ: 遺構内堆積土

目 次

序	文	i
例	言	iii
凡	例	iv
目	次	v
挿	図 目 次	vii
写	真 目 次	viii
表	目 次	ix

第 I 章 南相馬市を取り巻く環境

第 1 節 遺跡を取り巻く環境

第 1 項	地理的環境	1
第 2 項	歴史的環境	1

第 II 章 調査に至る経過

第 1 節 調査に至る経過

第 1 項	平成26年度 試掘調査の概要	5
第 2 項	平成27年度 試掘調査の概要	10

第 III 章 調査成果

第 1 節 平成26年度試掘調査成果

第 1 項	八幡林遺跡 (8 次調査)	15
第 2 項	榎内遺跡 (3 次調査)	16
第 3 項	榎木沢 C 遺跡 (5 次調査)	17
第 4 項	大内館跡	19
第 5 項	小山田古墳群	20
第 6 項	戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡	23
第 7 項	真野古墳群 A 地区	25
第 8 項	今宮遺跡	26
第 9 項	桜井 B 遺跡 (11 次調査)	27
第 10 項	桜井 B 遺跡 (12 次調査)	28
第 11 項	桜井 C 遺跡 (2 次調査)	29
第 12 項	高見町 B 遺跡 (4 次調査)	30
第 13 項	上渋佐原田遺跡 (5 次調査)	31
第 14 項	三島町遺跡 (2 次調査)	34
第 15 項	入竜田遺跡 (3 次調査)	35
第 16 項	泉館跡 (2 次調査)	36

第17項	荻原遺跡（6次調査）	38
第18項	谷中遺跡（2次調査）	39
第19項	前向遺跡	40
第20項	沢出館跡	47
第21項	内城遺跡	48
第22項	深野館跡	49
第23項	梨木下西館跡	50
第24項	北新田本町遺跡	51
第25項	原町区栄町地区	52
第26項	原町区深野地区	53
第27項	原町区高見町地区	54
第28項	小高区塚原地区	55

第2節 平成27年度試掘調査成果

第1項	榎内遺跡（4次調査）	57
第2項	榎内遺跡（5次調査）	58
第3項	八幡林遺跡（11次調査）	59
第4項	八幡林遺跡（12次調査）	60
第5項	八幡林遺跡（13次調査）	61
第6項	真野古墳群A地区（2次調査）	79
第7項	榎木沢C遺跡（6次調査）	81
第8項	八郎内遺跡（7次調査）	83
第9項	鷺内遺跡（2次調査）	84
第10項	桜井C遺跡（3次調査）	86
第11項	桜井C遺跡（4次調査）	87
第12項	桜井D遺跡（15次調査）	88
第13項	桜井原畑遺跡（4次調査）	90
第14項	堤下B遺跡（2次調査）	92
第15項	戸ノ内遺跡（2次調査）	93
第16項	陣ヶ崎B遺跡	97
第17項	信田沢古館跡	98
第18項	巢掛場遺跡（2次調査）	99
第19項	巢掛場遺跡（3次調査）	100
第20項	追合C遺跡（3次調査）	101
第21項	切付遺跡	102
第22項	橋本町A遺跡	103
第23項	袖原古墳群	104
第24項	大穴遺跡	105

第25項	鹿島区永田地区	106
第26項	原町区下太田地区	108
第27項	鹿島区大六天地区	110
第28項	原町区比丘尼沢地区	111
第29項	原町区石神地区	113
第30項	原町区入道迫地区	118

報告書抄録

奥 付

挿図目次

図1	南相馬市位置図	1	図40	調査区位置図	38
図2	主要遺跡位置図	4	図41	谷中遺跡位置図	39
図3	平成26年度 調査遺跡位置図	9	図42	調査区位置図	39
図4	平成27年度 調査遺跡位置図	14	図43	前向遺跡位置図	40
図5	八幡林遺跡位置図	15	図44	調査区位置図	41
図6	調査区位置図	15	図45	遺構配置図	42
図7	榎内遺跡位置	16	図46	前向遺跡 出土遺物(1)	43
図8	調査区位置図	16	図47	前向遺跡 出土遺物(2)	45
図9	殿木沢C遺跡位置図	17	図48	沢田館跡位置図	47
図10	調査区位置図	17	図49	調査区位置図	47
図11	大内館跡位置図	19	図50	内城遺跡位置図	48
図12	調査区位置図	19	図51	調査区位置図	48
図13	小山田古墳群位置図	20	図52	深野館跡位置図	49
図14	古墳・横穴墓群分布図	21	図53	調査区位置図	49
図15	戸ノ内遺跡・太田切遺跡位置図	23	図54	梨木下西館跡位置図	50
図16	調査区位置図	23	図55	調査区位置図	50
図17	真野古墳群A地区 古墳分布図	25	図56	北新田本町遺跡	51
図18	調査区位置図	25	図57	調査区位置図	51
図19	今宮遺跡位置図	26	図58	原町区栄町地区位置図	52
図20	調査区位置図	26	図59	調査区位置図	52
図21	桜井B遺跡位置図	27	図60	原町区深野地区位置図	53
図22	調査区位置図	27	図61	調査区位置図	53
図23	桜井B遺跡位置図	28	図62	原町区高見町地区位置図	54
図24	調査区位置図	28	図63	調査区位置図	54
図25	桜井C遺跡位置図	29	図64	小高区塚原地区位置図	55
図26	調査区位置図	29	図65	調査区位置図	55
図27	高見町B遺跡位置図	30	図66	榎内遺跡位置図	57
図28	調査区位置図	30	図67	調査区位置図	57
図29	上洪佐原田遺跡位置図	31	図68	榎内遺跡位置図	58
図30	調査区位置図	31	図69	調査区位置図	58
図31	1 T	32	図70	八幡林遺跡位置図	59
図32	上洪佐原田遺跡 出土遺物	33	図71	調査区位置図	59
図33	三島町遺跡位置図	34	図72	八幡林遺跡位置図	60
図34	調査区位置図	34	図73	調査区位置図	60
図35	入竜田遺跡位置図	35	図74	八幡林遺跡位置図	61
図36	調査区位置図	35	図75	調査区位置図	61
図37	泉館跡位置図	36	図76	13次調査区遺構配置図	62
図38	調査区位置図	37	図77	1 T 平面図	63
図39	萩原遺跡位置図	38	図78	2 T 平面図	63

図 79	3 T 平面図・断面図	65
図 80	SD1・SD2 平面図・断面図	66
図 81	SI3 平面図・断面図	67
図 82	SI3 断面図	68
図 83	SI4・SI5・SK1・PII 平面図・断面図	69
図 84	4 T 平面図・断面図	71
図 85	SI2 断面図(1)	72
図 86	SI2 断面図(2)	72
図 87	八幡林遺跡 出土遺物	76
図 88	真野古墳群A地区 古墳分布図	79
図 89	調査区位置図	79
図 90	真野古墳群A地区37号墳 墳丘測量図	80
図 91	楢木沢C遺跡位置図	81
図 92	調査区位置図	81
図 93	SK1 夷測図	81
図 94	八部内遺跡位置図	83
図 95	調査区位置図	83
図 96	鷺内遺跡位置図	84
図 97	調査区位置図	85
図 98	桜井C遺跡位置図	86
図 99	調査区位置図	86
図100	桜井C遺跡位置図	87
図101	調査区位置図	87
図102	桜井D遺跡位置図	88
図103	調査区位置図	88
図104	遺構配置図	89
図105	桜井原畑遺跡位置図	90
図106	遺構配置図	90
図107	堤下B遺跡位置図	92
図108	調査区位置図	92
図109	戸ノ内遺跡位置図	93
図110	戸ノ内遺跡出土遺物	94
図111	調査区位置図	95

図112	陣ヶ崎B遺跡位置図	97
図113	調査区位置図	97
図114	信田沢古館跡位置図	98
図115	調査区位置図	98
図116	果掛場遺跡位置図	99
図117	調査区位置図	99
図118	果掛場遺跡	100
図119	調査区位置図	100
図120	追合C遺跡位置図	101
図121	調査区位置図	101
図122	切付遺跡位置	102
図123	調査区位置図	102
図124	橋本町A遺跡位置図	103
図125	調査区位置図	103
図126	袖原古墳群位置図	104
図127	調査区位置図	104
図128	大穴遺跡位置図	105
図129	調査区位置図	105
図130	鹿島区永田地区位置図	106
図131	調査区位置図	106
図132	原町区下太田地区位置図	108
図133	1号横穴墓 略測図	109
図134	鹿島区大六天地区位置図	110
図135	調査区位置図	110
図136	原町区比丘尻沢地区位置図	111
図137	調査区位置図	111
図138	原町区石神地区位置図	113
図139	調査区位置図(北明内地区)	113
図140	北明内地区出土遺物	114
図141	調査区位置図(赤坂地区)	115
図142	北明内地区遺構平面図	115
図143	原町区入道始地区	118
図144	調査区位置図	118

写真目次

八幡林遺跡(8次調査)		
写真1	調査着手前	15
写真2	1 T 調査状況	15
榎内遺跡(3次調査)		
写真3	1 G 調査状況	16
写真4	2 G 調査状況	16
楢木沢C遺跡(5次調査)		
写真5	4 T 調査状況	18
写真6	19 T 調査状況	18
写真7	19 T 木炭竈跡調査状況	18
写真8	18 T 調査状況	18
大内館跡		
写真9	1 T 調査状況	19
写真10	3 T 調査状況	19

小山田古墳群		
写真11	2号墳 全景(西から)	22
写真12	2号墳 1 T 調査状況	22
写真13	2号墳 墳丘調査状況	22
写真14	2号墳 墓石列検出状況	22
戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡		
写真15	1 T 調査状況	24
写真16	1 T 出土遺物	24
写真17	48 T 調査状況	24
写真18	48 T 出土遺物	24
真野古墳群A地区		
写真19	1 T 調査状況	25
写真20	3 T 調査状況	25
今宮遺跡		
写真21	調査区遠景	26
写真22	4 T 調査状況	26

写真23	7 T 調査状況	26
桜井 B 遺跡 (11次調査)		
写真24	調査着手前	27
写真25	1 T 調査状況	27
桜井 B 遺跡 (12次調査)		
写真26	調査着手前	28
写真27	2 T 調査状況	28
桜井 C 遺跡 (2次調査)		
写真28	調査着手前	29
写真29	調査状況	29
高見町 B 遺跡 (4次調査)		
写真30	調査着手前	30
写真31	1 T 調査状況	30
上渋佐原田遺跡 (5次調査)		
写真32	上渋佐原田遺跡 出土遺物 (1)	32
写真33	調査着手前	32
写真34	1 T 調査状況 (1)	32
写真35	1 T 調査状況 (2)	32
写真36	S I 3 検出状況	32
写真37	上渋佐原田遺跡 出土遺物 (2)	33
三島町遺跡 (2次調査)		
写真38	1 T 調査状況	34
写真39	S D 0 1 調査状況	34
入電田遺跡 (3次調査)		
写真40	4 T 調査状況	35
写真41	18 T 調査状況	35
泉館跡 (2次調査)		
写真42	6 T 調査状況	36
写真43	9 T 調査状況	36
写真44	S K 0 1 検出状況	36
写真45	S K 0 1 完掘状況	36
萩原遺跡 (6次調査)		
写真46	調査着手前	38
写真47	1 T 調査状況	38
谷中遺跡 (2次調査)		
写真48	調査着手前	39
写真49	1 T 調査状況	39
前向遺跡		
写真50	3 T 調査状況	42
写真51	S I 0 2 ~ 0 4 検出状況	42
写真52	6 T 調査状況	42
写真53	S I 0 1 検出状況	42
写真54	前向遺跡 出土遺物 (1)	43
写真55	前向遺跡 出土遺物 (2)	44
写真56	前向遺跡 出土遺物 (3)	46

沢田館跡		
写真57	調査区全景	47
写真58	調査状況	47
内城遺跡		
写真59	調査着手前	48
写真60	3 T 調査状況	48
深野館跡		
写真61	1 T 調査状況	49
写真62	2 T 調査状況	49
梨木下西館跡		
写真63	調査着手前	50
写真64	2 T S I 1 検出状況	50
北新田本町遺跡		
写真65	1 T 調査状況	51
写真66	2 T 調査状況	51
原町区栄町地区		
写真67	2 T 調査状況	52
写真68	4 T 調査状況	52
原町区深野地区		
写真69	調査着手前	53
写真70	1 T 調査状況	53
原町区高見町地区		
写真71	1 T 調査状況	54
写真72	2 T 調査状況	54
小高区塚原地区		
写真73	2 T 調査状況	55
写真74	4 T 調査状況	55
榎内遺跡 (4次調査)		
写真75	調査着手前	57
写真76	1 T 調査状況	57
榎内遺跡 (5次調査)		
写真77	重機掘削状況	58
写真78	1 T 調査状況	58
八幡林遺跡 (11次調査)		
写真79	調査区遠景	59
写真80	調査状況	59
八幡林遺跡 (12次調査)		
写真81	調査着手前	60
写真82	1 T 調査状況	60
八幡林遺跡 (13次調査)		
写真83	3 T 遺構検出状況	70
写真84	S D 2 完掘状況	70
写真85	S I 3 調査状況	70
写真86	S I 3 調査状況(底層・翻掘部)	70

写真 87	土器出土状況	70
写真 88	S12 検出状況	74
写真 89	S12 調査状況	74
写真 90	S12-SK1 土層断面	74
写真 91	S12 調査状況(床面検出状況)	74
写真 92	台付臺出土状況	74
写真 93	1 T 全景	75
写真 94	1 T 北西壁土層断面	75
写真 95	1 T 南西壁土層断面	75
写真 96	2 T 南西壁土層断面	75
写真 97	2 T 北壁土層断面	75
写真 98	2 T 全景	75
写真 99	八幡林遺跡 出土遺物(1)	77
写真100	八幡林遺跡 出土遺物(2)	78
真野古墳群A地区(2次調査)		
写真101	調査着手前	80
写真102	調査区近景	80
写真103	調査状況	80
楢木沢C遺跡(6次調査)		
写真104	調査区遠景	82
写真105	検出状況	82
写真106	4 T 木炭焼成土坑 土層断面	82
写真107	4 T 木炭焼成土坑 調査状況	82
写真108	4 T 木炭焼成土坑 完掘状況	82
写真109	18 T 1号木炭窯跡 検出状況	82
写真110	19 T 2号木炭窯跡 検出状況	82
八郎内遺跡(7次調査)		
写真111	1 G 全景	83
写真112	1 G 断面	83
蟹内遺跡(2次調査)		
写真113	調査着手前	85
写真114	1 T 調査状況	85
写真115	5 T 分割り土層断面	85
写真116	5 T 遺構検出状況	85
桜井C遺跡(3次調査)		
写真117	1 G 調査状況	86
写真118	1 G 土層断面	86
桜井C遺跡(4次調査)		
写真119	1 T 調査状況	87
写真120	2 T 調査状況	87
桜井D遺跡(15次調査)		
写真121	1 T 調査状況	89
写真122	S101・02 検出状況	89
写真123	2 T 調査状況	89
写真124	3 T 調査状況	89
写真125	4 T 調査状況	89
桜井原畑遺跡(4次調査)		
写真126	1 T 調査状況	91
写真127	SD01 検出状況	91
写真128	S102 検出状況	91
写真129	S103 調査状況	91
写真130	S103 土層断面	91
写真131	2 T 調査状況	91
写真132	1 G 調査状況	91
堤下B遺跡(2次調査)		
写真133	1 T 調査状況	92
写真134	1 T 木炭焼成土坑検出状況	92
戸ノ内遺跡(2次調査)		
写真135	調査着手前	95
写真136	76 T 遺構検出状況	95
写真137	78 T 調査状況	95
写真138	83 T 調査状況	95
写真139	85 T 遺構検出状況	95
写真140	戸ノ内遺跡 出土遺物	96
陣ヶ崎B遺跡		
写真141	調査着手前	97
写真142	1 T 調査状況	97
信田沢古館跡		
写真143	調査着手前	98
写真144	1 T 調査状況	98
果掛場遺跡(2次調査)		
写真145	1 T 調査状況	99
写真146	2 T 調査状況	99
果掛場遺跡(3次調査)		
写真147	1 T 調査状況	100
写真148	調査区断面	100
迫合C遺跡(3次調査)		
写真149	3 T 調査状況	101
写真150	4 T 調査状況	101
切付遺跡		
写真151	調査着手前	102
写真152	1 T 調査状況	102
橋本町A遺跡		
写真153	調査状況	103
写真154	調査状況(分割り後)	103
袖原古墳群		
写真155	調査区遠景	104
写真156	3 T 調査状況	104
大穴遺跡		
写真157	2 T 調査状況	105
写真158	4 T 調査状況	105
鹿島区永田地区		
写真159	1 T 調査状況	107
写真160	1 T 土層断面	107

写真161	埋戻し状況	107	写真173	13T 木炭窯跡検出状況	112
写真162	3号墳全景(東から)	107	写真174	16T 木炭窯跡検出状況	112
写真163	4号墳全景(西から)	107	写真175	2号製鉄炉作業場	112
原町区下太田地区			原町区石神地区		
写真164	調査区近景	108	写真176	北明内地区 調査着手前	116
写真165	不時発見状況	108	写真177	北明内地区 調査着手前	116
写真166	玄室近景	108	写真178	26T S I 1 調査状況	116
写真167	精査完了状況	108	写真179	21T S I 2 調査状況	116
鹿島区大六天地区			写真180	S I 2 土器出土状況	116
写真168	調査着手前	110	写真181	赤板地区 調査着手前	117
写真169	調査状況	110	写真182	6T 調査状況	117
原町区比丘尼沢地区			写真183	北明内地区 出土遺物	117
写真170	調査着手前(南斜面)	112	原町区入道迫地区		
写真171	調査着手前(北斜面)	112	写真184	表土除去作業	118
写真172	11T 木炭窯跡検出状況	112	写真185	2T 調査状況	118

表 目 次

表1	南相馬市主要遺跡一覧表	3
----	-------------	---

第1章 南相馬市を取り巻く環境

第1節 遺跡を取り巻く環境

第1項 地理的環境

福島県南相馬市は、福島県太平洋岸の中央部やや北寄りに位置する。行政境としては、北側は相馬市、南側は双葉郡浪江町、西側は相馬郡飯館村と接する。

浜通り地方の地質は、阿武隈高地東縁部と浜通り低地帯、双葉断層（岩沼一久の浜構造線）により明瞭に区分される。

市内の地形を見ると、西部域に南北方向に連なる阿武隈高地が縦走し、そこから太平洋に向かって派生する低丘陵と丘陵間に開析された沖積平野で構成される。阿武隈高地にかかる西側の丘陵の標高は100～150mを測り、海岸部に近い市内中心付近では標高50～60m前後、海岸部では20～30mとなる



図1 南相馬市位置図

第2項 歴史的環境

南相馬市内に所在する旧石器時代の遺跡としては、大谷地遺跡(1)・畦原A遺跡(2)・畦原C遺跡(3)・熊下遺跡(4)・袖原A遺跡(5)・陣ヶ崎A遺跡(6)・南町遺跡(7)・橋本町A遺跡(8)・橋本町B遺跡(9)・桜井遺跡(10)・萩原遺跡(11)の11遺跡があり、後期旧石器時代のナイフ形石器や彫刻刀型石器を出土している。

縄文時代の遺跡では、宮後A遺跡(12)・宮後B遺跡(13)から大木7a～10式、八幡林遺跡(14)では早期から晩期までの土器が出土する。八重米坂A遺跡(15)・羽山B遺跡(16)・畦原F遺跡(17)では早期から前期の遺構・遺物が確認されており、赤沼遺跡(18)・犬道遺跡(19)でも前期の土器が出土している。中期では阿武隈高地裾部にある前田遺跡(20)や、新田川北岸の台地上にある高松遺跡(21)で大木7b～10式、植松A遺跡(22)で大木10式期の住居跡が調査されている。

太田川流域の上ノ内遺跡(23)・町川原遺跡(24)では後期の網取式が出土し、片倉の羽山遺跡(25)では晩期の大洞C1～A式、高見町A遺跡(26)では晩期中葉の土器と石罌炉をもつ住居跡が調査されている。宮田貝塚(27)・加賀後貝塚(28)・片草貝塚(29)は内陸部に位置する貝塚を伴う前期前半の集落である。前期後半以降には海岸部にある浦尻貝塚(30)や角部内南台貝塚(31)が代表的な貝塚として知られている。

第2項 歴史的環境

弥生時代としては天神沢遺跡(32)や桜井遺跡(33)が著名であるが、近年では桜井古墳(34)や川内泊B遺跡群F地点(35)で中期中葉の樹形円式土器が出土し、高見町A遺跡からは終末期の十王台式土器が出土している。

古墳時代では、古墳時代前期に新田川南岸の河岸段丘上に桜井古墳が築造され、周辺の古墳と共に桜井古墳群上渋谷佐群(36)・同高見町支群(37)を構成する。真野川流域の柚原古墳群(38)では周溝内から埴釜式土器が出土し、高見町A遺跡・桜井B遺跡(39)・東広畑B遺跡(40)でも埴釜式土器が出土している。前方後円墳である上ノ内前田古墳(41)は中期の可能性があり、真野古墳群(42)・横手古墳群(43)は円筒埴輪を伴うことから、その造営開始は中期末まで遡る可能性がある。この時期の集落は前屋敷遺跡(44)で南小泉式土器を出土する堅穴住居跡が調査されている。後期になると桜井古墳群高見町支群・真野古墳群・横手古墳群などで本格的に古墳群の造営が開始される。真野古墳群は100基を超える東北地方を代表する後期群集墳である。

後期の集落としては大六天遺跡(45)・迎畑遺跡(46)・地藏堂B遺跡(47)、片草古墳群一里壇支群(48)・中村平遺跡(49)で後期から終末期の土器が出土する。終末期の横穴墓のうち人窪横穴墓群(50)・羽山横穴墓群(51)、浪岩横穴墓群(52)は玄室内部に装飾壁画が見られ、真野川流域の中谷地横穴墓群は(53)複室構造の玄室を採用している。

奈良・平安時代の遺跡では行方郡家とされる泉官衙遺跡(泉庭寺跡)(54)があり、郡庁院・正倉院・館院などが確認されている。横手摩寺跡(55)・真野古城跡(56)・植松庵寺跡(57)・入道迫瓦窯跡(58)、京塚沢瓦窯跡(59)・犬道瓦窯跡(60)などは瓦を出土する遺跡であり、寺院や瓦を焼成した遺跡と考えられる。市内の低丘陵では製鉄に関連した遺跡が多数確認されており、金沢製鉄遺跡群(61)、蛭沢遺跡(62)・川内泊B遺跡群・出口遺跡(63)・大塚遺跡(64)・横大道遺跡・館越遺跡などで調査が進展している。集落遺跡では広畑遺跡(65)を始めとして市内各地で確認されているが、集落の具体的な構造を知るまでには至っていない。広畑遺跡からは「寺」「厨」などの墨書土器とともに灰軸陶器が出土し、隣接する泉官衙遺跡との関連が示唆される。大六天遺跡から出土した「小殿殿千之」と刻書された須恵器は、行方軍団との関わりが見られる。町川原遺跡でも墨書土器が出土しているが、広畑遺跡のような公的機関の施設名を記したものは見られず、異なった性格をもつ集落と考えられる。

主な中世の遺跡としては城館跡が挙げられ、下総国から下向した相馬氏の最初の居城となる別所館跡(66 現太田神社)や牛越城跡(67)は、相馬氏下向以前の城館跡として良く知られている。小高城跡(68 現小高神社)は相馬氏の居城として機能した中世城館である。本城跡は嘉暦元年から慶長十六年に相馬利胤が中村城を築城するまでの約290年間重要な役割を占めた。その他では泉平館跡(69)・泉館跡(70)・下北高平館跡(71)で調査が行われている。

近世の遺構は、寛文六年以降に築かれた野馬土手と、その出入口となる木戸跡や相馬氏の居城として再整備された牛越城跡がある。野馬土手は、雲雀ヶ原扇状地を囲む、東西約10km×南北約2.6kmの範囲に築かれており、土手内外の出入り口となった羽山岳の木戸跡(72)は南相馬市指定史跡に指定され、良好な形で保存されている。近世後半から近代にかけては中村藩の大規模なたたらである馬場鉄山(73)や正福寺跡(74)、法幢寺跡(75)で近世墓域の調査が行われている。

No.	遺跡名	種別	時代	No.	遺跡名	種別	時代
1	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文	41	上ノ内の田古墳	古墳	古墳
2	畦原A遺跡	散布地	旧石器	42	真野古墳群	古墳	古墳
3	畦原C遺跡	散布地	旧石器	43	横手古墳群	古墳	古墳
4	照下遺跡	散布地	旧石器	44	扇原敷遺跡	集落・散布地	縄文～古墳
5	畦原A遺跡	散布地	旧石器	45	大六天遺跡	集落・散布地	古墳～平安
6	陣ヶ崎A遺跡	散布地	旧石器	46	追旗遺跡	集落・散布地	古墳
7	南町遺跡	散布地	旧石器	47	地蔵堂B遺跡	集落・散布地	古墳
8	橋本町A遺跡	散布地	旧石器	48	片草古墳群一里塚文群	古墳・集落	古墳～平安
9	橋本町B遺跡	散布地	旧石器	49	中村平遺跡	集落・散布地	古墳
10	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生 古墳・奈良・平安	50	大塚横穴墓群	横穴墓	古墳
11	伏原遺跡	散布地・製鉄跡	旧石器・奈良・平安	51	羽山横穴墓群	横穴墓	古墳
12	宮後A遺跡	集落・散布地	縄文	52	渋谷横穴墓群	横穴墓	古墳
13	宮後B遺跡	集落・散布地	縄文	53	中谷地横穴墓群	横穴墓	古墳
14	八幡林遺跡	散布地	旧石器・縄文	54	泉官街遺跡	官衙	奈良・平安
15	八重米坂A遺跡	集落・散布地	縄文	55	横手塚寺跡	寺院	平安
16	羽山B遺跡	集落・散布地	縄文	56	真野古城跡	城館	不明
17	畦原F遺跡	住落・散布地	縄文	57	植松塚寺跡	寺院	奈良・平安
18	赤沼遺跡	集落・散布地	縄文	58	入道船瓦窯跡	窯跡	奈良・平安
19	大道遺跡	散布地	縄文	59	京塚沢瓦窯跡	窯跡・製鉄	奈良・平安
20	前田遺跡	散布地	縄文	60	金沢製鉄遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
21	高松遺跡	散布地	縄文	61	細沢遺跡	製鉄	奈良・平安
22	植松A遺跡	集落・散布地	縄文	62	川内埴B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安
23	上ノ内遺跡	散布地	縄文	63	出口遺跡	製鉄	平安
24	町川原遺跡	集落・散布地	縄文	64	大塚遺跡	製鉄	平安
25	羽山遺跡	集落・散布地	縄文	65	広原遺跡	集落・散布地	奈良・平安
26	高見町A遺跡	集落・散布地	縄文～平安	66	別所館跡	城館	中世
27	宮田貝塚	貝塚・散布地	縄文	67	牛越城跡	城館	中世
28	加賀後貝塚	貝塚・散布地	縄文	68	小高城跡	城館	中世
29	片草貝塚	貝塚・散布地	縄文	69	泉平館跡	城館・散布地	中世
30	浦尻貝塚	貝塚・散布地	縄文・平安	70	泉館跡	城館	中世
31	角部内南台貝塚	貝塚・散布地	縄文	71	下北高平館跡	城館	中世
32	天神沢遺跡	散布地	弥生	72	羽山岳の木戸跡	その他	近世
33	桜井遺跡	散布地・集落	旧石器・縄文・弥生・ 古墳・奈良・平安	73	馬場嶽山	製鉄	近世
34	桜井古墳	古墳	古墳	74	正徳寺跡	寺院	近世
35	川内埴B遺跡群	製鉄・散布地	弥生・奈良・平安	75	法徳寺跡	寺院・集落	奈良・平安・近世
36	桜井古墳群 上洪佐文群	古墳・散布地	縄文～平安				
37	桜井古墳群 高見町文群	古墳・集落	縄文～古墳				
38	袖原古墳群	古墳	古墳				
39	桜井B遺跡	集落・散布地	弥生・平安				
40	東広原遺跡	集落・散布地	弥生～平安				

表1 南相馬市主要遺跡一覧表

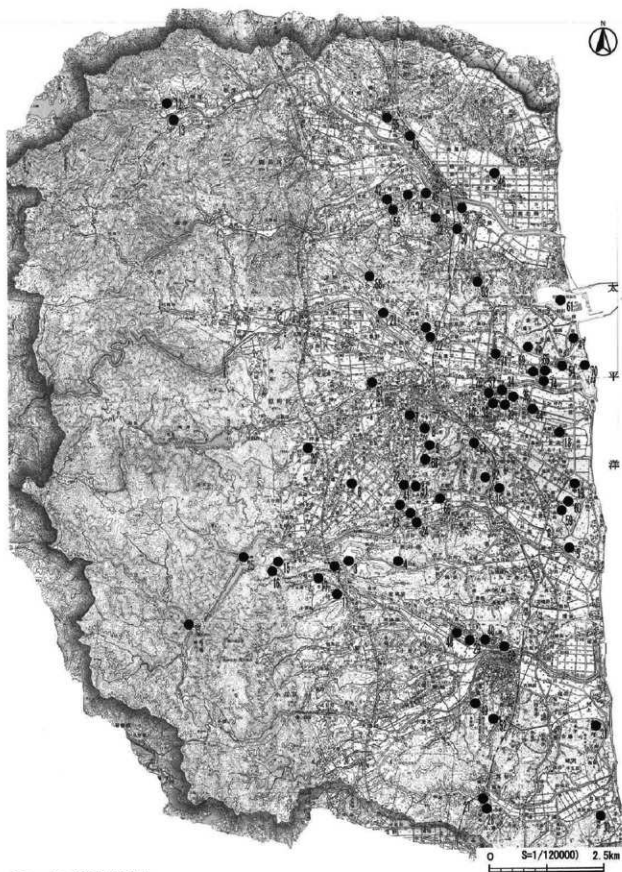


図2 主要遺跡位置図

第Ⅱ章 調査に至る経過

第1節 調査に至る経過

第1項 平成26年度 試掘調査の概要

平成26年度に、市内遺跡発掘調査事業で実施した試掘調査の多くは、東日本大震災復興事業を除いた市内各種開発に対して、保存協議の資料を得るために実施したものである。最終的な実績では、周知の埋蔵文化財包蔵地における試掘調査は24件、周知の埋蔵文化財包蔵地外の地点で実施した試掘調査は4件の、合計28件の開発計画に対して試掘調査を実施した。

開発計画の多くは、東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故の影響により避難指示解除準備区域に指定された南相馬市原町区の一部と小高区の全域を除いた、鹿島区・原町区内で計画されたものが多い。開発事業を内容別に見ると、集合住宅や個人住宅等の一般開発に係る計画が11件、土砂採取計画6件、太陽光発電施設建設計画等の民間開発5件、その他の公共事業が6件である。

個人住宅建設では、榎内遺跡・真野古墳群A地区・桜井B遺跡2地点・桜井C遺跡・高見町B遺跡・沢田館跡の6遺跡7地点で実施した。試掘調査は、事前に埋蔵文化財の有無についての照会の提出と、開発予定地内の試掘調査の実施の依頼を受けて行った。

榎内遺跡は、真野川北岸の河岸段丘面に立地する、縄文時代と弥生時代の遺物散布地である。過去に2回の調査が行われており、縄文時代後期の遺物包含層や古墳時代後期の円墳等が確認されている。本年度の試掘調査は、平成27年2月から465㎡を対象に実施した。

真野古墳群A地区は、上真野川南岸の河岸段丘面に立地する、古墳時代後期の群集墳である。古墳群の一部は国史跡真野古墳群Aとして史跡指定を受けており、過去に数回の範囲確認調査が行われている。また、古墳群の範囲と重複するように、縄文時代の集落である八幡林遺跡が所在しており、上真野川流域でも特に遺跡密度が高い地域となっている。本年度は真野古墳群A地区37号墳の史跡隣接地で住宅建設の計画があり、平成26年11月から試掘調査を開始した。

桜井B遺跡・桜井C遺跡・高見町B遺跡は、新田川南岸の河岸段丘面に立地する、縄文時代から平安時代にかけての時期の集落である。特に周辺から出土する弥生土器群や磨製石器群が良く知られており、弥生土器は桜井式土器と呼ばれ弥生時代中期後葉の標式土器となっている。本年度は、桜井B遺跡2地点・桜井C遺跡1地点・高見町B遺跡1地点の個人住宅建設に対して試掘調査を実施した。桜井B遺跡は平成26年10月と平成27年3月、桜井C遺跡は平成26年12月、高見町B遺跡は平成27年3月に試掘調査を実施した。

沢田館跡は、新田川北岸の沖積低地内に立地する中世城館として周知されている遺跡である。過去の調査経過はない。現在でも城館の痕跡を示す縄張り等は明確ではないが、一部に土塁状の痕跡が確認され、本年度は遺跡西部の147㎡を対象に、平成26年9月に試掘調査を実施した。

第1項 平成26年度 試掘調査の概要

集合住宅建設では、八幡林遺跡・三島町遺跡・北新田本町遺跡の3遺跡において、開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて試掘調査を行った。

八幡林遺跡は、上真野川南岸の河岸段丘面に立地する、縄文時代から古墳時代のかけた時期の集落である。過去に7回の試掘調査が実施されており、縄文時代中期後葉や晩期、古墳時代前期の集落、古墳時代後期の古墳等が確認されている。本年度は、遺跡南東部で計画された約400㎡に対して、平成26年4月から試掘調査を実施した。

三島町遺跡は、新田川中流域の河岸段丘面に立地する、古墳時代と奈良時代の遺物散布地である。過去に1回の試掘調査が行われているが、遺跡の詳細については分かっていない。本年度は約236㎡を対象に試掘調査を実施し、平成26年4月から着手した。

北新田本町遺跡は、新田川中流域南岸の沖積低地内に立地する、縄文時代・古墳時代・近世の遺物散布地である。過去の調査経歴はなく、遺跡の内容については判明していない。本年度は約2,250㎡の集合住宅建設計画に対して、平成27年3月に試掘調査を実施した。

人内館跡・戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡・入竜田遺跡・内城遺跡・梨木下西館跡・深野地区の7地点は、民間土砂採取計画に対して試掘調査を実施した遺跡である。試掘調査は開発予定地内における埋蔵文化財の有無についての照会文の提出、ならびに開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けたことから実施した。

大内館跡は、真野川南岸の丘陵上に立地する中世城館である。過去の調査歴はなく遺跡の詳細は不明であるが、館主は戦国以前の相馬氏の一族とされる泉氏の傍統で、大内三郎胤玄とされている。現状では丘陵の一部に土塁や虎口、郭等が遺存しているが、本年度はこれらの城館の各施設が所在する尾根の、谷を挟んだ別尾根付近で計画された土砂採取計画に対して、平成26年10月に試掘調査を実施した。

戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡は、大日川南岸の低丘陵上に立地する、縄文時代前期の集落と平安時代の製鉄遺跡である。当初、本地域は周知の埋蔵文化財包蔵地には登録されていなかったが、現地踏査と試掘調査の結果を踏まえて埋蔵文化財包蔵地に増補されている。本地区では丘陵の西部約8haが土砂採取の計画地となり、現地踏査で平安時代の製鉄にかかわる廃滓場が確認されたことにより試掘調査を実施した。試掘調査は平成26年12月から着手した。

入竜田遺跡は、新田川北岸の低丘陵に立地する、縄文時代と弥生時代の遺物散布地である。近年の分布調査では、当丘陵付近において古代の製鉄にかかわる遺構等も確認されている。本年度は遺跡内の約1haの範囲で土砂採取が計画されたことにより、平成26年7月から試掘調査を実施した。

内城遺跡は、阿武隈高地裾部に立地する、平安時代の遺物散布地である。過去の調査経歴はなく遺跡の内容については不明である。本年度は遺跡東端の低丘陵部の約6,000㎡が土砂採取の計画地とされたことから、平成26年7月から試掘調査に着手した。

梨木下西館跡は、太田川北岸の低丘陵に立地する中世城館である。過去の調査歴はなく遺跡の内容は不明である。幕末に編纂された奥相志には「古館 梨木下にあり。高さ八丈、東西三二間、南北二二間 古昔大甕右近寄り。右近は大甕佐渡胤忠次男」、または「古館 梨木下に

あり、高さ七丈、東西二三間、南北二八間。古昔武石讃岐居り。武石氏は千葉介常胤三男武石三郎胤盛に出で、聖世奥州亙理郡主たり。」と、梨木下地内には大甕氏と武石氏の館があったことが記載されている。これらの館の所在については判明していないものの、今年度の調査対象地付近を梨木下西館跡、市道を挟んだ南側一帯を梨木下東館跡としている。本年度は、梨木下西館跡の南東部付近で計画された土砂採取計画範囲の一部が、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれることから、事前に試掘調査を実施した。試掘調査は平成26年12月から実施した。

深野地区で計画された土砂採取は、周知の埋蔵文化財包蔵地外における開発計画である。土砂採取範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地外であったものの、周辺には古代の製鉄にかかわる遺構等が確認されていることから、改めて試掘調査を実施することとした。試掘調査は約6,000㎡を対象として平成27年2月から実施した。

今宮遺跡・荻原遺跡・谷中遺跡・前向遺跡で実施した試掘調査は、民間事業所等の建設計画に対するものである。今宮遺跡は、真野川上流域の河岸段丘縁地に立地する、縄文時代の遺物散布地である。工場用地造成計画に対して、平成26年11月に試掘調査実施した。荻原遺跡は、北鳩原川上流域の丘陵上に立地する、縄文時代の遺物散布地である。近年、常磐自動車道建設における発掘調査では、縄文時代の遺構・遺物のほかに旧石器や奈良時代から平安時代の製鉄に関連する遺構・遺物等も発見されている。本年度は、携帯電話中継無線基地局建設に伴い約86㎡を対象に試掘調査を実施した。

谷中遺跡は、新田川北岸の沖積地内に立地する、弥生時代から平安時代の遺物散布地である。過去には、ほ場整備事業に伴う試掘調査が行われており、古墳時代を中心とした遺物が出土している。本年度は民間事業所の駐車場造成計画に対して試掘調査を実施した。試掘調査は約1,000㎡を対象として、平成26年12月に実施した。

前向遺跡と深野館跡で実施した試掘調査は、太陽光発電施設建設計画に伴うものである。前向遺跡は、武須川南岸の微高地上に立地する古代の集落遺跡である。試掘調査以前は周知の埋蔵文化財包蔵地には登録されていなかったが、試掘調査で奈良時代から平安時代の遺構・遺物等が確認されたことから、前向遺跡として埋蔵文化財包蔵地台帳に増補された。試掘調査は太陽光発電施設建設範囲の約1haを対象とし、平成26年5月から開始した。

深野館跡は、新田川上流域の低丘陵部に立地する中世城館である。奥相志には「古館跡 高さ三丈、東西六十間、南北三十間 この地を館と曰う。往古深野大学居り。大学は岡田安房義胤の晩息、初め岡田弥次郎保平と号す。」との記載があり、埋蔵文化財包蔵地に登録されている。今年度の試掘調査は約2.2haを対象地として、平成26年11月から試掘調査を実施した。

公共事業では、鍛木沢C遺跡において常磐自動車道鹿島サービスエリア駐車場拡張造成計画の約4,500㎡、荒廃した森林の再生のための森林再生事業に対する小山田古墳群の約6ha、泉館跡周辺の除染土壌等仮置場造成計画の約2.2ha、上渋佐原田遺跡の市道拡幅改良計画に対する約550㎡、原町区高見町地内の南相馬防災センター建設計画に対する約7,500㎡、災害公営住宅建設原町区栄町地内の約5,600㎡、小高区塚原地区の海岸防災林造成計画の約1,300㎡に対して試掘調査を実施した。

第1項 平成26年度 試掘調査の概要

鍛木沢C遺跡は、阿武隈高地東縁の山間部に立地する製鉄遺跡である。過去に数回の発掘調査が行われており、平安時代の製鉄炉跡や木炭窯跡等が調査されている。本年度はサービスエリア駐車場拡張計画に対して、平成27年3月に試掘調査を実施した。

小山田古墳群は、大日川北岸の丘陵上に立地する古墳群である。丘陵尾根には3基の古墳が認められており、また丘陵南向き斜面にも複数の横穴墓が確認されている。古墳群はこれまでに発掘調査等の経歴はなく、古墳群の詳細については不明であるが、古墳群の中には大きな石材が露呈しているものがある。今年度は古墳の分布確認と試掘調査として、平成27年2月に実施した。

泉館跡は、新田川河口城北岸に展開する低丘陵上の築城された中世城館である。奥相志には「古塁高さ五丈余。東西五十間、南北三十間 館前にあり」とされ、また館主は相馬氏の一族である泉氏であること、元亨年間に相馬重胤の奥州下向に従い、累代にわたり本地を居城としたことが知られている。これまでに1回の試掘調査が行われており、平安時代の竪穴住居跡や中世の根小屋と推定された掘立柱建物跡、井戸跡などが確認されている。本年度の試掘調査は城館範囲の北側隣接地周辺を対象として、平成26年7月から実施した。

上佐原田遺跡は、新田川南岸に広がる河岸段丘面に立地する、奈良時代・平安時代の集落である。過去に数回の試掘調査・発掘調査等が実施され、掘立柱建物跡や竪穴住居跡などが調査されている。本年度は防災集団移転促進事業に関連した市道拡幅改良計画に対して試掘調査を行った。試掘調査は平成26年11月に実施した。

原町区栄町地区・原町区高見町地区・小高区塚原地区で実施した試掘調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地外における調査である。原町区栄町地区では災害公営住宅建設に対して埋蔵文化財の有無を確認するため、原町区高見町地区では南相馬防災センター建設計画に対して、埋蔵文化財の有無を確認するために実施した。原町区栄町地区は平成27年3月、原町区高見町地区は平成26年11月に試掘調査を実施した。小高区塚原地区では、海岸防災林造成計画に対して平成26年9月から試掘調査を実施した。

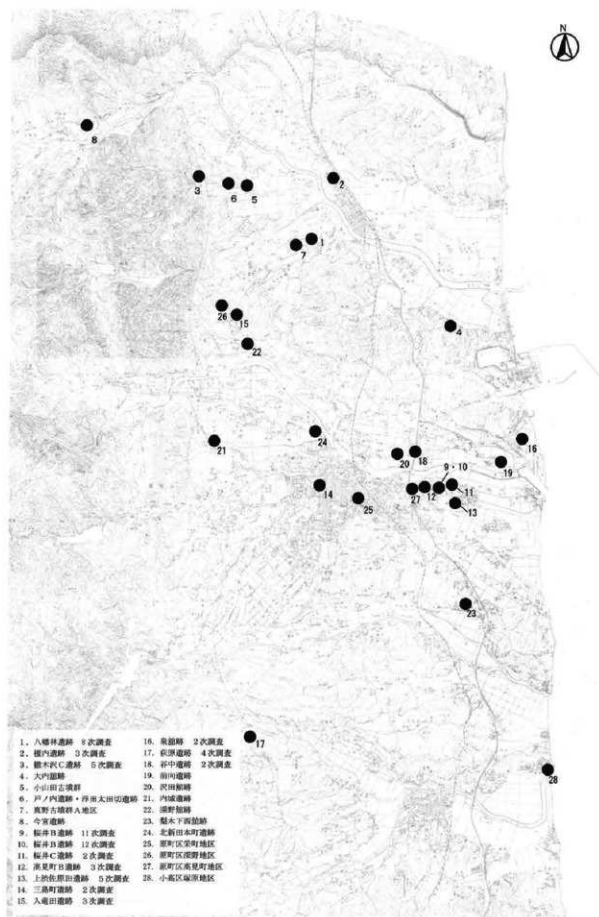


図3 平成26年度 調査遺跡位置図

0 (S=1/100000) 20m

第2項 平成27年度 試掘調査の概要

平成27年度に市内遺跡発掘調査で実施した試掘調査は、市内における各種開発計画に対する保存協議の資料を得るために行った。最終的な実績では、周知の埋蔵文化財包蔵地内で19遺跡24地点、周知の埋蔵文化財包蔵地外で6地点の合計30地点で試掘調査を実施した。

開発計画の多くは、原町区と鹿島区内におけるものが大多数を占め、小高区内に計画されたものは1件を数える程度で、昨年度に引き続き原子力発電所事故による避難指示等の影響が続いている。

試掘調査を開発内容別に見ると、個人住宅建設が10件、集合住宅建設が3件と居住環境整備に関連するものが13件を数え、次いで土砂採取計画に関するものが9件となり、昨年度と比べると土砂採取計画が増加傾向にある。公共事業に関連するものは7件、その他の民間開発に伴うものは1件の合計30件の開発計画となっている。

個人住宅建設に関連するものでは、榎内遺跡1地点・八幡林遺跡2地点・真野古墳群A地区1地点・八郎内遺跡1地点・桜井C遺跡2地点・桜井原畑遺跡1地点・陣ヶ崎B遺跡1地点・切付遺跡1地点の合計8遺跡10地点で、事前に開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて試掘調査を実施した。

榎内遺跡は、真野川北岸の河岸段丘面に立地する、縄文時代と弥生時代の遺物散布地である。過去に2回の発掘調査が行われ、縄文時代後期の遺物包含層や古墳時代後期の円墳等が確認されている。本年度は213㎡を対象として、平成28年3月から試掘調査を実施した。

八幡林遺跡は、上真野川南岸の河岸段丘に立地する、縄文時代から古墳時代のかけた時期の集落である。過去に10回の試掘調査が実施されており、縄文時代中期後葉や晩期、古墳時代前期の集落、古墳時代後期の古墳等が確認されている。本年度は個人住宅等建設に対して、12次調査と13次調査を実施した。12次調査は293㎡を対象に平成27年6月に実施し、13次調査は611㎡を対象に平成27年6月から着手した。

真野古墳群A地区は、上真野川南岸に広がる河岸段丘上に立地する、古墳時代後期の群集墳である。過去に数回の範囲確認調査等が行われ、古墳群の一部が国史跡真野古墳群Aとして史跡指定を受けている。また、古墳群の範囲と重複するように縄文時代の集落である八幡林遺跡が所在しており、上真野川流域でも特に遺跡密度が高い地域である。本年度は昨年度の個人住宅建設に付帯する物置等の建設に伴い、史跡周辺の測量図作成と試掘調査を実施した。試掘調査は約900㎡を対象として、平成27年7月に実施した。

八郎内遺跡は、真野川東岸の沖積地に所在する遺物散布地である。過去に6回の試掘調査が行われているが、遺跡の内容等については解明していない。本年度は386㎡を対象として平成27年11月に試掘調査を実施した。

桜井C遺跡は、新田川南岸に広がる河岸段丘の縁辺に立地する、弥生時代から平安時代の遺物散布地である。過去に数回の試掘調査が行われているが、現段階では明確な集落等は把握されていない。本年度は2次調査・3次調査の2回の試掘調査を行った。2次調査は330㎡を対

象として平成27年9月に着手し、3次調査は平成27年10月から約310㎡を対象地として試掘調査を行った。

桜井原畑遺跡は、新田川南岸の河岸段丘縁辺に立地する遺物散布地である。過去に3回の試掘調査が実施されており、平安時代を中心とする時期の竪穴住居跡等が確認されている。本年度は平成27年5月から584㎡を調査対象にして試掘調査を実施した。

陣ヶ崎B遺跡は、雲雀ヶ原扇状地の中央付近に立地する、縄文時代の遺物散布地である。過去の調査歴はなく、遺跡の内容については判明していない。本年度は485㎡を対象に試掘調査を実施し、平成27年5月に試掘調査に着手した。

切付遺跡は、雲雀ヶ原扇状地の西端付近に立地する、奈良時代から平安時代の遺物散布地である。過去の調査歴はなく遺跡の内容は判明していない。本年度は472㎡を対象に試掘調査を実施し、平成27年7月から試掘調査を行った。

集合住宅建設に対しては、榎内遺跡・桜井D遺跡・橋本町A遺跡の3遺跡で、開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて、試掘調査を実施した。榎内遺跡は、過去に3回の試掘調査が行われており、縄文時代後期の遺物包含層や古墳時代後期の円墳などが確認されている。本年度は遺跡南東部の約1,600㎡を対象に、試掘調査を行った。試掘調査は平成27年4月から着手した。

桜井D遺跡は、新田川南岸の河岸段丘縁辺に立地する、縄文時代から平安時代の集落である。近隣には、桜井B遺跡や桜井C遺跡などが所在している。過去に14回の発掘調査等が実施されており、平安時代を中心とした時期の集落が確認されている。本年度は平成27年9月から、約3,000㎡を対象として試掘調査を実施した。

橋本町A遺跡は、雲雀ヶ原扇状地のほぼ中央に立地する、旧石器時代の遺物散布地である。過去に試掘調査が実施された経過はないものの、表面採取により後期旧石器時代の彫刻刀形石器や石刃、尖頭器等が得られている。今年度を実施した試掘調査は約450㎡を対象として、平成27年7月に行った。

土砂採取計画に対しては、堤下B遺跡・戸ノ内遺跡・信田沢古館跡・迫合C遺跡・袖原古墳群・鹿島永田地区・原町区比丘尼沢地区・原町区石神地区・原町区入道泊地区の、5遺跡4地点の合計9地点で試掘調査を実施した。試掘調査は、事前に開発予定地内の埋蔵文化財の有無についての照会文の提出を受けて現地踏査を実施し、その結果に基づいて提出された開発予定地内における試掘調査の実施についての依頼を受けて行った。

堤下B遺跡は、新田川北岸の低丘陵上に立地する、弥生時代と奈良時代から平安時代の遺物散布地である。過去に1回の試掘調査が実施されているが、遺跡の内容については判明していない。本年度は約9,700㎡を対象として、平成27年4月から試掘調査を行った。

戸ノ内遺跡では、昨年度の実施した土砂採取計画の試掘調査に継続して、更に詳細な遺構分布を把握するために試掘調査を実施した。本年度は、縄文時代前期の遺構が確認された丘陵頂部平坦部と丘陵斜面の約2.2haを対象として、平成27年4月から試掘調査を開始した。

信田沢古館跡は、阿武隈高地の東縁裾部付近の低丘陵に立地する城館跡として周知の埋蔵文

第2項 平成27年度 試掘調査の概要

化財包蔵地台帳に記載されている。遺跡の詳細については不明であるが、奥相志には「山第古此の地を外城と曰ふか。北の方中垣。旧井有り。岡田氏此の地に居り用ひし所の井なりと云う。之を殿の井戸と称す。」と岡田氏の館跡との伝承と伝えるとともに、「古第 花生池に在り。白小路新左衛門なる者の居址なりと云う。」と白小路氏の館の存在も伝えている。現在ではこれらの館跡の痕跡を残すものはなく、館の場所や内容については分からない。本年度は遺跡の東向き斜面の約8,000㎡が開発計画地とされたため、平成27年6月から試掘調査を実施した。

追合C遺跡は、真野川と新田川に挟まれた範囲に展開する低丘陵部に立地する、弥生時代と奈良時代・平安時代の遺物散布地である。過去に2回の試掘調査が実施されており、弥生時代中期の桜井式期の土器棺墓や、平安時代の木炭焼成土坑などが調査されている。本年度は、遺跡内の約9,600㎡の範囲が土砂採取の計画地とされたため、試掘調査を実施した。試掘調査は平成28年1月から行った。

袖原古墳群は、太田川北岸の低丘陵に立地する古墳群として埋蔵文化財包蔵地台帳に記載されている。現状では古墳と見られる遺構の存在は確認できず、遺跡の内容については判明していない。本年度は遺跡範囲内の約6,000㎡で土砂採取の計画が策定されたことから、平成27年6月に試掘調査を実施した。

鹿島区永田地区・原町区比布尼沢地区・原町区石神地区・原町区入道迫地区の4地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地外で計画された土砂採取事業である。これらの計画に際しては、周辺の遺跡の分布状況から、当該地内においても埋蔵文化財の存在が示唆されたことから、開発予定地内の埋蔵文化財の有無についての照会文の提出を受けて現地踏査を実施し、その結果を踏まえて開発予定地内の試掘調査の実施についての依頼を受けて試掘調査を実施した。

鹿島区永田地区で実施した試掘調査は、真野川の北側に広がる低丘陵で計画された土砂採取に対して実施した。試掘調査は、対象となる丘陵の尾根部に前方後円墳と見られる古墳2基と円墳と見られる古墳2基、土塁状の地形等が確認されたことや、尾根の北側に開折した谷部に大規模な廃滓場が確認されたことから、試掘調査を実施した。試掘調査時期は平成28年3月末であったことから、本年度は事業地内の下草除去ならびに補足的な調査区を設定した事前調査として行った。試掘調査は約7.4haを対象として平成28年3月に行った。

原町区比布尼沢地区は、新田川中流域北部の低丘陵で計画された土砂採取に対する試掘調査である。当該地も周知の埋蔵文化財包蔵地への登録はなされていなかったが、開発予定地内における埋蔵文化財の有無についての照会文の提出を受けて現地踏査を実施した結果、事業地内で古代の製鉄にかかわる廃滓場を確認したため、引き続き試掘調査を実施した。試掘調査は土砂採取計画範囲の約9,600㎡を対象とし、平成27年7月から現地作業を開始した。

原町区石神地区は、水無川上流域北部の低丘陵部で計画された土砂採取に対して実施した試掘調査である。当該地では4.3haの範囲が土砂採取計画地となり、事前の現地踏査では近接する範囲に大規模な廃滓場や木炭窯跡と見られる窪地などを確認したことから、事前に試掘調査を実施して遺構の分布状況の確認を行った。試掘調査は平成27年7月から着手した。

原町区入道迫地区は、新田川と真野川に挟まれる低丘陵部で計画された土砂採取である。周

圃には、奈良時代から平安時代の瓦陶兼業窯跡である入道迫瓦窯跡が所在していることから、平成27年5月に事業範囲の約7,800㎡を対象とした試掘調査を行った。

大穴遺跡では、太陽光発電施設建設のために試掘調査を行った。遺跡は北鳩原川南岸に延びる低丘陵部に立地し、縄文時代の遺物散布地として埋蔵文化財包蔵地台帳に記載されている。開発計画は遺跡範囲を含む約13.5haにも及ぶ大規模であったが、事前協議では太陽光ソーラーパネルの設置範囲は地面の掘削が及ばないことから、改めた試掘調査の必要はないと判断し、造成等の工事が行われる付帯施設部分について試掘調査を実施した。試掘調査は平成27年4月に行った。

その他は、市内各所で計画された公共事業に対する試掘調査である。八幡林遺跡では排水用水路設置に伴い、約100㎡を対象とした試掘調査で、平成27年5月に作業を行った。榎木沢C遺跡は、昨年度に実施した5次調査の継続調査である。調査内容は試掘調査範囲の測量図作成を中心に実施し、平成27年6月に行った。

鷲内遺跡は、真野川南岸の沖積地に立地する、縄文時代の遺物散布地である。近年、隣接地の中才遺跡では、縄文時代後期から晩期にかけた時期の遺物包含層や貯蔵穴などが確認されている。試掘調査は、福島県立養護学校建設のための敷地造成に先立ち、平成27年11月から現地調査を開始した。

巢掛場遺跡は、新田川南岸に広がる雲雀ヶ原扇状地に立地する、奈良時代から平安時代の遺物散布地である。過去に発掘調査が実施され古代の溝跡が確認されているが、遺跡の詳細については分かっていない。今年度は、市道改良と公立双葉准看護学院建設に伴い2次調査と3次調査を実施した。2次調査は平成27年6月、3次調査は平成28年2月に行った。

鹿島区大六天地区は、真野川西岸に発達した河岸段丘から沖積地にかけての範囲に立地する。試掘調査は、南相馬消防鹿島分署建設計画に対するもので、近隣には古墳時代後期から平安時代にかけての遺構・遺物が多量に調査された大六天遺跡が所在していることから、本地区にも大六天遺跡に関連する遺構が広がっている可能性が示唆されたために試掘調査を実施した。調査は平成27年8月に着手した。

原町区下太田地区の試掘調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地外における工業団地造成中に、横穴墓が不時発見されたことから実施した調査である。遺跡は太田川と新田川に挟まれた低丘陵部にあり、近隣には西廻東迫横穴墓群や西迫遺跡等の横穴墓や、奈良時代から平安時代の製鉄遺跡である川内迫B製鉄遺跡群・蛭沢製鉄遺跡群が所在している。本年度は、発見された横穴墓群の確認と養生作業を実施した。作業は平成28年1月に行った。

第2項 平成27年度 試掘調査の概要

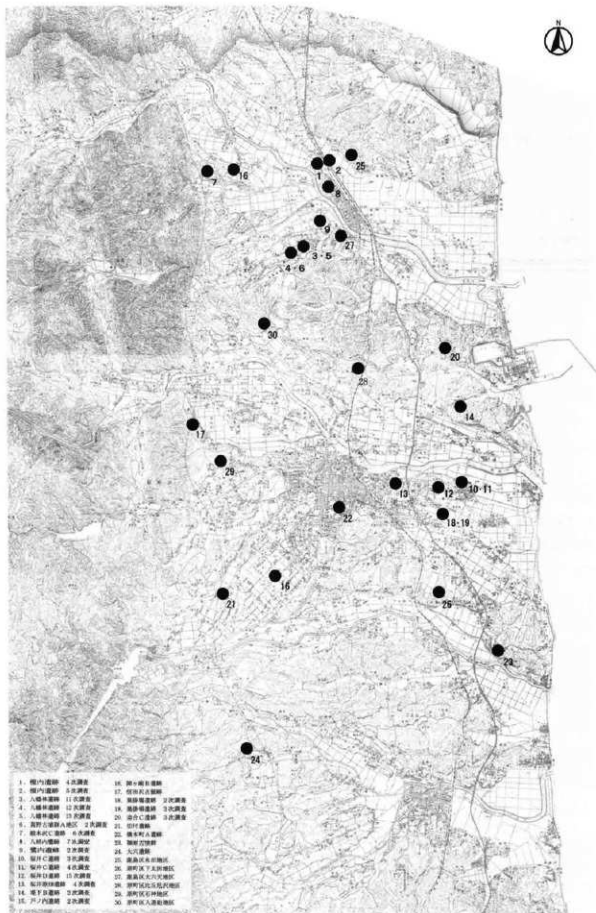


図4 平成27年度 調査遺跡位置図

0 (S=1/100000) 25m

第三章 調査成果

第1節 平成26年度試掘調査成果

第1項 八幡林遺跡（8次調査）

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内
3. 調査期間 平成26年4月3日
4. 調査対象面積 400㎡
5. 調査面積 12㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 試掘調査では、開発予定範囲内の1箇所に調査区を設定して埋蔵文化財の確認を行った。調査では厚さ約30cmの砕石等を含む表土を除去し、黄色ロームの基盤層に達したが、遺構等は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、保存協議を要する埋蔵文化財を確認されなかったことから、保存協議は要せず、慎重な工事施工が望ましい。

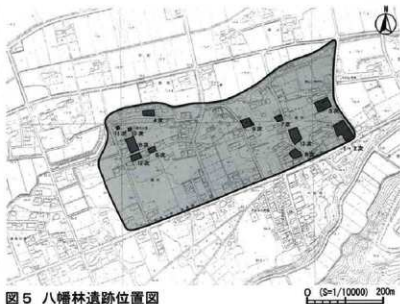


図5 八幡林遺跡位置図



図6 調査区位置図



写真1 調査着手前



写真2 1T 調査状況

第2項 榎内遺跡（3次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区横手字北ノ内地内
3. 調査期間 平成27年2月26日
4. 調査対象面積 465.88㎡
5. 調査面積 2㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定範囲内に1×1mの調査区を2箇所に設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では現地表面から50～80cmで基盤層の暗褐色シルト黄色ロームに達し、基盤層上面で時期不明の土坑が検出された。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、土坑が確認されたことから、本地区内で掘削を伴う工事を施工する場合には保存協議を要する。また、保存協議の結果、埋蔵文化財に影響があると判断される場合には、事前に記録保存のための発掘調査が必要となる。



図7 榎内遺跡位置図

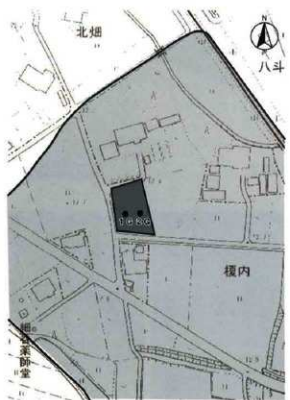


図8 調査区位置図



写真3 1G 調査状況



写真4 2G 調査状況

第3項 榎木沢C遺跡（5次調査）

1. 調査原因 鹿島SA駐車場造成
2. 調査地点 南相馬市鹿島区
浮田字榎木沢地内
3. 調査期間 平成27年3月24日～
3月27日
4. 調査対象面積 4,500㎡
5. 調査面積 220㎡
6. 調査担当 主任文化財事 藤木 海
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に調査区を30箇所に設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。



図9 榎木沢C遺跡位置図

- 調査では、現地表面から約25～80cmの深さで、基盤層（遺構検出面）に到達した。4 Tでは時期不明の木炭焼成土坑1基、18 Tと19 Tで木炭窯跡を確認した。また30 Tでは現地表面から約40cmの深さの基盤層上面で、炭化物と土砂が混合した黒色土層、焼土と土砂が混合した赤褐色土層の広がりを確認した。
8. 調査所見 本遺跡は標高60mほどの低丘陵に立地し、東側から入り込む数条の谷の斜面毎に、平安時代の製鉄関連遺構が展開することが把握されている。

今回、調査対象となった範囲は丘陵の南西部を構成する尾根と、尾根の西から南斜面、および北斜面の一部である。

今回の調査で検出された遺構は、いずれも製鉄の操業に伴うものである可能性が高い。

4・7・30 Tを設定した範囲は、東側から入り込む谷の谷頭付近から北向き斜面にあたる。対面する南向き斜面には製鉄炉に伴う廃滓場が確認されており、製鉄の操業の中心は、この廃滓場付近にあったと推定される。

一方、4・7・30 Tで出土した製鉄関連の遺構・遺物はごく少量であることから、上記した製鉄炉の操業に伴って生じた鉄滓や焼土・炭化物などが、斜面の流出土に混じって2次的に堆積したものである可能性が高い。



図10 調査区位置図

第3項 穀木沢C遺跡（5次調査）

近接する6T・29Tでは、製鉄関連の遺構・遺物が全く確認されなかったことから、周辺における関連遺構の存在は極めて希薄な状態と考えられることから、4Tで検出された木炭焼成土坑以外に明確な遺構は存在しないと考えられる。

調査対象地の北西部にあたる西向き斜面に設定した18・19Tでは、木炭窯跡とみられる遺構が2基並列して確認されたが、周辺に設定した他の調査区では遺構・遺物は確認されなかったことから、これ以外に関連遺構の広がりはないと判断される。

以上のような調査結果から、今回の開発計画地内では一部に埋蔵文化財が所在することから、その部分について開発を行う場合には、保存協議が必要である。



写真5 4T調査状況



写真6 19T調査状況



写真7 19T木炭窯調査状況



写真8 18T調査状況

第4項 大内館跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市鹿島区大内字南館下地内
3. 調査期間 平成26年10月9日～平成26年10月10日
4. 調査対象面積 9,748m²
5. 調査面積 40m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査は、地形観察および調査区を設定して実施した。地形観察では、調査地点は丘陵先端にあり、城館等の縄張り等は観察されなかった。また、開発範囲内の4箇所調査区を設定して行った試掘調査では、尾根筋の1・3 Tでは厚さ約20cmの表土を除去し、基盤層となる砂質土に到達した。3 Tでは少量の弥生土器片と土師器片が出土したが、周囲に遺構等は確認されなかった。尾根斜面の1・4 Tでは、厚さ約20cmの表土の下層に明褐色砂質土が堆積し、約60cmの深さで基盤層と考えられる砂質土に達したが、基盤層を確認する過程では、埋蔵文化財の存在を示す遺構・遺物は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において少量の土器が出土したものの、保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図11 大内館跡位置図



図12 調査区位置図



写真9 1 T 調査状況



写真10 3 T 調査状況

第5項 小山田古墳群

1. 調査原因 森林再生事業
2. 調査地点 南相馬市鹿島区小山田字戸ノ内地内
3. 調査期間 平成27年2月9日～平成27年2月20日
4. 調査対象面積 60,000㎡
5. 調査面積 12㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人・文化財主査 齋藤貴史（茨城県支援）
文化財主事 中居和志（京都府支援）

7. 調査成果 本年度の小山田古墳群の試掘調査は、開発計画地内の表面観察と調査区を用いて実施した。事前の表面調査では、古墳群が立地する丘陵の尾根上の4箇所、古墳と想定される塚状の地形を認め、更に古墳が所在する丘陵の南斜面には、一部開口した複数の横穴墓を確認した。



図13 小山田古墳群位置図

墳丘を有する古墳は、丘陵の頂部の平坦面に位置するものから、尾根筋を東側に向かって1号墳・2号墳・3号墳・4号墳とした。これらの古墳については、詳細な墳丘測量図の作成を行っていないため、表面観察に基づく概要について記しておく。

1号墳：丘陵頂部の平坦面に造営された円墳である。墳丘規模は直径約20mを計測し、墳丘の周囲には幅約5m前後の周溝と想定される地形変化が観察される。墳頂平坦面には主体部を構成していたと想定される大形の石材が複数露出している。

2号墳：1号墳から尾根筋に沿って、東側約60mの地点に造営された古墳である。当初は直径約12m程度の円墳と見られたが、墳丘の南東側に一段低く造作された平坦面があることから、東側に造出しもしくは前方部を有する前方後円墳の可能性もある。この部分を含めた全長は、約20mを計測する。尾根上には、周溝や切り離しの痕跡は確認できない。

本古墳については、開発計画との協議資料を得るために、墳丘北側斜面に調査区を設定した試掘調査を実施した。墳丘面を確認するまでの堆積土は、黒色腐植土の表土以下、にぶい黄褐色土が堆積し、その下層には黄褐色土塊や明褐色土塊を含むにぶい黄褐色土が部分的に存在する。これらの層の下層で墳丘盛土や葺石を検出した。葺石部分については、葺石の状況をより明確にするため西半を断割っている。

墳頂部では、褐色土に礫を含む墳丘盛土を確認し、また調査区に直交する範囲には墳丘盛土に比べて炭化物や円礫を多く含む土層が、幅約75cmの範囲に分布しており、埋葬施設

の陥没坑内に堆積した自然堆積最上層の可能性はある。

墳丘裾部では、幅約1.2m分の葺石を検出した。葺石は、北端の墳裾では列石状に並び、南端の墳丘側では積石状となる。列石と積石の間には石材がまばらな部分があり、テラス状となっている。テラス内側の積石は、現状で2～3石分を積み上げているが、密着せずに間に土が充填されている部分もある。石材の材質は、地山に由来する軟質堆積岩が半数以上を占め、残りがチャートや花崗岩である。

葺石の北側となる斜面下位では、基盤層を確認した。葺石列下位は約2mの範囲で緩斜面が続くが、約2m地点を過ぎた付近で急傾斜に変化する。傾斜の緩やかな部分は墳丘を取り囲むように広がる所想定されることから、墳丘裾部の平坦面の可能性はある。

3号墳：2号墳の東側約50m地点に造営された古墳である。本古墳も当初は直径10m程度の円墳と見られていたが、その後、墳丘西側に前方部状に造作された平坦面を認めたため、西側に前方部もしくは造出しを持つ前方後円墳の可能性もある。この造り出し部分を含めた古墳の全長は約20mを計測する。

4号墳：3号墳の更に東側約30mの地点にあり、本古墳群で最も標高を下げた地点にある。現状では直径約10mの円墳と見られる。

8. 調査所見 小山田古墳群は、真野川と大日川に挟まれた東西に延びる丘陵の東端に立地する、古墳時代後期の古墳群である。

本古墳群の範囲内における地表面観察では4基の古墳を確認し、中でも2号墳と3号墳は小規模ながらも前方後円墳の可能性も示唆される。4基の古墳の墳丘はいずれも高さ約2～3m程度が残存し保存状況は良好である。

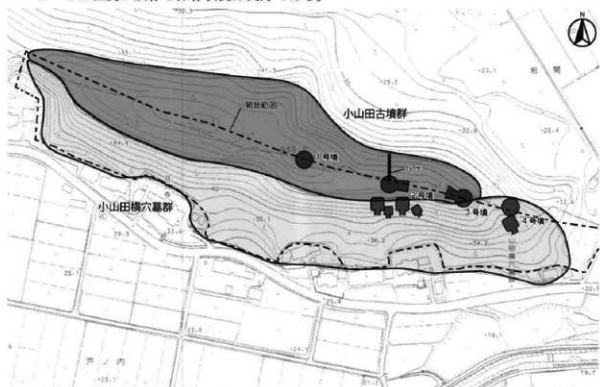


図14 古墳・横穴墓群分布図

第5項 小山田古墳群

2号墳の試掘調査では、墳丘裾部で検出した葺石列は、崩落石の数量からみると墳丘全面を覆っていたとは考えにくく、墳丘裾部を斜巻状に巡るものと想定される。それでも、葺石を有する古墳は南相馬市内で初めての検出であり、本古墳が本格的な内容を備えた古墳であることが確認された意義は大きい。

本古墳群の立地する丘陵の南斜面には数十基で構成される小山田横穴墓群が存在している。今回確認できた横穴墓のうち、開口しているもののなかには、玄室長約4mの穹窿天井をもつものが見られる。

本古墳群は、大型の円墳である1号墳と前方後円墳の可能性がある2号墳・3号墳に、小規模な円墳を加えた内容であることが判明した。さらに、古墳群の南側に市内有数の規模と内容をもつ小山田横穴墓群が存在していることを含めると、この丘陵一帯が長期にわたって有力者の墓域として利用されていたと評価されよう。

なお、古墳群・横穴墓群とも保存状況は極めて良好であることから、現状保存が望ましいが、開発等により古墳群ならびに横穴墓群への影響が想定される場合には、保存協議ならびに発掘調査を要するものと判断される。



写真11 2号墳 全景(西から)



写真12 2号墳 1T調査状況



写真13 2号墳 墳丘調査状況



写真14 2号墳 葺石列検出状況

第6項 戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市鹿島区
小山田字戸ノ内ほか
3. 調査期間 平成26年12月15日～
平成27年2月27日
4. 調査対象面積 81,782㎡
5. 調査面積 455㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 藤木 海
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に幅1m×長さ任意の調査区を72箇所に設定し、埋蔵文化財の有無を確認した。

試掘調査の結果、開発対象範囲の北東側から入り込む谷部を中心に設定した1・7・9・10・72Tでは、現地表面から40～80cmの深さで奈良・平安時代の製鉄に関連する遺構・遺物を確認し、開発対象地西部の丘陵頂部の平坦面に設けた48・50・51・52・54・55Tでは、現地表面から35～50cmの深さで縄文時代前期の竪穴住居跡等の遺構を確認した。37・68Tでは木炭焼成土坑が確認されたが、その他の調査区では、遺構等は確認されなかった。

8. 調査所見 当初、今回の開発計画地付近では、周知の埋蔵文化財包蔵地は所在していなかったが、一連の分布調査と試掘調査を実施した結果、調査対象地のうち北東部の谷部を



図15 戸ノ内・太田切遺跡位置図

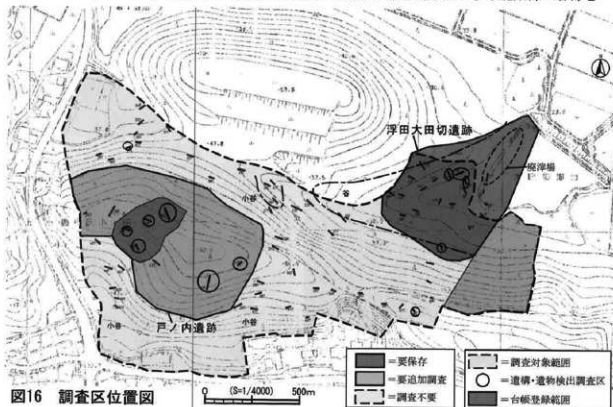


図16 調査区位置図

第6項 戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡

中心に奈良・平安時代の製鉄関連遺構が確認されたことや、西部の丘陵頂部で縄文時代前期の遺構等が確認されたことから、当該計画地内には奈良時代から平安時代の製鉄関連遺跡と縄文時代前期の集落が存在することが明らかとなった。

従って、開発計画地内のうち埋蔵文化財が分布する範囲において開発を計画するにあたっては保存協議が必要となり、その結果、埋蔵文化財の損壊が免れない場合には、記録保存のための発掘調査が必要となる。

また、開発計画地西部の丘陵頂部には縄文時代前期の集落跡が存在することが明らかとなったが、今回の試掘調査では集落の範囲を確定するまでには至らなかったことから、集落の範囲を確定するためには、更に詳細な試掘調査を要する。

なお、上記以外の遺構・遺物が確認されなかった部分については、埋蔵文化財への対応は必要ない。

以上の試掘調査の結果から、開発計画地の北東部と西部で時代の異なる埋蔵文化財が存在すること、両者の間に遺構の検出されない範囲が存在することや、地形的まとまりを踏まえて戸ノ内遺跡・浮田太田切遺跡として埋蔵文化財包蔵地台帳に増補した。



写真 15 1T 調査状況



写真 16 1T 出土遺物



写真 17 48T 調査状況



写真 18 48T 出土遺物

第7項 真野古墳群A地区

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島寺内字八幡林地内
3. 調査期間 平成26年11月27日～
平成26年12月6日
4. 調査対象面積 953㎡
5. 調査面積 50㎡
6. 調査担当 主任文化財事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内の3箇所に調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。



図17 真野古墳群A地区 古墳分布図

建物建設位置に設けた1 Tでは、畑地耕作土（表土）の下層には厚く堆積した黒色土があり、その下層には暗褐色土と暗黄褐色土が堆積している。基盤層は黄色砂質土であり、現地表面から基盤層上面までの深さは約1.2mである。基盤層上面は調査区西側が浅く、東側が深くなっており、溝等が存在している可能性もある。2 Tでは、調査区内で東に向かって傾斜する地形変化が認められ、この部分にも溝状の遺構が存在する可能性がある。調査区北側では、黒色土に黄色土と人頭大の礫が混入する整地層が確認されている。擁壁の設置位置に設けた3 Tでは、溝1条と土坑を確認した。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、時期不明の溝や土坑を確認したが、今回の住宅建設に際しては、十分な盛土が施工され、掘削が遺構確認面まで達しないことから、改めた発掘調査等の措置は必要ないと判断される。

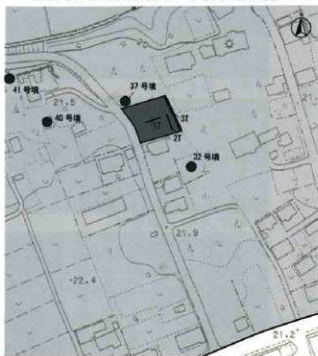


図18 調査区位置図



写真19 1 T 調査状況



写真20 3 T 調査状況

第8項 今宮遺跡

1. 調査原因 工場用地造成
2. 調査地点 南相馬市鹿島区柳窪字今宮地内
3. 調査期間 平成26年11月6日～平成26年11月17日
4. 調査対象面積 12,094㎡
5. 調査面積 260㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発範囲内の15箇所に調査区を設定し、このうち13箇所について削削を行った。



図19 今宮遺跡位置図

基本土層は表土・暗褐色土・基盤層の順に堆積し、基盤層確認までの深さは20cm～1.2mとなっている。基盤層は人頭大の礫を含む砂礫層である。調査した13箇所の調査区では、遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

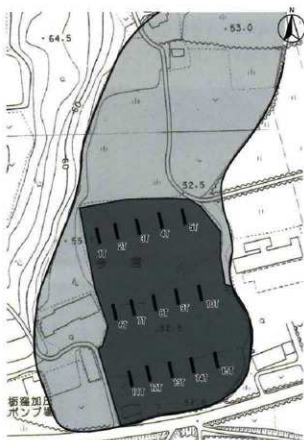


図20 調査区位置図



写真21 調査区遠景



写真22 4T 調査状況



写真23 7T 調査状況

第9項 桜井 B 遺跡 (11次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上洪佐原田内地内
3. 調査期間 平成26年10月28日
4. 調査対象面積 451m²
5. 調査面積 20m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発範囲内の1箇所に調査区を設定し、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、深さ約2m地点まで掘削し基盤層の黄色ロームに達したが、基盤層を確認するまでの堆積土は盛土ならびに攪乱を受けており、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図21 桜井B遺跡位置図

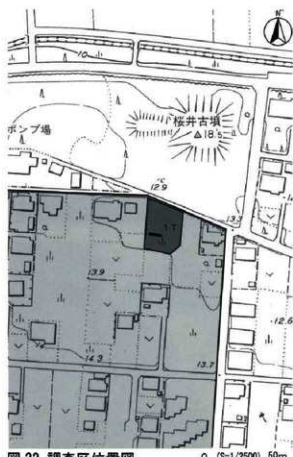


図22 調査区位置図



写真24 調査着手前



写真25 1T 調査状況

第10項 桜井 B 遺跡 (12次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上波佐字原田内地内
3. 調査期間 平成27年3月2日
4. 調査対象面積 420㎡
5. 調査面積 6㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
文化財主査 山崎孝盛
(高知県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発区域内の2箇所に調査区を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、約70cmの表土と山砂層を除去して黄色ロームの基盤層を確認したが、基盤層を確認するまでの過程では遺構・遺物は確認できなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、発掘調査等は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図23 桜井B遺跡位置図

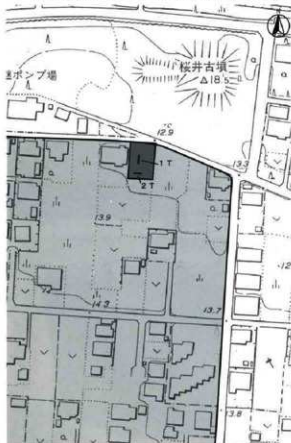


図24 調査区位置図



写真26 調査着手前



写真27 2T 調査状況

第11項 桜井 C 遺跡 (2次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上波佐字原畑地内
3. 調査期間 平26年12月10日
4. 調査対象面積 347㎡
5. 調査面積 16㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
文化財主査 山崎孝盛
(高知県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発対象区域の1箇所調査区を設けて、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では現地表面から約50～60cm深さで、基盤層となる黄色ロームを確認したが、基盤層を確認するまでの過程では遺構・遺物の埋蔵文化財は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 25 桜井 C 遺跡位置図

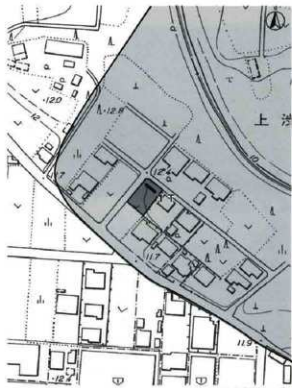


図 26 調査区位置図



写真 28 調査着手前



写真 29 調査状況

第12項 高見町 B 遺跡 (4次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区高見町1丁目地内
3. 調査期間 平成27年3月16日～
平成27年3月23日
4. 調査対象面積 495㎡
5. 調査面積 20㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発予定範囲内に、2×10mの調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認を行った。

調査では約10cmの表土を除去すると黄色ロームの基盤層に達した。基盤層上面では畑地耕作時の多くの攪乱を確認したが、遺構・遺物等の埋蔵文化財は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図27 高見町B遺跡位置図

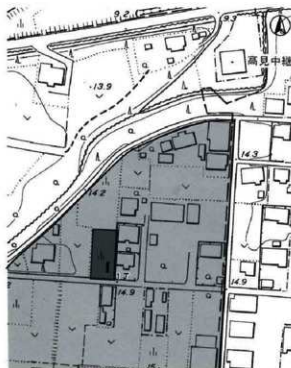


図28 調査区位置図



図30 調査着手前



図31 1T 調査状況

第13項 上渋佐原田遺跡（5次調査）

1. 調査原因 市道拡幅改良
2. 調査地点 南相馬市原町区上渋佐原田地内
3. 調査期間 平成26年11月17日
4. 調査対象面積 550㎡
5. 調査面積 20㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、工事施工範囲内に調査区3箇所を設けて、遺構・遺物の確認作業を行った。

現状路盤厚は約15cmあり、その下層に

は山砂の盛土が約50cm堆積する。山砂層の下位には15cm前後の暗褐色土があり、その下層に基盤層となる黄色ロームがある。確認した遺構は、基盤層上面で確認した。

1 T : 本調査区は施工範囲の北部に設けた調査区である。幅5m×長さ25mの規模で設定し、竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟、土坑3基を確認し、周辺からは土師器・須恵器等の遺物が出土した。

S I 1 : S I 1は調査区北部で確認した。確認した範囲は竪穴住居跡の南西部の一部であり、竪穴住居跡の大部分は調査区外に展開することから、全体規模は不明である。周辺からは国分寺下層式の土師器が出土している。

S I 2 : S I 2は調査区の中央付近で確認した竪穴住居跡である。確認できた範囲は竪穴住居跡の西半部分であることから全体規模は不明であるが、住居跡北辺と南辺間の距離が3.7mを計測するから、約4m前後を測ると推測される。

S I 3 : S I 3は調査区の南部で確認した竪穴住居跡である。確認できた範囲は竪穴住居跡の西半分であることから全体規模は不明であるが、住居跡北辺から南辺間の距離は3.5m前後を計測する。

2 T : 本調査区は施工区域の中央に設定した幅1m×長さ10mの調査区である。基本土層は1 Tと同様で、基盤層上面で溝跡もしくは竪穴住居跡の可能性がある、幅約3mの暗褐色土の分布を確認している。

3 T : 本調査区は施工区域の南部に設定した幅1m×長さ10mの調査区である。基盤層を確認するまでの基本土層は上記の調査区と同様で、遺構・遺物は確認されなかった。



図29 上渋佐原田遺跡位置図



図30 調査区位置図

8. 調査所見 今回の試掘調査は市道改良拡幅に伴い、施工区域内に3箇所の調査区を設定して、埋蔵文化財の確認を行った。

調査では、8世紀後半頃の土器とともに竪穴住居跡3軒等を確認したが、本工事に伴う地面の掘削は遺構が確認された地点まで及ばないことから、改めた発掘調査の必要はないと判断される。



写真32 上洗佐原田遺跡 出土遺物（1）

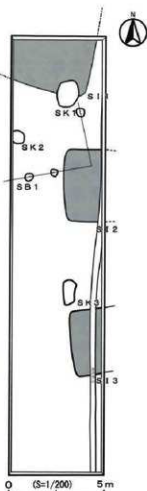


図31 1 T



写真33 調査着手前



写真34 1 T 調査状況（1）



写真35 1 T 調査状況（2）



写真36 SI3 検出状況

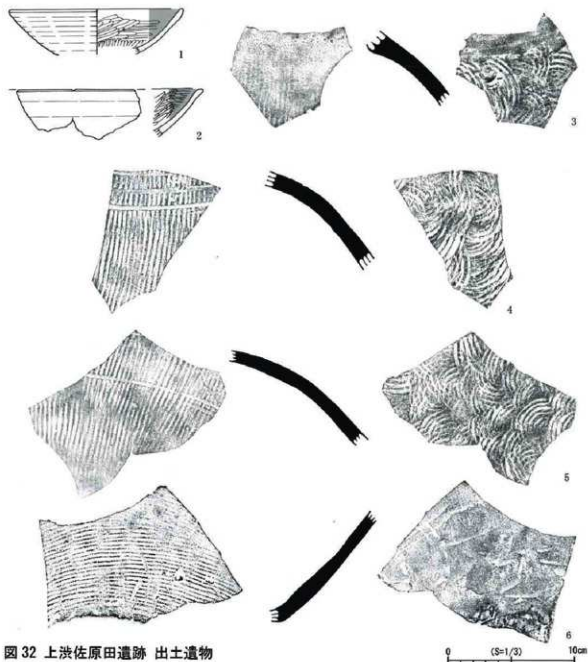


図 32 上渋佐原田遺跡 出土遺物



写真 37 上渋佐原田遺跡 出土遺物 (2)

第14項 三島町遺跡(2次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区三島町2丁目地内
3. 調査期間 平成26年4月22日
4. 調査対象面積 236㎡
5. 調査面積 21㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では現地表面から深さ約40cmの深さで基盤層となる黄色ロームに到達した。基盤層上面では時期不明の溝1条(SD01)を確認し、少量の土器片が出土した。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、時期不明の溝1条を確認されたことから、今回の開発計画に際しては、埋蔵文化財担当職員の立会いのもとに工事施工する必要があると判断される。



図33 三島町遺跡位置図 0 (S=1/5000) 100m

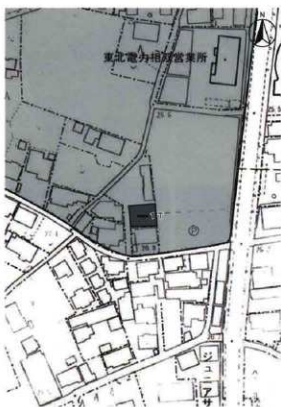


図34 調査区位置図

0 (S=1/2500) 50m



写真38 1T 調査状況



写真39 SD01 調査状況

第15項 入竜田遺跡（3次調査）

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区深野字入竜田内
3. 調査期間 平成26年7月7日
～平成26年7月25日
4. 調査対象面積 10,000㎡
5. 調査面積 327㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に20箇所の調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。



図 35 入竜田遺跡位置図

調査では、現地表面から約30～60cmの深さで基盤層となる黄色ローム、黄色砂質土に達した。基盤層を確認するまでの過程では、少量の縄文土器片が出土したが、周囲に竪穴住居跡等の遺構は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、竪穴住居跡等の遺構は確認されなかったが、少量ながらも縄文土器片が出土していることから、今回の開発計画に際しては埋蔵文化財担当職員の立会いのもとに工事施工する必要があると判断される。



図 36 調査区位置図



写真 40 4 T 調査状況



写真 41 18 T 調査状況

第16項 泉 館 跡 (2次調査)

1. 調査原因 除染土等仮置場造成
2. 調査地点 南相馬市原町区泉字館前他
3. 調査期間 平成26年7月29日～
平成26年8月21日
4. 調査対象面積 281,132㎡
5. 調査面積 540㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予



図37 泉館跡位置図

定地内の27箇所に調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、現地表面から約30cm～1.7mの深さで基盤層となる黄色ローム並びに青灰色シルト・褐色シルト層に達した。1～8 T、10～27 Tでは遺構・遺物は確認されなかったが、9 Tでは黄色ロームを検出面とする木炭焼成土坑1基 (SK01) を確認した。

SK01は、やや不整形な隅丸方形の平面プランを呈する。遺構内には崩落した壁面と考えられる赤褐色ブロックを多く含む暗褐色土が堆積し、その上位に炭化物を多く含む黒色土が堆積している。底面は中央部が弱く窪み、壁面から底面にかけては被熱を受けて赤褐色に変色し固く焼締まっている。遺物は出土せず、詳細な時期は不明である。



写真 42 6 T 調査状況



写真 43 9 T 調査状況



写真 44 SK01 検出状況



写真 45 SK01 完掘状況

8. 調査所見 今回の試掘調査では木炭焼成土坑1基を検出したことから、丘陵の一部で小規模な製炭行為が行われたことが明らかになった。

確認された木炭焼成土坑については、必要な記録の作成は完了しているため、改めた発掘調査等の必要はなく、その他の地点については保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、今回の開発計画に際しては、慎重に工事施工することが望ましい。

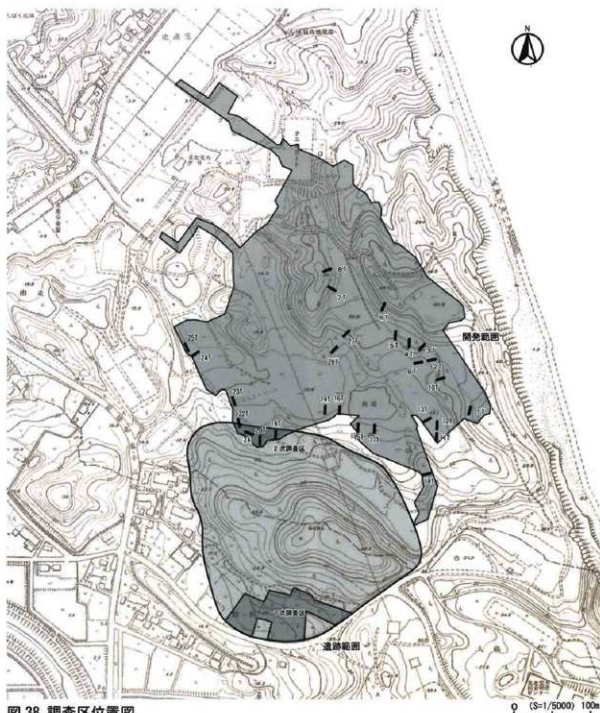


図 38 調査区位置図

第17項 荻原遺跡 (6次調査)

1. 調査原因 携帯電話中継無線局建設
2. 調査地点 南相馬市小高区羽倉字荻原地内
3. 調査期間 平成26年9月12日
4. 調査対象面積 86m²
5. 調査面積 12m²
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 試掘調査では、開発範囲内に2×6m

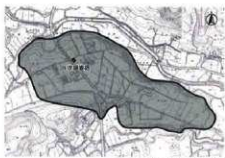


図 39 荻原遺跡位置図 0 (S=1/20000) 400m

の調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を実施した。

1 Tでは、耕作土(表土)が約30cmの厚さで堆積し、その下層に約110cmの厚さの畑地造成時の盛土が堆積していた。これらの堆積土の下層で、基盤層となる黄色ロームを確認した。黄色ロームは、一部で断割りを実施して下層の確認を行ったが、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内においては保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

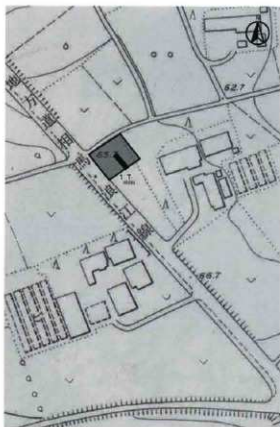


図 40 調査区位置図

0 (S=1/2500) 50m



写真 46 調査着手前



写真 47 1 T 調査状況

第18項 谷中遺跡（2次調査）

1. 調査原因 駐車場造成
2. 調査地点 南相馬市原町区上高平谷中地内
3. 調査期間 平成26年12月1日
4. 調査対象面積 1,148㎡
5. 調査面積 20㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に2×10mの調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

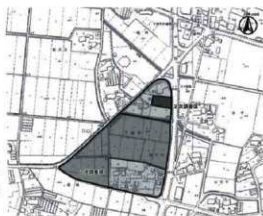


図 41 谷中遺跡位置図 0 (S=1/10000) 200m

1 Tでは、現地表面から約1mの深さまで掘削して、泥炭質の黒色土を確認した。黒色土を確認するまでの過程では、少量の土器が出土したものの、遺構は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査では少量の土器が出土したものの、低地に堆積した泥炭質土が広がっていることから、開発範囲付近において遺構等が展開する可能性は低いと判断される。また、試掘調査で出土した土器等も低地への再堆積と考えられることから、本開発計画に際しては改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 42 調査区位置図



写真 48 調査着手前



写真 49 1 T 調査状況

第19項 前向遺跡

1. 調査原因 太陽光発電施設建設
2. 調査地点 南相馬市原町区泉字前向地内
3. 調査期間 平成26年5月13日～
平成26年6月3日
4. 調査対象面積 10,000㎡
5. 調査面積 174㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発計画地内の7箇所に調査区を設けて、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、現地表面から約60～80cmの深さで基盤層となる黄色ローム、および褐色シルト層に達した。

1・2・4Tでは遺構・遺物は確認されなかったが、3Tで奈良時代から平安時代の竪穴住居跡3軒(SI02～04)、5Tで土坑1基(SK01)、6Tで奈良時代から平安時代の竪穴住居跡1軒(SI01)を確認した。

SI01・03・04は、遺構の大部分が調査区外に広がっているため詳細は不明であるが、SI01は東側にカマドを持つ竪穴住居跡と考えられる。SI03・04は切り合いが認められ、前後関係が存在する。SI02は確認できた範囲が、竪穴住居跡の北半分部分であることから全体規模は不明であるが、住居跡東辺と西辺間の距離が4.2m前後を計測し、カマドを北側に持つと考えられる。

図46・47には出土した土器を図示した。図46-1～4は非ロクロ整形の土師器片である。1・2は碗もしくは杯である。1は口縁部にヨコナデの調整が加えられ、口縁部下端に弱い稜を形成している。2は丸底の底部から杯部までが残存し、底部外面にはヘラケズリ、口縁部にはヨコナデが施されている。内面には、ミガキと黒色処理が施されている。3・4は甕の口縁部資料である。体部には縦位もしくは斜位のヘラケズリが施され、口縁部はヨコナデで整えられている。5～11はロクロ整形の土師器である。5～7は杯、8は碗もしくは鉢である。5は回転ヘラ切り痕を残す底部と、その周辺に回転ヘラケズリの再調整が加えられており、内面にはミガキ及び黒色処理が施されている。6・7は底面に回転糸切り痕を残す資料である。再調整は見られない。内面にはミガキと黒色処理を施す。8はやや深い份量を持つ。内面にはミガキが施されているが、黒色処理は見られない。10・11は甕の口縁部付近の資料である。直立気味に立ち上がる体部に、外傾する口縁部と直立する口縁端部が見られる。外面にはロクロナデを残すが、ケズリ等の調整は観察できない。12・13は底部を残す資料である。ロクロ使用の痕跡は観察できない。12は外面に縦位のへ



図43 前向遺跡位置図

0 (S=1/10000) 200m

ラケズリ、内面にヘラナデの調整が加えられている。13は外面にヘラケズリが見られる。図47-1～13は須恵器の甕の破片資料である。1～5の外面には細かな格子状タタキ目が見られ、内面には青海波紋状の当具痕が残る。6～9は須恵器甕の体部付近の資料で、外面には平行タタキ目が見られる。10～12は口縁端部が残る資料である。11・12には上下二列の櫛描き波状文が描かれている。13の外面には、斜格子状タタキ目が残る。

8. 調査所見 試掘調査では、竪穴住居跡4軒を確認し土師器等が出土した。今回の調査地点は、古代陸奥国行方郡家である国史跡泉官衙遺跡の南方約300mの地点にあり、周囲には同時代の町遺跡や広畑遺跡が所在している。これらの周囲に分布する遺跡は、行方郡家に関連する官衙関連遺跡ならびに関連する集落遺跡と見られており、今回の調査で確認された竪穴住居跡等も同様に、行方郡家に関連する遺構の可能性が高い。

出土した須恵器の中には、行方郡家の付属寺院で使用された軒平瓦や平瓦に使用された、斜格子状タタキ目や格子状タタキ目を残すものが含まれており、郡家の造瓦に係った集団が須恵器等の製作を行っていた可能性が示唆され、造瓦集団と須恵器製作集団との強い関連性がうかがえるとともに、これらの集団によって生産された須恵器等が、郡家周辺の集落等へ持ち込まれ使用されていることが明らかとなった点は重要である。

このような調査結果から、本地区内において掘削を伴う工事を施工する場合には、保存協議を要し、保存協議の結果埋蔵文化財に影響があると判断される場合には、事前に記録保存のための発掘調査が必要となる。

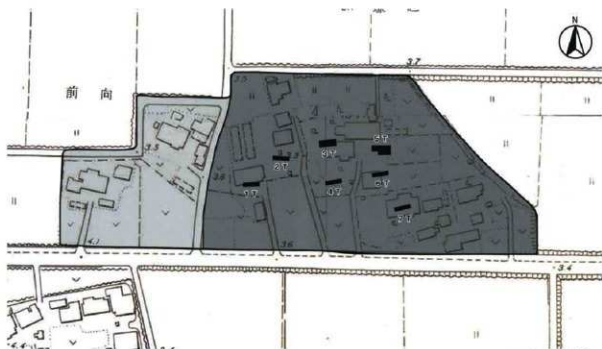


図44 調査区位置図

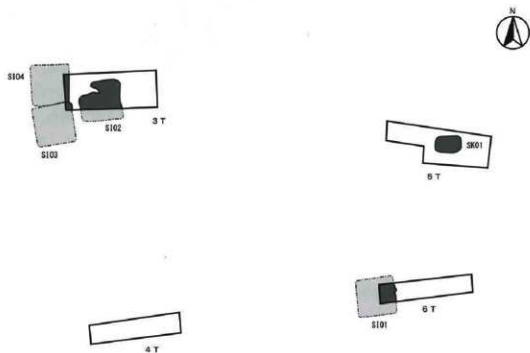


図 45 遺構配置図



写真 50 3 T 調査状況



写真 51 S I O 2 ~ 0 4 検出状況



写真 52 6 T 調査状況



写真 53 S I O 1 検出状況

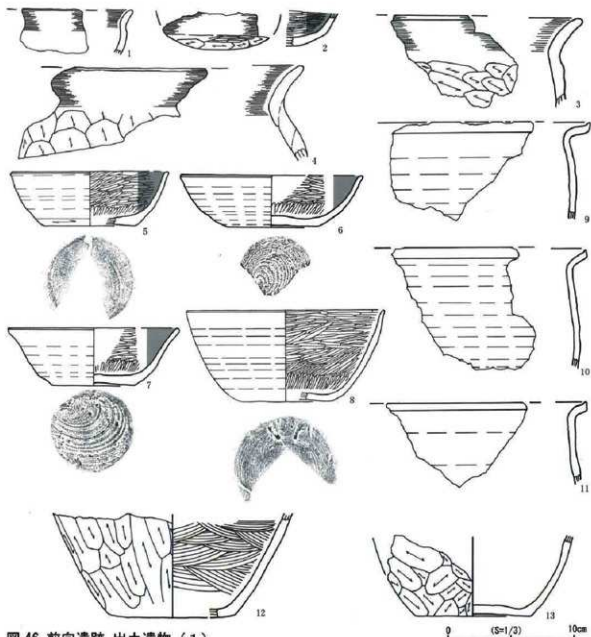


図 46 前向遺跡 出土遺物 (1)



写真 54 前向遺跡 出土遺物 (1)

第19項 前向遺跡



写真 55 前向遺跡 出土遺物 (2)

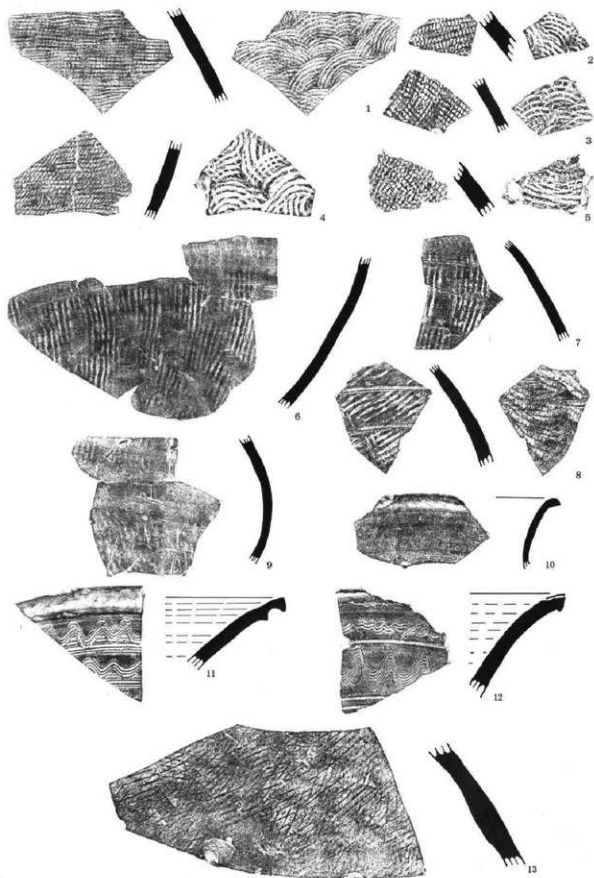


图 47 前向遺跡 出土遺物 (2)

第19項 前向遺跡



写真 56 前向遺跡 出土遺物 (3)

第20項 沢田館跡

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区
上高平字沢田内地
3. 調査期間 平成26年9月8日
4. 調査対象面積 147.5㎡
5. 調査面積 8㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 試掘調査は、対象区域内に調査区1箇所を設けて、遺構・遺物の確認作業を行った。

試掘調査では、現表土面から1.8mの

地点まで掘削したが、表土の下層には新田川の氾濫に起因する褐色粘性シルト層が堆積しており、基盤層までは到達しなかった。この間、遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

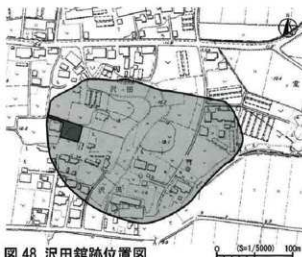


図 48 沢田館跡位置図

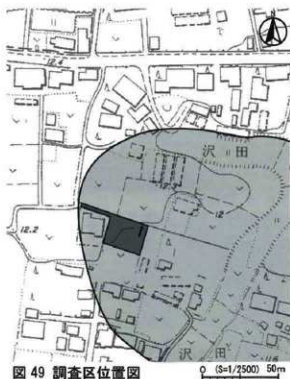


図 49 調査区位置図



写真 57 調査区全景



写真 58 調査状況

第21項 内城遺跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区信田沢字堂下地内
3. 調査期間 平成26年10月30日
4. 調査対象面積 6,000㎡
5. 調査面積 20㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発対象区域内の3箇所調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、現地表面から約10cmの表土の下層に、暗黄褐色砂質土が約30cmで堆積し、その下層で黄色砂質土の基盤層に達した。基盤層を確認するまでの過程では遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図50 内城遺跡位置図

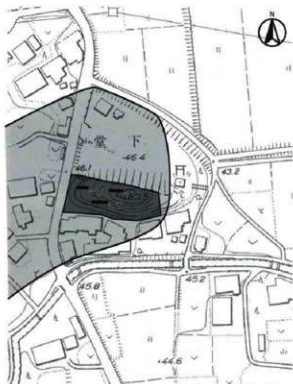


図51 調査区位置図



写真59 調査着手前



写真60 3T 調査状況

第22項 深野館跡

1. 調査原因 太陽光発電施設建設
2. 調査地点 南相馬市原町区深野字館地内
3. 調査期間 平成26年11月25日～
平成26年12月5日
4. 調査対象面積 21,881㎡
5. 調査面積 117㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地



図52 深野館跡位置図

内の6箇所調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、現地表面から約20～80cmの深さで、基盤層となる黄色ロームに達したが、基盤層を確認する過程の中では遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図53 調査区位置図



写真61 1T 調査状況



写真62 2T 調査状況

第23項 梨木下西館跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区大妻字梨木下地内
3. 調査期間 平成26年12月17日～
平成27年1月15日
4. 調査対象面積 6,500㎡
5. 調査面積 130㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、対象区域内の4箇所に調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、現地表面から20～40cmで

基盤層の黄色ロームに達し、遺構等は **図54 梨木下西館跡位置図**

基盤層上面で確認した。確認された遺構は竪穴住居跡4軒、土坑等である。いずれの竪穴住居跡も、遺構の大部分が調査区外に広がっているため詳細は不明である。出土物には、古墳時代から平安時代にかけての各時期の土師器、鉄滓などが出土した。

8. 調査所見 今回の試掘調査では竪穴住居跡4軒と土器等が出土したことから、掘削を伴う工事を施工する場合には保存協議を要する。また、保存協議の結果で埋蔵文化財に影響があると判断される場合には、事前に記録保存のための発掘調査が必要となる。

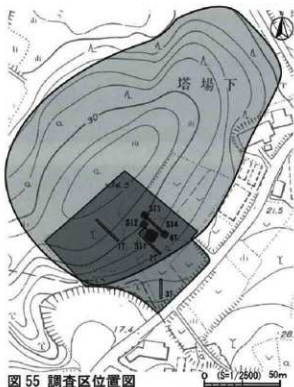
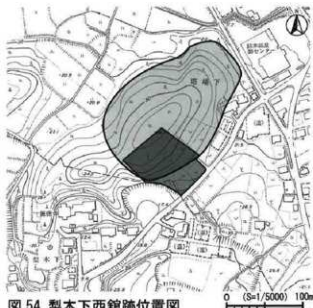


図55 調査区位置図



写真63 調査着手前



写真64 2T S I 1 検出状況

第24項 北新田本町遺跡

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区
北新田字本町地内
3. 調査期間 平成27年3月17日～
平成27年3月18日
4. 調査対象面積 2,253㎡
5. 調査面積 70㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に2×15mの調査区を1箇所、2×10mの調査区を2箇所に設定し、埋蔵文化財の確認作業を行った。



図56 北新田本町遺跡位置図

1・2Tでは現地表面から約1.5mの深さで、低湿地に形成された泥炭層を確認したが、遺構・遺物は出土しなかった。3Tでは現地表面から約1.2mの深さまで掘削したが、後世の盛土が続いており基盤層に到達しなかった。

8. 調査所見 開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

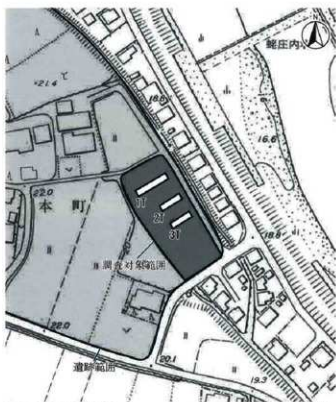


図57 調査区位置図



写真55 1T 調査状況



写真56 2T 調査状況

第25項 原町区栄町地区

1. 調査原因 災害公営住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区栄町3丁目地内
3. 調査期間 平成27年3月3日
4. 調査対象面積 5,631㎡
5. 調査面積 22.5㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
文化財主査 山崎孝盛
(高知県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内の4箇所にて調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

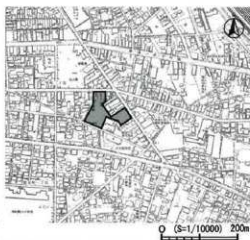


図58 原町区栄町地区位置図

調査では、現地表面から40cm～1mの深さで基盤層となる黄色ロームに達したが、基盤層を確認する過程の中では遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図59 調査区位置図



写真67 2T 調査状況



写真68 4T 調査状況

第26項 原町区深野地区

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区深野字入籠田地区
3. 調査期間 平成27年2月24日～
平成27年2月25日
4. 調査対象面積 6,000㎡
5. 調査面積 2.5㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
文化財主査 山崎 孝盛
(高知県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定
地内に調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財
の確認作業を行った。



図 60 原町区深野地区位置図

調査では現地表面から60cm～1mの深さで基盤層に達したが、基盤層を確認する過程
中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化
財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工
が望ましい。

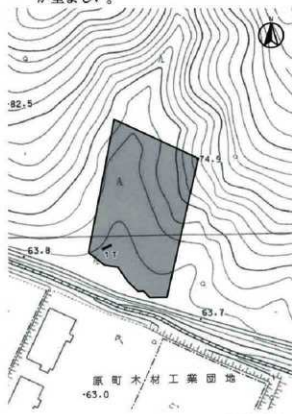


図 61 調査区位置図



写真 69 調査着手前



写真 70 1 T 調査状況

第27項 原町区高見町地区

1. 調査原因 南相馬防災センター建設
2. 調査地点 南相馬市原町区高見町1丁目地内
3. 調査期間 平成26年11月12日
4. 調査対象面積 7,531㎡
5. 調査面積 10㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内の2箇所に調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では現地表面から約1.8mまで掘り進めたが、遺構・遺物は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 62 原町区高見町地区位置図



図 63 調査区位置図



写真 71 1T 調査状況



写真 72 2T 調査状況

第28項 小高区塚原地区

1. 調査原因 海岸防災林造成
2. 調査地点 南相馬市小高区塚原字1丁地内
3. 調査期間 平成26年9月9日
4. 調査対象面積 1,300㎡
5. 調査面積 26㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に調査区4箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では現地表面から約1.1～1.5mの深さまで掘削したが基盤層に到達せず、また土器等の出土は認められなかったことから、調査を終了した。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

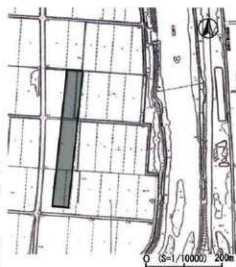


図 64 小高区塚原地区位置図



図 65 調査区位置図



写真 73 2T 調査状況



写真 74 4T 調査状況



第2節 平成27年度試掘調査成果

第1項 榎内遺跡(4次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区横手字川原地区内
3. 調査期間 平成27年4月20日～4月23日
4. 調査対象面積 1,596㎡
5. 調査面積 60㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
主任文化財主事 吉岡弘樹(山梨県支援)
文化財主事 山梨千晶(長崎県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、3箇所に調査区を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。現地表面から約90cmの地点で黄色シルトの基盤層に達し、基盤層上面ではビットが確認され、堆積土中からは数片の土器片が出土した。
8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内においてビットや土器片数点が出土したが、改めた発掘調査等の措置は必要とせず慎重な工事施工が望ましい。



図66 榎内遺跡位置図



図67 調査区位置図



写真75 調査着手前



写真76 1T 調査状況

第2項 榎内遺跡 (5次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区横手字御所内地区
3. 調査期間 平成28年3月3日
4. 調査対象面積 213m²
5. 調査面積 16m²
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発予定地内に2×10mの調査区1箇所を設定して埋蔵文化財の有無について確認作業を行った。

試掘調査では、現地表面から約20cmの深さまで掘削して、基盤層に達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 68 榎内遺跡位置図



図 69 調査区位置図



写真 77 重機掘削状況



写真 78 1T 調査状況

第3項 八幡林遺跡 (11次調査)

1. 調査原因 排水用水路設置
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内
3. 調査期間 平成27年5月29日
4. 調査対象面積 100m²
5. 調査面積 2m²
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 回の試掘調査では、排水路設置場所のうち集水枡設置部分について、1×1mの規模の調査区を2箇所を設定して行った。

調査では、現地表面から約50cmの深さまで掘り進めた時点で、基盤層となる黄色砂質土に到達した。基盤層の上位にある堆積土は、ビニール等を含む盛土である。

本調査地点では砂質土の上位にある黄色ローム層が欠層しており、後世に何らかの造成が行われた可能性が高いことから、周囲に遺構等が存在している可能性は低い。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



写真 79 調査区遠景



写真 80 調査状況

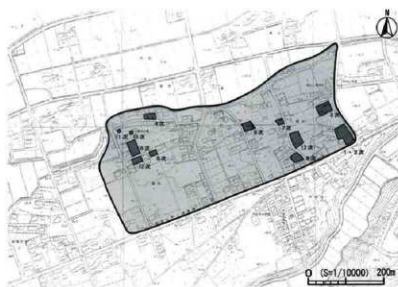


図 70 八幡林遺跡位置図



図 71 調査区位置図

第4項 八幡林遺跡 (12次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区
寺内字八幡林地内
3. 調査期間 平成27年6月19日～
平成27年6月22日
4. 調査対象面積 293㎡
5. 調査面積 36㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
主任文化財主事 吉岡弘樹
(山梨県支援)

7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内の2箇所調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、現地表面から約70cmの深さで基盤層となる黄色ロームに到達した。基盤層を確認するまでの堆積土は、

最上層に約30cmの山砂層、その下層に約10cmの黒色土層と約30cmの漸移層がある。基盤層を確認する過程で、遺構・遺物等の埋蔵文化財は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



写真 81 調査着手前



写真 82 1 T 調査状況

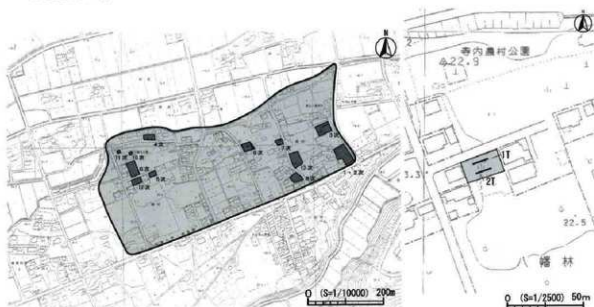


図 72 八幡林遺跡位置図

図 73 調査区位置図

第5項 八幡林遺跡 (13次調査)

1. 調査原因 住宅地造成
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内
3. 調査期間 平成27年6月22日～平成27年7月14日
4. 調査対象面積 611㎡
5. 調査面積 52㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩 (嘱託)
主任文化財主事 吉岡弘樹 (山梨県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発地内を4区画に宅地分譲する計画に対して実施した。計画地周辺は上真野川南岸の河岸段丘面にあり、これまでの12次に渡る調査で、古くは後期旧石器時代の石器等が採取され、縄文時代中期から後期にかけての時期の集落や古墳時代前期の集落、そして東北地方を代表する後期群集墳の真野古墳群が展開し、上真野川流域でも最も埋蔵文化財が密集する地区である。

今回の試掘調査では、建物建設予定地の2箇所¹に2×5m(1・2T)、合併浄化槽設置箇所2箇所²に4×4m(3・4T)の調査区を設定し、埋蔵文化財の有無の確認を行った。

調査の結果、約30～50cmの深さで基盤層に達した。基盤層を確認するまでの基本土層は、最上層には造成時の盛土があり、その下層の盛土以前の耕作土の2層に大別された。基盤層は段丘面に堆積した黄色ロームで、黄色ロームが欠層し砂礫層が露呈する所もある。

一連の調査で確認された遺構群を調査区毎に見ると、1Tでは竪穴住居跡1軒(S11)、2Tで縄文時代の貯蔵穴もしくは落とし穴と想定される土坑1基(SK2)、3Tからは重複した3軒の竪穴住居跡(SI3～5)と、これらの竪穴住居跡よりも新しい時期の溝跡2条(SD1・2)、竪穴住居跡と溝跡よりも古い時期の土坑が1基(SK1)、4Tからは重複する竪穴住

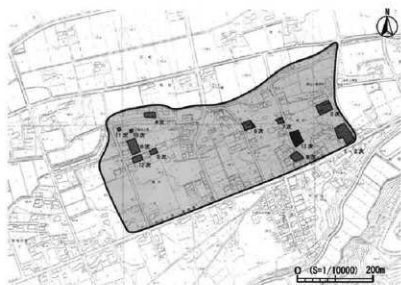


図74 八幡林遺跡位置

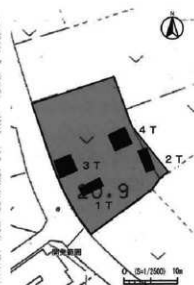


図75 調査区位置図

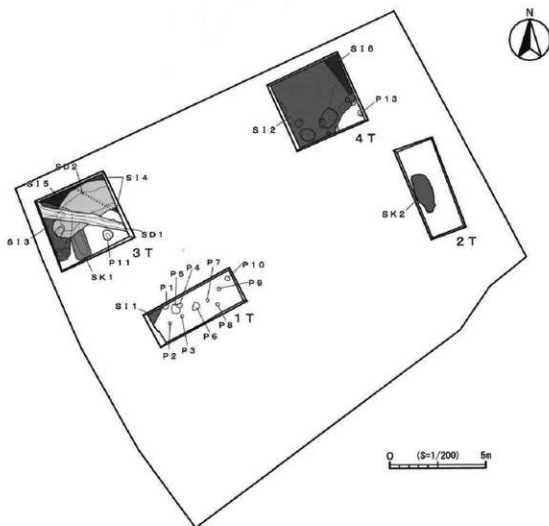


図 76 13次調査区遺構配置図

居跡(SI2・6)を確認した。これらの遺構の試掘調査では、表土や遺構覆土内から大木9～10式土器片や古墳時代の土師器類が出土した。

確認された遺構等と開発計画の内容を検討した結果、1・2 Tの建物建設位置については基礎掘削等の深度が遺認面に達しないが、合併浄化槽設置箇所については、掘削深度が遺構確認面に達し、確認された遺構の損壊が免れないことから、合併浄化槽設置箇所についてのみ、記録保存のための発掘調査を実施した。

- 【1 T (図77)】：1 Tは開発範囲の南部に設定した調査区である。竪穴住居跡(SI1)の一部とビット10基を確認した。最上層には約30cmの碎石層と約3cmの灰黒褐色土層の盛土があり、それぞれをL I・IIと分層した。L IIの下層には暗褐色砂質土、黄褐色ロームブロックが混入する暗褐色砂質土が堆積しており、これらをL III・IVとした。基盤層となる黄色ロームはL IV下層のL Vで確認した。なお、最終的な土層観察の結果では、SI1はL IIIからL Vを掘り込んでおり、SI1の確認面はL III上面であることが判明している。

SI1 (図77) : 本竪穴住居跡は、1 Tの西端で確認した竪穴住居跡である。遺構は現地表面から約30cmの深さで検出し、竪穴住居跡の東辺の一部を確認したが、遺構の大部分は調査区外であり、竪穴住居跡全体の規模は不明である。また竪穴住居跡の上部の大部分が掘削を受け、辛うじて住居の貼床面と壁周溝が確認された。

本竪穴住居跡の出土遺物を図88-1・6に図示した。1・6ともにSI1のℓ1・2から出土した。1は土師器の小型壺である。底部は欠損しており全体の器形は不明である。ほぼ球形に近い体部から、弱く外傾して立ち上がる口縁部が見られる。外面の中央部には細かなハケ調整を施し、底部周辺はヘラケズリによって整えられている。内面はナデによる調整が行われ、口縁部にヨコナデにより整形されている。

6は壺である。部分的な欠損が見られたが全体の器形・法量を判別できるまで復元できた。底部の直径は約7cmを計測する平底で、体部の最大径を計る部分は体部中央やや下端にあり約15cmを計測する。体部上半から口縁部までの間には明瞭な屈曲点は存在せず、徐々に外湾して口縁端部に達する。器面の磨滅が著しいため調整の判別は困難であったが、おそらくは体部外面には縦位もしくは斜位のヘラケズリ、内面はナデ、口縁部にヨコナデを施しているものと見られる。

【2 T (図78)】 : 2 Tは開発範囲の東部に設定した調査区である。基本土層のL I・IIは1 Tと同様であったが、その下層はビニール等を含む盛土のL IIIがあり、遺構はL III除去後に黄色ロームを基盤層として検出したL V上面で確認し、現地表面からは約40cmの深さにある。確認した遺構は直径2.6mを計測する長楕円形の土坑1基(SK2)である。

SK2 : 本土坑は調査区の中央で確認した。長軸を南北に向けた長楕円形の土坑であるが、L Vの大部分が後世の掘削を受け、本土坑も大部分が失われているものと推測される。工事等の掘削深度が遺構確認面までに達しないことから、現状保存することとした。

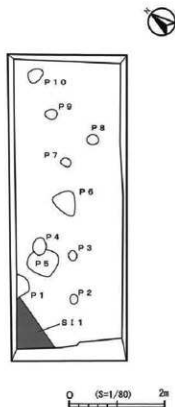


図 77 1 T 平面図

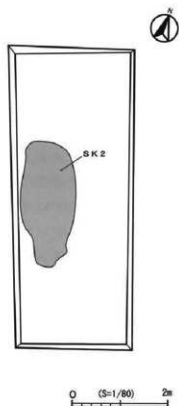


図 78 2 T 平面図

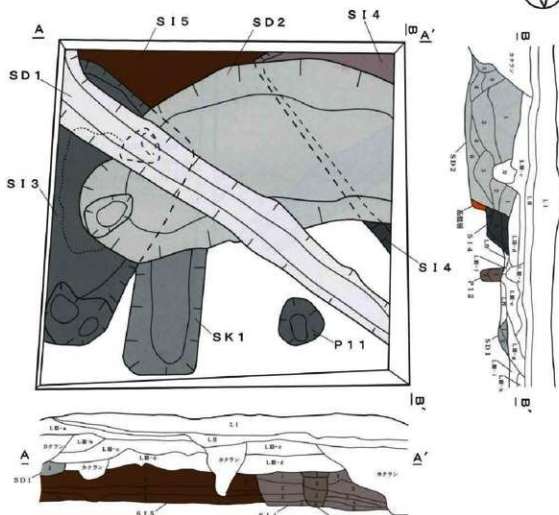
【3 T (図79)】: 3 Tは開発範囲の西部に設定した調査区である。現地表面から約50cmの深さで基盤層となる黄色ローム層(LV)を検出し、調査区の北西部で重複する溝2条(SD1・2)、堅穴住居跡3軒(SI3~5)、土坑1基(SK1)、ピット1基を確認した。基本土層は、最上層に約20cmの碎石盛土、約10cmの灰黒褐色盛土(LI・II)がある。LI以下は造成以前の表土である黒褐色土(LIII)が厚さ約30cmで堆積している。その下層にはSI4、SD1・PI2の遺構確認面の暗褐色土層(LIV)が厚さ約10cmで堆積し、この下層で基盤層である黄褐色ローム層を確認した。

SD1 (図80): 本溝跡は、調査区西角から東角へと調査区を斜めに横切る形で検出した溝跡である。現地表面から約50cmの深さで検出し、SD2とSI3よりも新しいことを確認している。溝跡の上端幅約40cm×下端幅約30cm×深さ20cmを計測し、溝の断面形は半円形を呈する。遺構内から古墳時代の土師片が数点出土したが、周辺遺構からの流入の可能性が高く、本遺構の所属時期は不明であるが、後述するSD2よりは新しいことから、古墳時代前期以降の年代であることは間違いない。

SD2 (図80): 本溝跡は、調査区の北東から南西で検出し、古墳の周溝状に巡る溝として確認した。他の遺構との重複関係では、SI3~5、SK1よりは新しく、SD1よりも古い。

溝跡の上端幅約1.8m×下端幅約1.1m×深さ約0.5mを計測し、断面形は逆台形状の箱形を呈する。土層断面の観察では、最終的に6層に細分された。出土遺物は図88-2・8・12・15の4点を図化した。4点ともSD2の l 3からの出土であるが、15は旧石器であること、12は周辺の縄文時代の可能性もあり、本溝跡に伴う土器としては2・8の2点である。2は壺の口縁部付近の資料である。体部から底部までの大部分が失われているため、全体の器形は不明であるが、頸部から緩やかに外方に向かって外湾する口縁部を持つ。外面調整は頸部以下に縦位のケズリを施し、口縁部内外面はヨコナデにより整えられている。口縁部の直径は15cm、残存高は5cmを計測する。8は手捏土器である。全体の器形が判別される資料である。全体の器高は7cm、口縁部径9cm、底部直径4cmを測る。底部は中央がやや窪み形態をもち、緩やかに立ち上がったのち体部中央で弱く膨らみ口縁部へと移行する。口縁部は直線的に外傾して収まる。外面調整は体部にハケメ、底部周縁にはケズリを施す。内面調整には底部から体部にかけて範囲にユビナデ、口縁部には横位のハケ調整を行っている。なお、口縁部高と体部高の比率がほぼ1/2となっている点は特徴的である。12は直径約6cmを計測する土玉である。少し歪んだ球形を呈し、中央には貫通孔が見られる。調整はナデのみである。15は頁岩製のナイフ形石器である。素材は同一方向から連続して剥離された石刃であり、打面は稜面で調整は施されていない。刃潰しは一侧辺と相対する辺の基部に施され、素材の形状を生かす形で加工が行われている。後期旧石器時代と考えられるが詳細な時期は不明である。

SI3 (図81): 本堅穴住居跡は、調査区南西壁で確認した堅穴住居跡である。確認できた範囲は、堅穴住居跡の東辺と北辺の一部、南東コーナーを確認したが、北東コーナーはSD2により失われていた。従って、堅穴住居跡一辺の正確な規模は不明であるが、東辺・北辺の位置と、南東コーナーの位置から、東辺の長さが約2.5m以上と推定できる。他の遺構との重複関係では、SI5・SK1よりも新しく、SD1・SD2より古いことを確認した。住居内の堆積土は4層に細分さ



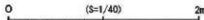
【3T 土層断面】

- L I 粘土 砂石 黄土層
 - L II 黄灰色粘土 しまり強い、凝性土
 - L III-a 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱し、黄褐色土層を少量含む
 - L III-b 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱し、黄褐色土層、土層を含む
 - L III-c 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性弱い、黄褐色土層、白色粘土を含む
 - L III-d 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱し、白色粘土を含む
 - L III-e 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性やや有り、褐色土少量を含む
 - L III-f 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性弱い、褐色土少量を含む
 - L III-g 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性やや強い、褐色土少量、泥岩を含む
 - L III-h 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性やや強い、黄褐色土少量を含む
 - L III-i 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性弱い、褐色土を含む
 - L III-j 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性有り、黄褐色土ブロックを少量含む
- 【SD 1】
- D1 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性有り、黄褐色土を含む
 - D2 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性有り、褐色土を少量含む
- 【SD 2】
- D1 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性弱い、白色粘土を含む
 - D2 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性弱し、黄褐色土層少量、白色粘土を含む
 - D3 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱し、褐色土、白色粘土を含む
 - D4 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱し、褐色土を含む
 - D5 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱し、黄褐色土層を少量含む
 - D6 褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性有り、褐色土を含む

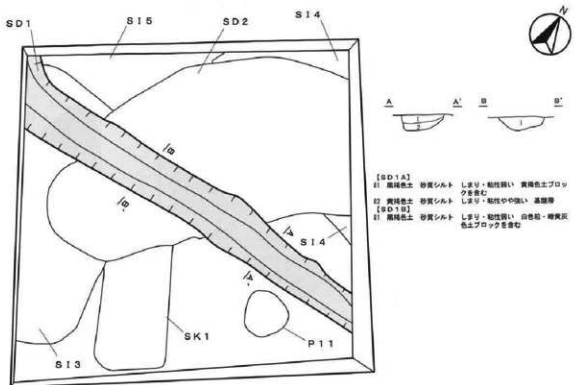
【SI 4】

- S1 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや強い、泥岩、粘土を少量含む
 - S2 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや強い
 - S3 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱い、褐色土、粘土を少量含む
 - S4 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや強い、黄褐色土層を少量含む
 - S5 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性弱い、褐色土を少量含む、粘板岩
- 【SI 5】
- S1 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性無し、黄褐色土層、泥岩を少量含む
 - S2 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや有り、粘土を少量含む
 - S3 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性弱い、黄褐色土少量を含む
 - S4 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性強い、黄褐色土少量を含む、粘板岩
- 【P 12】
- P1 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性有り、褐色土を含む
 - P2 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性やや強い、黄褐色土
- 【P 14】
- P1 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性弱い、白色粘土を少量含む
 - P2 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性弱い、泥岩、少量の粘土を含む
 - P3 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性弱い、褐色土、粘土を少量含む
 - P4 黄褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや強い、黄褐色土を含む

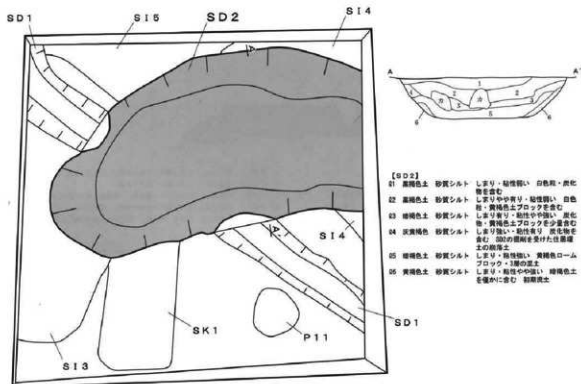
図 79 3T 平面図・断面図



第5項 八幡林遺跡 (13次調査)



- [SD1A]
 01 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性弱い 黄褐色土ブロックを含む
 02 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 凝縮層
 [SD1B]
 01 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性弱い 白色粘・凝灰土色土ブロックを含む



- [SD2]
 01 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性弱い 白色粘・凝灰土色を含む
 02 黄褐色土 砂質シルト しまりやや重なり・粘性弱い 白色粘・黄褐色土ブロックを含む
 03 黄褐色土 砂質シルト しまり重なり・粘性やや強い 凝灰土・黄褐色土ブロックを少量含む
 04 灰黄褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性重なり 灰土物を含む 面が傾斜を受けた自然露土の断面土
 05 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性弱い 黄褐色土ブロック・凝灰土
 06 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 黄褐色土を塊状に含む 凝縮土

図 80 SD1・SD2 平面図・断面図

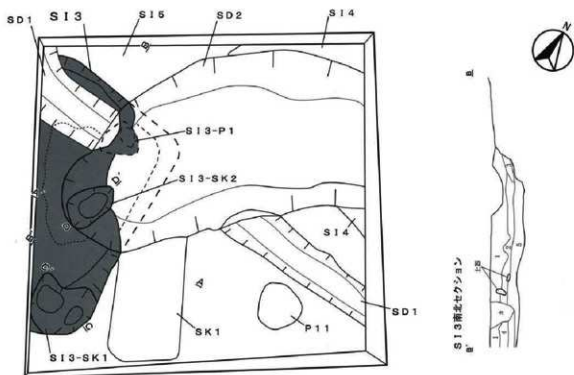
0 (S=1/40) 2m

れ、 l 4は貼床土である。S13の住居内施設としては、土坑2基(SK1・2)とピット1基(P1)が検出している。遺物は土師器の甕がまとめて出土している。

本竪穴住居跡から出土した遺物を、図88-5に図示した。5は甕で、口縁部から体部上段までが遺存するが、全体の器形・法量は不明である。体部上半はほぼ球形に近い形状で頸部に達し、頸部から緩く外湾しながら「くの字」に外傾して口縁端部に達する。外面には体部と頸部に縦位一横位のハケ調整を施し、内面にはヘラナデが見られる。口縁部には内外面ともに明瞭なヨコナデが施されている。

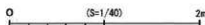
S13-SK1(図82)：本土坑は、南東コーナー付近で検出した土坑である。短軸約30cm×長軸60cm×深さ20cmの楕円形を呈し、遺構内の堆積土は暗褐色土の単一土層である。遺物は出土していない。

S13-SK2(図82)：本土坑は、SK1の北側約1.2mの地点にあり、SD2の西端に位置している。SD2により大部分が失われ土坑全体の規模は不明である。遺物は土師器を中心に出土し、図示可能な2点を明示した(図88-4・10)。4は土坑内から出土した甕である。底部は直径6cmを計測する平底で、底部から器高の約1/3付近まで立ち上げたのち半乾燥のための小休止した痕跡が見られる。外面の1次調整にはユビナデ、内面にはヘラナデが用いられている。上部は下

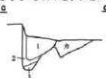


- [S13]**
- 41 凝褐色土 砂質シルト しまりや強い・粘性無し 炭化物と粘土粒・黄褐色土ブロックを含む
 - 41' 凝褐色土 砂質シルト しまり有り・粘性無し 炭化物・粘土粒を含む(層上)
 - 42 凝褐色土 砂質シルト しまり弱い・粘性無し 凝褐色土ブロック少ない
 - 43 凝褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性無し 凝褐色土を含む
 - 44 凝褐色土 砂質シルト しまりや強い・粘性や中強い 床土の粘着土らしくは粘着の可能性がある
 - 45 凝褐色土 砂質シルト しまり・粘性や中強い 凝褐色

図81 S13 平面図・断面図



S13-SK1セクション



S13-SK2セクション



0 (S=1/40) 1m

【S13-SK1】

- ① 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性弱い 黄褐色土ブロックを含む
 ② 緑色土 砂質シルト しまり・粘性中強い 黄褐色土ブロックを少量含む
 ③ 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性中強い 基盤層

【S13-SK2】

- ① 黄褐色土 砂質シルト しまりあり・粘性無し 黄褐色土粒・炭化物を含む
 ② 黄褐色土 砂質シルト しまり弱い・粘性無し 黄褐色土粒を含む
 ③ 黄褐色土 砂質シルト しまり弱い・粘性無し 炭化物・炭土を含む
 ④ 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性弱い 炭化物・炭土・黄褐色土ブロックを含む
 ⑤ 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性中強い 基盤層

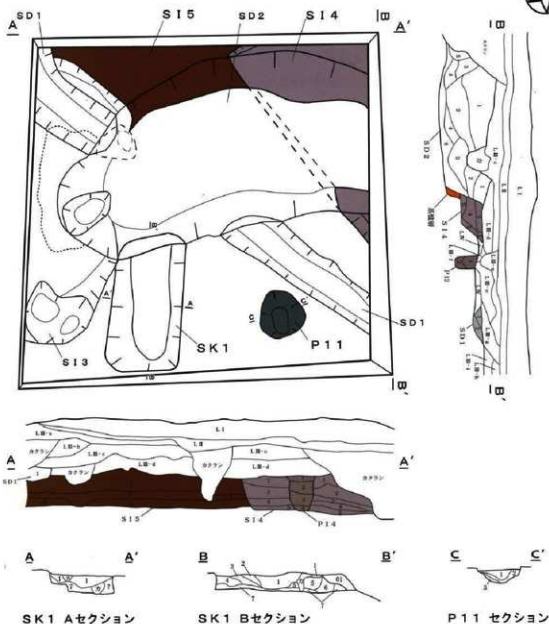
図82 S13 断面図

段の半乾燥後に粘土紐の巻き上げ、もしくは輪積みにより製作され、最終的にはやや縦長の球形の器形となっている。外面の2次調整には目の細かなハケ工具をもちいた斜位方向のハケメが多用される。内面の2次調整には横位のヘラナデが多用され、口縁部から底部までの最大高は5.2cmである。10は椀である。全体の器形の判別は困難であるが、底部はヘラケズリによる調整が施された丸底で、口縁部と体部の接点で一端弱く括れたのち強く外反する口縁部が見られる、外面の体部上半にはハケメの痕跡が見られ、内面はヘラナデによる調整が施されている。口縁部は内外面ともにヨコナデにより整えられている。

S14 (図83)：本竪穴住居跡は、調査区の北西壁から北東壁に向けた範囲で確認した竪穴住居跡である。SI5よりも新しくSD2よりも古いことが確認されている。調査では竪穴住居跡南部の一部が認められたのみで、遺構の大部分がSD2によって失われているため、本竪穴住居跡の全体規模、ならびに構造は不明である。調査では、新しい遺構を完掘しわずかに遺存したSI4を掘り下げ、更に調査区東壁面と北壁面に残された土層断面の再検討を行った結果、S14がSI5よりも新しいことが確認できたことから、SI5→SI4の順で造営されていることが確認された。遺物は確認されなかったが、重複関係からSI5のよりも新しい。

S15 (図83)：本竪穴住居跡は、調査区北西側で確認した竪穴住居跡である。SI3・4とSD2に囲まれ、3Tで確認された遺構の中では最も古い時期の遺構と考えられる。SI3・4・SD2よりも古く、新しい時期の遺構により失われている部分が多く全体の規模は不明である。僅かに残されたSI4とSI5を繋ぐ土層観察用の畔の検討の結果、SI5→SI4の順で造営されていることが判明した。SI5の遺存範囲は狭小であることから、本住居に伴う他の構造物は確認できなかった。SI5の堆積土は、黒褐色土(ℓ2)と暗褐色土が混入する黄褐色土層(ℓ3)があり、ℓ3はおそらく貼床土と考えられる。貼床面に到達する過程、ならびに貼床面の下層からも遺物は確認されなかったが、SI4よりも古い古墳時代前期を上限とする竪穴住居跡と考えられる。

SK1 (図83)：本土坑は、調査区南側で確認した土坑である。検出面は基盤層上面である。他の遺構との重複関係を見ると、SD2より古く、SI3との新旧関係は把握できなかった。SI3の出土遺物からSI3→SK1の順に構築されたものと推測している。平面形は隅丸長方形を呈し、



【S14】

- 01 黒褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや弱い 灰化物、塊土粒を少量含む
- 02 暗褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや弱い
- 03 暗褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性弱い 暗褐色土、塊土粒を少量含む
- 04 暗褐色土 砂質シルト しまり強い、粘性やや弱い 黄褐色ロームブロックを含む
- 05 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性強い 暗褐色土を少量含む 粘床面

【D10】

- 01 暗褐色土 砂質シルト しまり弱い、粘性無し 黄褐色土粒、灰化物を少量含む
- 02 暗褐色土 砂質シルト しまり弱い、粘性やや弱い 塊土粒を少量含む
- 03 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性強い 暗褐色土を少量含む 粘床面

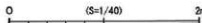
【P11】

- 01 砂質シルト しまり弱い、粘性有り 黄褐色土ブロックを少量含む
- 02 灰黄褐色土 砂質シルト しまり弱い、粘性強い 黄褐色土ブロックを少量含む
- 03 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性やや弱い 粘床面

【SK1】

- 01 黄褐色土 砂質シルト しまり有り、粘性弱い 黄褐色土を含む
- 02 暗褐色土 砂質シルト しまり、粘性強い 上部に暗褐色土を少量含む
- 03 暗褐色土 砂質シルト しまり弱い、粘性無し 3層と比べて暗褐色土を含まない
- 04 暗褐色土 砂質シルト しまりやや強い、粘性無し 暗褐色土を含む
- 05 暗褐色土 砂質シルト しまり弱い、粘性有り 暗褐色土を少量含む
- 06 暗褐色土 砂質シルト しまり、粘性強い 露の底辺の暗褐色有り
- 07 黄褐色土 砂質シルト しまり、粘性やや強い 粘床面
- 08 暗褐色土 砂質シルト しまり、粘性強い 暗褐色土を少量含む 露の底辺より遠く

図 83 S14・S15・SK1・P11 平面・断面図



SD2により土坑北部が失われているため長軸長は不明である。調査は検出された遺構の長軸中央線とそれに直交する土層観察用のベルトを設定して実施した。調査の結果、褐色土 (ℓ 1) と暗褐色土 (ℓ 2) の2層に分層された。遺構内からは少量の土師器片が出土したが、年代的な特徴の判別までには至らなかった。

P 1 1 : 本ピットは調査区の東側で確認したピットである。SD1の約20cm南の地点にあり、検出面は基盤層上面である。ピットの直径は約30cm×深さ約10cmを計測し、重複する遺構はない。遺構内からは遺物等は確認できなかったため時期は不明である。

【4 T】 : 4 Tは開発範囲北側に設定した調査区で、最終的に竪穴住居跡2軒 (SI2・6) とピットを確認した。基本土層は、最上層には約30cmの砕石層による表土 (LI) があり、その下層に約10cmの青灰色粘土 (LII) がある。ともに造成時の盛土である。LIIIは盛土以前の黒褐色土が約30~40cmの厚さで堆積し、最終的にはa~jの10層に分層された。LIVは欠層しているため、本調査区ではLVが基盤となる黄色ロームで遺構確認面となる。現地表面から基盤層までの深さは約1mを計測する。

S I 2 (図84~86) : 本竪穴住居跡は、調査区の東角付近から調査区全体で確認した竪穴住居跡である。竪穴住居跡のうち確認できた範囲は、調査区東部を横断する竪穴住居跡東辺の一部で、大部分は調査区外に伸びているため全体規模や構造は不明である。また、調査が進展する中で本竪穴住居跡の南側一部が別の竪穴住居跡 (SI6) との重複関係があることが判明し、最終的にはSI2→SI6の順で造営が行われたと判断している。遺構は貼床面から住居内土坑2基 (SI2-SK1、SI2-SK2) とピット2基 (SI2-P1、SI2-P2) を検出した。



写真 83 3 T 遺構検出状況



写真 84 SD 2 完掘状況



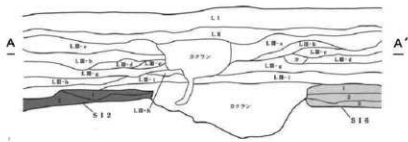
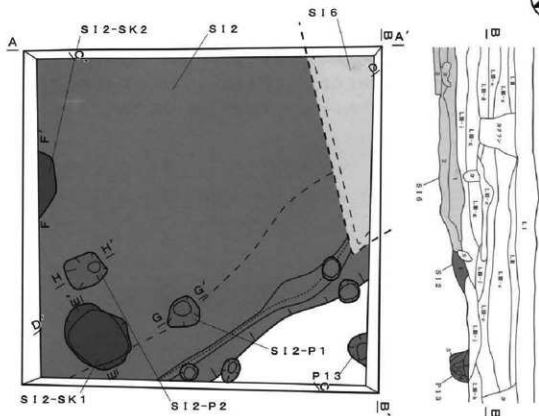
写真 85 S I 3 調査状況



写真 86 S I 3 調査状況 (床面・遺構検出状況)



写真 87 土器出土状況



【4T 土層断面】

- L1 砂石 黄土層
- L2 黄灰色粘土 しまり強い 遺物土
- L2-a 黒褐色土 砂質シルト しまり有り・粘性無し 黄褐色土層を含む
- L2-b 黒褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性無し
- L2-c 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性無し 黄褐色土層・微量の炭化物を含む
- L2-d 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性無し 黄褐色土層を含む
- L2-e 黒褐色土 砂質シルト しまり有り・粘性無し 炭化物を含む
- L2-f 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性無し 炭化物・黒褐色土ブロックを少量含む
- L2-g 黒褐色土 砂質シルト しまり有り・粘性無し 黄褐色土層・黄土層を含む
- L2-h 黒褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性弱い 黄褐色土層・黄土層を含む
- L2-i 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性強い 黄褐色土層・土層片を含む
- L2-j 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性無し 褐色土を含む

【S12】

- S1 黒褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性有り 黄褐色土層を含む
- S2 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性有り 黄褐色土ブロック・炭化物を含む 粘成層

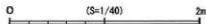
【S16】

- S1 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性無し 褐色土を少量含む
- S2 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性有り 褐色土を含む 粘成層
- S3 褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 粘成層

【4TP13】

- S1 黒褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性無し 褐色土を少量含む
- S2 黒褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性弱い 褐色土を少量含む
- S3 褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性有り 褐色土を少量含む
- S4 褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性有り 褐色土を少量含む 粘成層
- S5 褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 粘成層

図 84 4T 平面図・断面図

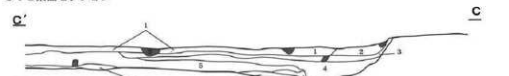


SK1：本土坑は調査区南角付近で確認した。隅丸方形の土坑であり、貯蔵穴の可能性はある。

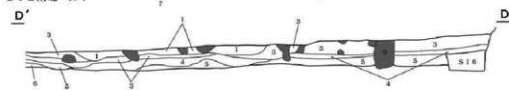
本土坑は床面となる貼床面を掘り込み面とし、長軸約80cm×幅約50cm×深さ30cmを計測し、断面形は半円形である。

SK2：本土坑は調査区南西壁の中央で確認した土坑であり、土坑の西半分は調査区外に伸びているために、正確な形状は不明である。遺存する東半部の形状から推測すると、南北に長軸をもつ楕円形を呈するものと考えられる。また本土坑周辺には幅約30cmの焼土ブロックが検出されているが、焼土ブロックのレベルが貼床面よりも高い位置であることから、本住居

S12東西セクション



S12南北ベルト

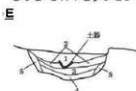


【S12】

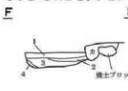
- 01 暗褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性有り 黄褐色土粒を含む
- 02 暗褐色土 砂質シルト しまり有り・粘性弱い 褐色土を含む
- 03 暗褐色土 砂質シルト しまり弱い・粘性有り 黄褐色土ブロックを少量含む
- 04 黄褐色土 砂質シルト しまり有り・粘性弱い 黄褐色土ブロックを含む
- 05 黄褐色土 砂質シルト しまり強い・粘性有り 黄褐色土ブロック・炭化物を含む 貼床面
- 06 褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 暗褐色土を少量含む
- 07 褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 基礎層

図85 S12 断面図(1)

S12-SK1セクション



S12-SK2セクション



S12-P1セクション



S12-P2セクション



【S12-SK1】

- 01 暗褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや弱い 黄褐色土粒を含む
- 02 暗褐色土 砂質シルト しまりやや有り・粘性弱い 土部・少量の焼土粒を含む
- 03 暗褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性弱い 黄褐色土を含む
- 04 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性有り 黄褐色土を多く含む
- 05 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 黄褐色土ブロックを少量含む 初期土

【S12-P1】

- 01 暗褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い
- 02 暗褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 黄褐色土ブロックを含む
- 03 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 基礎層
- 04 暗褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い
- 05 炭質褐色土 砂質シルト しまりやや強い
- 06 褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 炭化物有り
- 07 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 褐色土を含む

【S12-SK2】

- 01 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性弱い 黄褐色土を含む
- 02 黄褐色土 砂質シルト しまりやや強い・粘性弱い 黄褐色土を7層より多く含む
- 03 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 黄褐色土を少量含む
- 04 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 基礎層

【S12-P2】

- 01 暗褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い
- 02 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 暗褐色土を少量含む
- 03 黄褐色土 砂質シルト しまり・粘性やや強い 基礎層

図86 S12 断面図(2)

跡の建て替えによる新しい時期の炉跡の可能性や、別の焼土遺構の一部が堆積した可能性が考えられる。

- P1：本ピットは調査区の南角から北約50cmの位置で確認した。直径約30cm、深さ約50cmを測り、遺構内から遺物は確認されなかった。
- P2：本ピットはSK1から南西に約20cmに位置している。2基のピットが重複した状態で検出し、新しい時期をP1a、古い時期をP1bとした。2基とも暗褐色で埋没しており、ℓ1の下部には褐色土や灰黄褐色土(ℓ2)が堆積する。ピット内からは遺物は出土しなかった。出土遺物は、図88-3・9・11・13・14はSI2、図88-7はSK2から出土した土器である。9・11はℓ1、3・13・14は貼土上面から出土した。3は古墳時代の単純(素)口縁の台付甕であり、口縁部の一部が欠けた状態であるがほぼ完形である。ハの字に開く台部の上に倒卵形の体部がのる。台部と体部の接合部には指圧の痕跡が残されている点が特徴となっている。口縁部は直線的に外傾して口縁端部に達する。外面調整は台部から口縁部までには1次調整のハケメが見られるが、台部上半と体部上半には2次調整のヘラケズリ、体部下半にはナデ、口縁部にはヨコナデを施している。内面調整には断片的にヘラナデが施されている。本資料は器高19cm、口縁部直径11.2cm、体部最大径12cm、台部直径7.8cm、台部高5cmを計測する。なお、本資料の大きな特徴のひとつに土器内面に貯蔵された穀類が炭化した痕跡が残されている点にある(写真99-3)。

9は甎である。口径約20cm、底径約5cm、器高8cmを計測する深皿状の甎であり、底部中央には貫通孔が見られる。底部の貫通孔付近は厚く肥大し、徐々に器厚を減じながら緩く内湾して立ち上がり、口縁部に達する。口縁端部は折り返し口縁となっている。外面調整は不良であるが、底部の貫通孔付近にはヘラケズリが施されているものと判断される。

11は土器器の手捏土器底部資料である。底部直径は約5cmを計測し、内外面ともにナデ調整が見られる。13は土玉である。直径5cmほどの球形で中央に直径6mmの貫通孔が見られる。14は土製品の土垂である。直径4cmほどの円柱状で、中央には直径7mmの貫通孔が見られる。7は碗である。SK1 ℓ2から出土しており、口縁の一部欠けた状態のほぼ完形に近い形で出土している。底部はヘラケズリによる調整が施された丸底で、口縁部と体部の接点で若干括れ、強く外湾する口縁部が見られる、外面の体部上半には一部ハケメの痕跡が見られ、その上に体部から底部にかけて横位のヘラケズリが施されている。内面はヘラナデによる調整が施されている。口縁部は内外面ともにヨコナデにより整えられている。

- S16：本竅穴住居跡は、調査区北角から北東壁にかけた範囲で確認した竅穴住居跡である。調査当初はSI2のプランの一部と考えていたが、土層の再検討の結果、SI2とは別の竅穴住居跡であることが判明した。

結果的にはSI2→SI6の順で造営されたことが確認されている。従って調査区内において本住居跡に伴うものは、竅穴住居跡南西コーナーとコーナーから北へ延びる西壁の一部となっており、遺構の詳細は不明である。

8. 調査所見 今回試掘調査を行った結果、古墳時代前期の竪穴住居跡と古墳の周溝等が確認され、旧石器時代のナイフ形石器と古墳時代前期の土師器が出土した。本調査区周辺では、平成25年度には縄文時代と古墳時代の竪穴住居跡が重複した状態で確認されていることから、この付近には縄文時代と古墳時代を中心とする時期の集落が展開しており、今回確認した集落もその一部と考えられる。また付近には古墳時代後期の群集墳である真野古墳群も展開しており、今回の調査で確認されたSD2も真野古墳群を構成していた円墳の周溝である可能性が高く、周辺には未だに確認されていない古墳が残されていると推測される。

なお、今回の開発計画に際しては、工事施工において掘削面が遺構確認面に及ばず十分な保護層が確保される部分については慎重工事により対応するとし、工事施工に伴う掘削が遺構確認面に到達する部分については発掘調査を実施し、必要な記録の作成が行われたため、改めた発掘調査等の必要はないが、計画変更等により今回の発掘調査地点以外で掘削を伴う工事が施工される場合には、再度保存協議を要し必要に応じて試掘調査等が必要となる。



写真 88 SI 2 検出状況



写真 89 SI 2 調査状況



写真 90 SI 2-SK1土層断面



写真 91 SI 2 調査状況 (床面検出状況)



写真 93 台付甕出土状況



写真 93 1 T 全景



写真 94 1 T 北西壁土層断面



写真 95 1 T 南西壁土層断面



写真 96 2 T 南西壁土層断面



写真 97 2 T 北壁土層断面



写真 98 2 T 全景

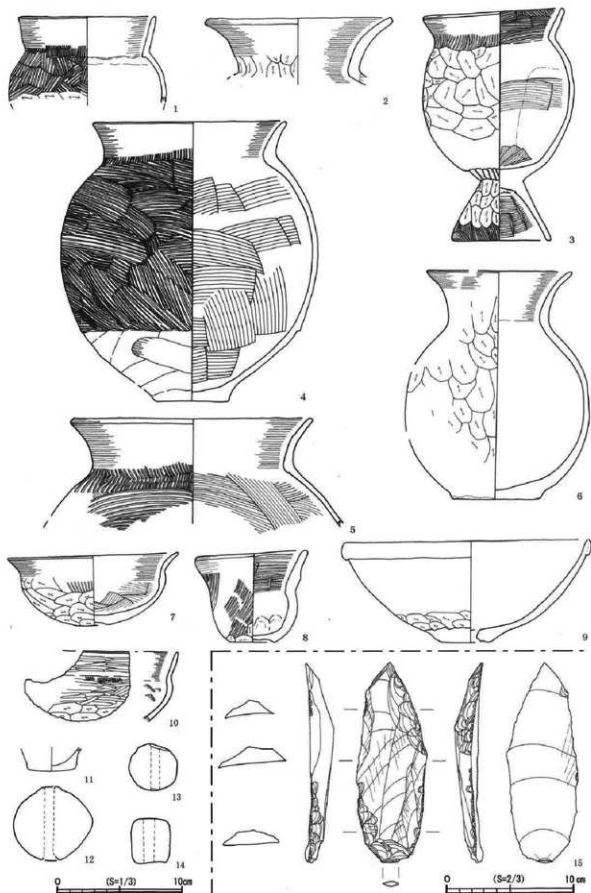


図87 八幡林遺跡 出土遺物



写真 99 八幡林遺跡 出土遺物 (1)

第5項 八幡林遺跡 (13次調査)



写真100 八幡林遺跡 出土遺物 (2)

第6項 真野古墳群A地区（2次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内
3. 調査期間 平成27年7月15日
4. 調査対象面積 900㎡
5. 調査面積 900㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
文化財主事 山梨千品（長崎県支援）

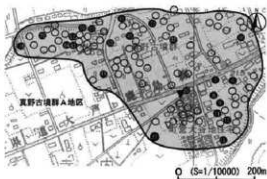


図 88 真野古墳群A地区 古墳分布図

7. 調査成果 今回の試掘調査は、個人住宅の物置小屋建設に対して実施した。調査対象地は、国史跡真野古墳群A地区37号墳を取り囲む形状であることから、地形測量と調査区を用いた試掘調査を実施した。

37号墳の現状：古墳は、上真野川により開析された河岸段丘の縁辺に立地する。墳丘とその周辺は後世の改変が著しく、墳丘の南側と墳丘の中央部が掘削を受けている。

墳丘の南西斜面には大きな川原石が2箇所露呈しており、墳丘にある掘削部分に埋葬施設が存在していた可能性がある。現状で認識される墳丘は、墳頂平坦面直径4.2m以上、墳丘裾部直径約13m、墳丘高約1.4mを計測する。

調査区は、37号墳の北側に設定した。基盤層上面に到達するまでの間にビニール等が混入しており、この地形の変化は古墳築造時期のものではなく、後世の土木行為によるものと考えられる。調査では少量の土器片が出土したが、いずれも後世の盛土等内からの出土であり、本古墳等に伴うものではない。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、真野古墳群A地区37号墳の墳丘の一部が史跡の境界部分の外側に広がっていることが明らかとなった。

周溝も、史跡範囲の外側に展開している可能性が高く、これらの部分についても何らかの保護対策が必要である。

なお、今回の開発計画に際しては、史跡周辺部には十分な盛土が行われ、地中の遺構等に影響のある工法ではないことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 89 調査区位置図

第6項 真野古墳群A地区（2次調査）



写真 101 調査着手前



写真 102 調査区近景



写真 103 調査状況

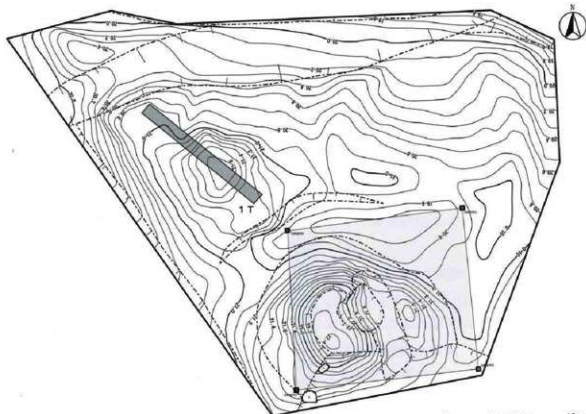


図90 真野古墳群A地区37号墳 墳丘測量図

0 (S=1/300) 10m

第7項 榎木沢C遺跡（6次調査）

1. 調査原因 鹿島SA駐車場造成
2. 調査地点 南相馬市鹿島区
浮田字榎木沢地内
3. 調査期間 平成27年6月1日～6月3日
4. 調査対象面積 4,500㎡
5. 調査面積 220㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 藤木 海
7. 調査成果 今回の試掘調査は、昨年度の5次調査の継続調査として実施した。本年度は4次調査で確認した木炭焼成土坑1基と、18Tと19Tで確認された木炭窯跡の精査・記録作成を行った。また、30Tで検出された炭化物と土砂が混合した黒色土層、焼土と土砂が混合した赤褐色土層を精査し、対象地外に存在する製鉄関連遺構に由来する2次堆積層であることを確認した。



図91 榎木沢C遺跡位置図

8. 調査所見 木炭窯跡が検出された18・19Tの位置する南北約30m×東西約8mの範囲については、保存協議が必要と判断される。保存協議の結果、埋蔵文化財の破壊が免れない場合には発掘調査が必要となる。4Tで検出された木炭焼成土坑については記録保存が終了したことから、18・19T以外の範囲については、保存協議等の措置は必要ないと判断される。



図92 調査区位置図



図93 SK1実測図

1. 堀区間の断面(1/4T): 黒色の焼土と炭化物の混在。
2. 堀区間の断面(19T): 焼土に二角骨層した砂層の混在。
3. 堀区間の断面(30T): 炭化物と土砂の混在。

第7項 穀木沢C遺跡(6次調査)



写真104 調査区遠景



写真105 検出状況



写真106 4 T 木炭焼成土坑 土層断面



写真107 4 T 木炭焼成土坑 調査状況

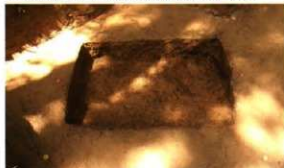


写真108 4 T 木炭焼成土坑 完掘状況



写真109 18 T 1号木炭窯跡 検出状況



写真110 19 T 2号木炭窯跡 検出状況

第8項 八郎内遺跡（7次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区横手町田内
3. 調査期間 平成27年11月24日
4. 調査対象面積 386㎡
5. 調査面積 2㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発予定地内に1×2mの調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

試掘調査では、現地表面から約60～90cmの深さまで掘削したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図94 八郎内遺跡位置図



図95 調査区位置図



写真111 1G 全景



写真112 1G 断面

第9項 鷺内遺跡(2次調査)

1. 調査原因 福島県立養護学校敷地造成
2. 調査地点 南相馬市鹿島区寺内字鷺内地区
3. 調査期間 平成28年3月28日～平成28年3月31日
4. 調査対象面積 20,000㎡
5. 調査面積 300㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
埋蔵文化財調査員 濱須 脩(嘱託)

7. 調査成果 今回の発掘調査では、開発予定地内に1×10mのトレンチを15箇所を設定し、埋蔵文化財の確認作業を行った。なお、開発範囲内は次年度に作付け予定であることから掘削深度に制限があり、十分な確認作業はできなかった。

1～3 T、7～15 Tの計12箇所の調査区では、現地表面から20cmの深さまで掘削して水田基盤を検出したが、これ以上の掘削は行えず遺構等の有無は確認できなかった。遺物は土師器、須恵器の土器片が出土した。

4～6 Tでは、現地表面下20cmまで掘削して水田基盤を検出し、部分的に1×1mの断面を行い下層の確認を行った。4 Tでは、水田基盤から約10cmの深さで礫を含む基盤層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。5 Tでは、水田基盤から約10cmの深さで、厚さ5cm前後の遺物包含層を確認した。その下層では白色シルトの基盤層を確認し、土坑とピットを検出した。6 Tでは、水田基盤の下層に厚さ10cmの遺物包含層があり、更にその下層で基盤層を確認した。遺物包含層からは、縄文土器と土師器が出土している。なお、5 Tと6 Tの遺物包含層は同質土層であることから、一連の遺物包含層と考えられる。

8. 調査所見 今回の試掘調査は掘削深度に制限があり、詳細な遺構・遺物の分布状況は確認できなかったが、それでも遺物包含層や土坑、ピット等が確認された。従って、当該計画地内には遺構・遺物が確認された5・6 Tを中心に、埋蔵文化財が所在していることが確認された。なお、今回の開発計画に際しては、追加の試掘調査による詳細な埋蔵文化財の状況を確認する必要があるとともに、埋蔵文化財に影響があると想定される工事施工が実施される場合には、改めた保存協議と発掘調査が必要となる。



図96 鷺内遺跡位置図

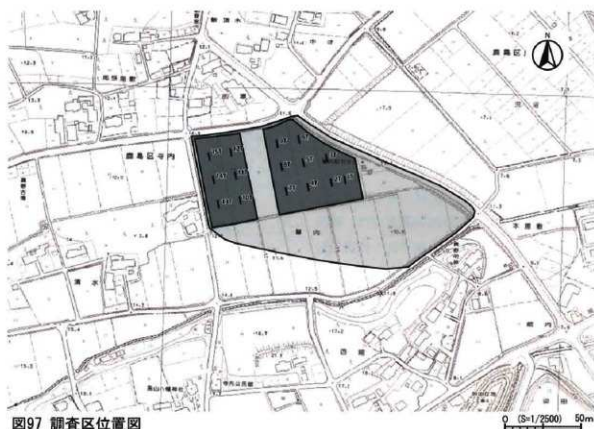


図97 調査区位置図



写真113 調査着手前



写真114 1T 調査状況



写真115 5T 断割り土層断面



写真116 5T 遺構検出状況

第10項 桜井 C 遺跡 (3次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区
上渋佐字原畑地内
3. 調査期間 平成27年9月24日
4. 調査対象面積 331㎡
5. 調査面積 1㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に2×1mの調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

試掘調査では、現地表面から約60cmの深さで黄色ロームの基盤層に達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図98 桜井C遺跡位置図



図99 調査区位置図



写真117 1G 調査状況



写真118 1G 土層断面

第11項 桜井C遺跡(4次調査)

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区
上渋佐字原畑地内
3. 調査期間 平成27年10月26日～
平成27年10月29日
4. 調査対象面積 317㎡
5. 調査面積 24㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に2×6mの調査区を2箇所を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。

試掘調査では、現地表面から約90cm～

1.3mの深さまで掘削して黄色ロームの基盤層に達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

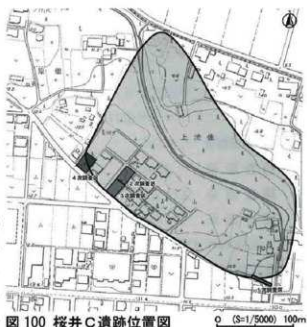


図100 桜井C遺跡位置図



図101 調査区位置図



写真119 1T 調査状況



写真120 2T 調査状況

第12項 桜井 D 遺跡 (15次調査)

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区
上渋佐字原田内
3. 調査期間 平成27年9月14日～
平成27年9月17日
4. 調査対象面積 2,963㎡
5. 調査面積 88㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発計画地内の4箇所に調査区を設けて、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では、現地表面から約20～70cmの深さで基盤層となる黄色ロームに達し、堅穴住居跡2軒を確認した。基盤層を確認するまでの基本土層は、最上層には約10cm前後の碎石があり、その下層に約50cm前後の山砂による盛土層を確認した。盛土の下層には盛土以前の旧表土と推測される黒色土が約10cmで堆積し、黒色土の下層で基盤層に達した。

堅穴住居跡は1Tで検出したが、いずれの堅穴住居跡も遺構の大部分が調査区外に広がっているため詳細は不明である。なお、堅穴住居跡には重複関係が確認されており、SI01はSI02よりも新しいことを確認している。

試掘調査で出土した遺物には、ロクロ整形により製作され、内面にミガキと黒色処理が施された杯など、奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土した。

8. 調査所見 今回の試掘調査では堅穴住居跡2軒と土器が出土したことから、掘削を伴う工事を施工する場合には、保存協議を要する。

また、保存協議の結果、埋蔵文化財に影響があると判断される場合には、事前に記録保存のための発掘調査が必要となる。

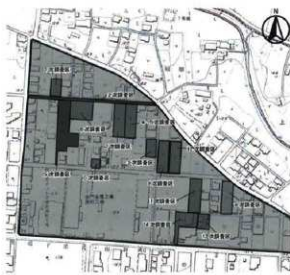


図 102 桜井D遺跡位置図

0 (S=1/5000) 100m



図 103 調査区位置図

0 (S=1/2500) 50m

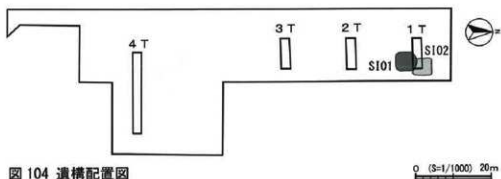


図 104 遺構配置図



写真 121 1 T 調査状況



写真 122 S101・02 検出状況



写真 123 2 T 調査状況



写真 124 3 T 調査状況



写真 125 4 T 調査状況

第13項 桜井原畑遺跡（4次調査）

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区桜井町2丁目地内
3. 調査期間 平成27年5月27日
～平成27年6月2日
4. 調査対象面積 584㎡
5. 調査面積 46㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発計画地内の8箇所調査区を設けて、埋蔵文化財の確認作業を行った。

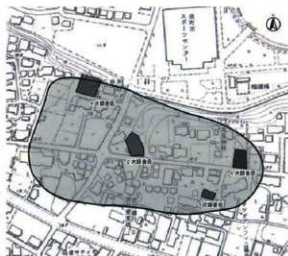


図 105 桜井原畑遺跡位置図 0 (S=1/5000) 100m

調査では、現地表面から約40～70cmの深さで基盤層となる黄色ロームに達し、竪穴住居跡3軒（SI01～03）を確認した。

竪穴住居跡は1T・2Gで確認したが、いずれも遺構の大部分が調査区外に展開することから全体規模は不明である。SI01は、カマドを中心とした南東角の部分を確認した。カマドは竪穴住居跡東辺に付設されている。SI02はSI01の南側に位置する。調査では竪穴住居跡北東角と南東角が確認されたことから、竪穴住居跡の1辺は約4m前後を測るものと推測される。SI03は2Gで確認された竪穴住居跡である。部分的な確認であるが、隣接する1Gや3G・2Tの範囲までは当住居跡のプランは展開しないことから、2G付近に竪穴住居跡の北東角が位置する竪穴住居跡と考えられる。当住居跡については、部分的に遺構覆土の掘削を行って床面までの確認を行った。遺構覆土は黒褐色を呈し、約10～20cmの厚さで堆積している。住居床面には住居壁に沿うように幅約20cmの周溝が巡り、また床面には貼床が施されている。

試掘調査で出土した遺物には、内面にミガキと黒色処理が施されたロクロ整形により製作された杯など、奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土した。

8. 調査所見

今回の試掘調査では竪穴住居跡2軒と土器が出土したことから、掘削を伴う工事を施工する場合には、保存協議を要する。また、保存協議の結果、埋蔵文化財に影響があると判断される場合には、事前に記録保存のための発掘調査が必要となる。

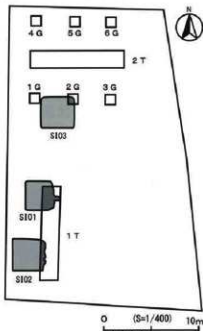


図 106 遺構配置図



写真 126 1T 調査状況



写真 127 SIO1 検出状況



写真 128 SIO2 検出状況



写真 129 SIO3 調査状況



写真 130 SIO3 土層断面



写真 131 2T 調査状況



写真 132 1G 調査状況

第14項 堤下B遺跡(2次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区北泉字堤下地下内
3. 調査期間 平成27年4月16日～
平成27年4月28日
4. 調査対象面積 9,727㎡
5. 調査面積 53㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
埋蔵文化財調査員 濱須 脩(嘱託)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発範囲内に調査区3箇所を設定して、埋蔵文化財の有無を確認した。試掘調査では、現地表面から約10～80cmの深さで基盤層に到達し、1Tでは木炭焼成土坑1基を確認した。

8. 調査所見 今回の試掘調査では木炭焼成土坑1基を検出したが、本遺構については必要な記録を作成したため、改めた発掘調査等の必要はない。また、その他の地点については、保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、今回の開発計画に際しては、慎重に工事施工することが望ましい。



図107 堤下B遺跡位置図

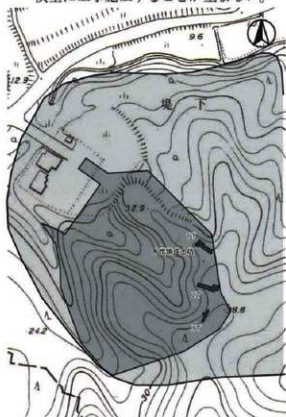


図108 調査区位置図



写真133 1T 調査状況



写真134 1T 木炭焼成土坑検出状況

第15項 戸ノ内遺跡(2次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市鹿島区小山田字戸ノ内地区
3. 調査期間 平成27年4月30日～平成27年6月1日
4. 調査対象面積 22,000㎡
5. 調査面積 143㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人 文化財主事 山梨千晶(長崎県支援)
埋蔵文化財調査員 濱須 脩 主任文化財主事 吉岡弘樹(山梨県支援)
7. 調査成果 今年度に戸ノ内遺跡で実施した

試掘調査は、昨年度の継続調査である。

昨年度の試掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡や貯蔵穴、古代の製鉄に関連する遺構等が確認されていた。

本年度は、昨年度の試掘調査に引き続いて周辺部や平坦部の遺構を確認するために17箇所の調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

調査では73T・79T・85Tで縄文時代の竪穴住居跡を確認し、縄文土器片が出土した。この範囲では表土下層に黒色土・褐色土が堆積し、その下層で黄色ロームの基盤層を確認

した。遺構等は、基盤層上面を確認面とし、基盤層は現地表面からの深さは約60～80cmの深さで確認した。南斜面の77～81Tでは、表土の直下で基盤層となる砂礫層が確認されたことから、南斜面には遺構等が分布している可能性は低い。

北斜面の82T・85T・90Tでは表土下層に褐色土の堆積土があり、その下層で砂礫層の基盤層に達した。北斜面西部では遺構・遺物は確認されなかったことから、遺構等が分布している可能性は低い。北斜面東部では遺物包含層等が遺存していることから、この範囲には縄文時代と古代の遺構等が分布している可能性がある。

図110は、試掘調査で出土した縄文土器である。図化の可能な25点を図示した。1～6は非結束羽状縄文が施された資料である。1は口縁端部を残り、2～5は胴部付近の破片資料である。7・8は単斜縄文を施した資料であり、9～17は異節斜行縄文を施している。18～21は末端還付(ループ文)を用いた文様を施文し、22・24はC字形爪形文を用いた文様を描いている。25は底部資料で底面には刺突列による円文を描いている。

8. 調査所見 今回の試掘調査では、丘陵頂部の平坦面と北斜面東部で縄文時代と古代の遺構・遺物を確認した。縄文時代と考えられる遺構・遺物には、竪穴住居跡や土坑、縄文土



図109 戸ノ内遺跡位置図

器等がある。出土した縄文土器の特徴は、縄文時代前期前半に位置づけられる宮田貝塚出土の宮田Ⅲ群の特徴と酷似する。宮田Ⅲ群は地文として層状ループ文の盛行、それに重層的に併用される羽状縄文や斜行縄文、さらに幾何学的な文様帯も構成が特徴とされており、出土した土器片の大部分がこの特徴を有することから、今回の出土土器群の大部分は宮田Ⅲ群土器の範疇で捉えて良い。出土土器の大部分は、堅穴住居跡が確認された丘陵頂部の平坦面を中央から出土しており、丘陵斜面からの出土は極めて少ない。従って、当該期の集落の範囲は丘陵頂部の平坦面を中央付近に分布すると考えられる。

古代の製鉄に関連する遺構は、谷の下位にある太田切溜池周辺で廃滓場が確認されており、廃滓場には炉壁や羽口等が含まれていることを見ると、廃滓場の斜面上位側に踏みイゴを有する製鉄炉が構築されていると考えて間違いない。また、周辺には燃料となる木炭を生産した木炭窯跡が存在している可能性が高い。従って、丘陵北斜面には古代の製鉄に関連する遺構群が分布していると想定される。

これらの調査成果から、本区域内で開発を計画する場合には保存協議を必要とし、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査が必要である。

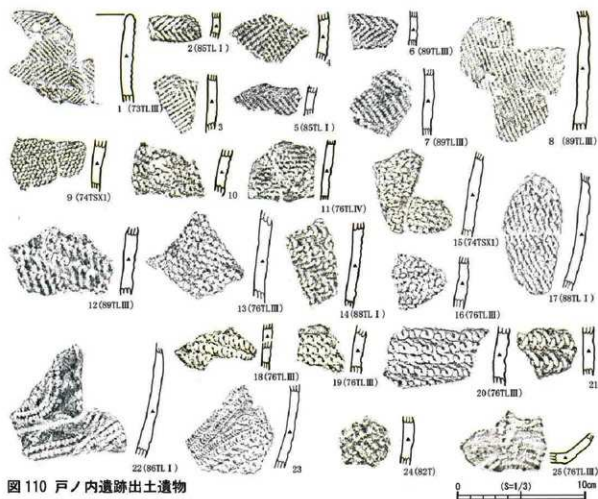


図 110 戸ノ内遺跡出土遺物



図 111 調査区位置図



写真 135 調査着手前



写真 137 78 T 調査状況



写真 138 83 T 調査状況



写真 136 76 T 遺構検出状況



写真 139 85 T 遺構検出状況



写真 140 戸ノ内遺跡 出土遺物

第16項 陣ヶ崎 B 遺跡

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区上太田字陣ヶ崎地内
3. 調査期間 平成27年5月29日
4. 調査対象面積 485㎡
5. 調査面積 10㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

試掘調査では、現地表面から約20cmの深さで基盤層となる黄色砂礫層に達した。基盤層確認までの土層は、畑地耕作土となっている黒褐色土の直下が基盤層となっている。

基盤層確認までの作業の中で、保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

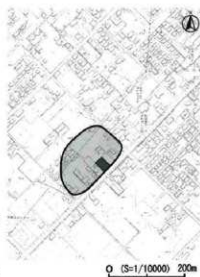


図 112 陣ヶ崎 B 遺跡位置図

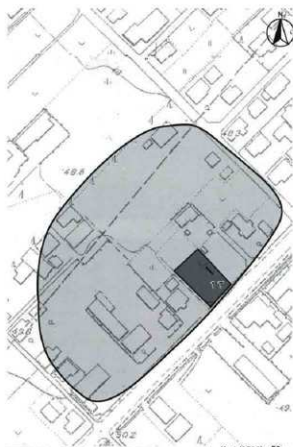


図 113 調査区位置図



写真 141 調査着手前



写真 142 1 T 調査状況

第17項 信田沢古館跡

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区信田沢字嶺崎地内
3. 調査期間 平成27年6月8日～平成27年6月12日
4. 調査対象面積 7,950㎡
5. 調査面積 41㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
埋蔵文化財調査員 濱須 脩 (嘱託)
主任文化財主事 吉岡弘樹 (山梨県支援)
7. 調査成果 試掘調査は、開発予定地内に調査区8箇所を設定して、埋蔵文化財の有無を確認した。試掘調査では、現地表面から60～80cmの深さで基盤層となる黄褐色と白色の砂礫層に達したが、埋蔵文化財は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の試掘調査では、開発範囲内において保存協議を必要とする埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の必要はなく、慎重工事が望ましい。



図114 信田沢古館跡位置図



図115 調査区位置図



写真143 調査着手前



写真144 1 T 調査状況

第18項 巢掛場遺跡（2次調査）

1. 調査原因 市道改良
2. 調査地点 南相馬市原町区萱浜字巢掛場地内
3. 調査期間 平成27年6月15日
4. 調査対象面積 693㎡
5. 調査面積 26㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
文化財主事 山梨千晶（長崎県支庁）
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発予定地内に1×10mの調査区を2箇所、1×6mの調査区を1箇所を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。



図 116 巢掛場遺跡位置図 0 (S=1/10000) 200m

試掘調査では、現地表面から約10～50cmの深さまで掘削し黄色ロームの基盤層に達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 117 調査区位置図 0 (S=1/2500) 50m



写真 145 1 T 調査状況



写真 146 2 T 調査状況

第19項 巢掛場遺跡 (3次調査)

1. 調査原因 公立双葉看護学院建設
2. 調査地点 南相馬市原町区萱浜字巢掛場地内
3. 調査期間 平成28年2月18日
4. 調査対象面積 2,000㎡
5. 調査面積 20㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に2×10mの調査区を1箇所を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。



図 118 巢掛場遺跡位置図

試掘調査では、現地表面から約80～90cmの深さまで掘削し黄色ロームの基盤層に達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

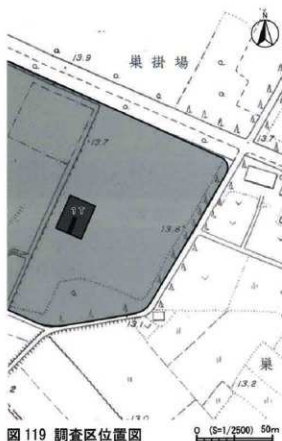


図 119 調査区位置図



写真 147 1 T 調査状況



写真 148 調査区断面

第20項 追合C遺跡(3次調査)

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区金沢字追合地内
3. 調査期間 平成28年1月12日
～平成28年1月14日
4. 調査対象面積 9,624㎡
5. 調査面積 52㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発予定地内の10箇所に調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

試掘調査では、現地表面から約90～130cmの深さまで掘削し、黄褐色砂質土の基盤層に達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

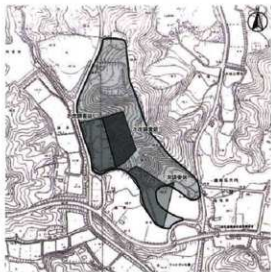


図 120 追合C遺跡位置図 0 (S=1/10000) 200m

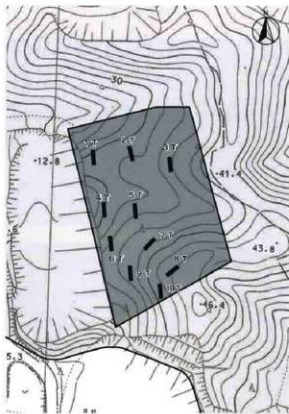


図 121 調査区位置図 0 (S=1/2500) 50m



写真 149 3T 調査状況



写真 150 4T 調査状況

第21項 切付遺跡

1. 調査原因 個人住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区馬場字切付地内
3. 調査期間 平成27年7月22日
4. 調査対象面積 472㎡
5. 調査面積 12㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
文化財主事 山梨千晶（長崎県支援）
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

試掘調査では、現地地表面から約1.7m地点まで掘り進めた地点で、基盤層となる黄色ロームに達した。この間の堆積土は、上位の約1.2mが砕石盛土、下層に約40cmの黒色土と約10cmの漸移層がある。基盤層を確認するまでの過程の中では、少量の土器が出土したが、保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 122 切付遺跡位置図

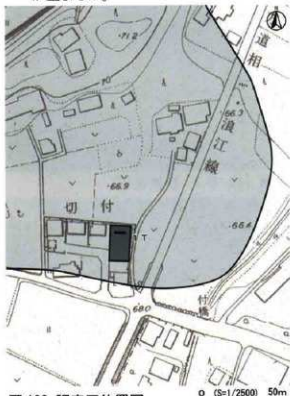


図 123 調査区位置図



写真 151 調査着手前



写真 152 1T 調査状況

第22項 橋本町A遺跡

1. 調査原因 集合住宅建設
2. 調査地点 南相馬市原町区橋本町1丁目地内
3. 調査期間 平成27年7月23日～平成27年7月24日
4. 調査対象面積 453㎡
5. 調査面積 10㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
文化財主事 山梨千晶（長崎県支援）
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内に調査区1箇所を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

基盤層は、現地表面から約60cmの深さで確認した。最上層には瓦礫を含む表土層が30cmあり、その下層に約15cmの黒色土、約10cmの暗褐色土の層序で堆積している。また、本遺跡は旧石器時代の石器を出土することから、調査区内の2箇所深さ1mの断割りを行って、下層の遺物の確認に努めた。これらの一連の調査では、埋蔵文化財を確認することはできなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図124 橋本町A遺跡位置図



図125 調査区位置図



写真153 調査状況



写真154 調査状況（断割り後）

第23項 袖原古墳群

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区大甕字森合東地内
3. 調査期間 平成27年6月25日～平成28年6月29日
4. 調査対象面積 1,025㎡
5. 調査面積 28㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
主任文化財主事 吉岡弘樹 (山梨県支援)

7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内の5箇所調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。谷部の1～3Tでは約1mの褐色土が堆積し、尾根部の4・5Tでは基盤

図126 袖原古墳群位置図

となる泥岩に達した。調査では古墳や他の埋蔵文化財は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

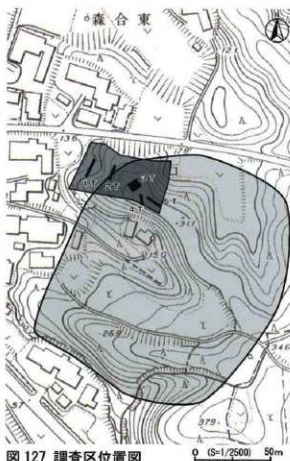


図127 調査区位置図



写真155 調査区遠景



写真156 3T 調査状況

第24項 大 穴 遺 跡

1. 調査原因 太陽光発電施設建設
2. 調査地点 南相馬市小高区大富字大穴地内
3. 調査期間 平成27年4月22日～平成27年4月23日
4. 調査対象面積 135,000㎡
5. 調査面積 66㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
7. 調査成果 今回の試掘調査は、開発予定地内に調査区4箇所を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。

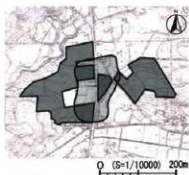


図 128 大穴遺跡位置図

試掘調査では、現地表面から約10cm～1.2mの深さまで掘削して黄色ロームの基盤層に達したが、基盤層を確認する過程の中では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

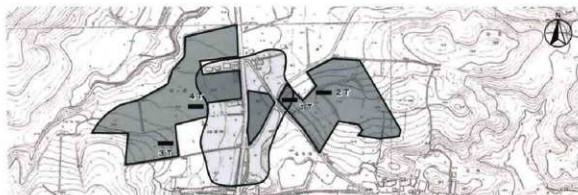


図 129 調査区位置図



写真 157 2 T 調査状況



写真 158 4 T 調査状況

第25項 鹿島区永田地区

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市鹿島区永田字永田地内
3. 調査期間 平成28年3月28日～平成28年3月31日
4. 調査対象面積 73,370㎡
5. 調査面積 14㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 佐川 久
主任文化財主事 吉岡弘樹 (山梨県支援)
7. 調査成果 今回の土砂採取計画に伴い表面調査を実施した結果、丘陵の尾根筋に沿うように、前方後方形もしくは前方後円形の塚状遺構を2箇所、円形の塚状遺構を4箇所を確認し、1～5号墳と付番した。



図 130 鹿島区永田地区位置図

試掘調査は、西端部に位置する3号墳と丘陵頂上部中央付近にある4号墳の尾根上に1×14mの調査区を設定して埋蔵文化財の確認作業を行った。1 Tでは、黒色を呈する表土、

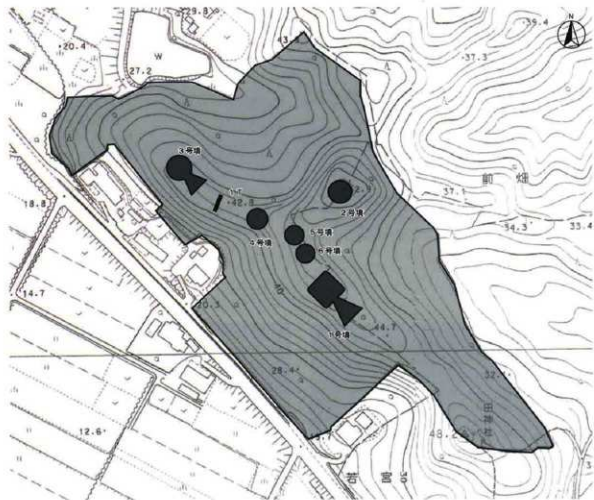


図 131 調査区位置図

基盤層に由来する暗褐色砂礫層、基盤層となる礫を含む暗褐色砂質土の順で堆積する基本土層が確認されたが、基盤層を確認するまで過程では、遺構・遺物等は確認されなかった。

8. 調査所見 今回の試掘調査は、時間的な制約もあり古墳の可能性のある塚状遺構までには調査を行うことはできなかったが、1 Tの調査では丘陵部の基本土層を確認した。本地区における土砂採取計画に際しては、次年度に調査区を設けた本格的な試掘調査を実施し、塚状遺構の性格・時期を把握する必要があるとともに、これらの一連の調査の結果、本塚が埋蔵文化財であることが確認された場合には、保存協議が必要となる。



写真 159 1 T 調査状況



写真 160 1 T 土層断面



写真 161 埋戻し作業



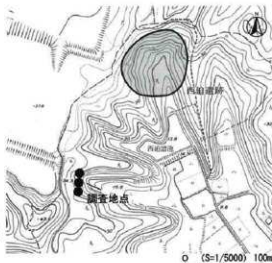
写真 162 3号墳全景（東から）



写真 163 4号墳全景（西から）

第26項 原町区下太田地区

1. 調査原因 工業団地造成
2. 調査地点 南相馬市原町区下太田字西迫地内
3. 調査期間 平成28年1月12日
4. 調査対象面積 100㎡
5. 調査面積 100㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 本年度に下太田地区で実施した試掘調査は、隣接地における造成作業中に横穴墓が不時発見されたことに伴い実施した。



本地点の北側には、周知の埋蔵文化財包蔵 図 132 原町区下太田地区位置図

地である西迫遺跡が所在しているが、本地点は周知の埋蔵文化財包蔵地の外側の地点であった。南相馬市教育委員会では、不時発見の報告を受けて現地を確認したところ、工事区域内に横穴墓3基が確認できた。確認された横穴墓のうち最も北側にある1号墓は、玄室の天井部の約2/3が開口状態にあり、残りの2・3号墓は奥壁の一部が露呈した程度であったことから、1号墓は現状の記録を作成したうえで養生することとし、残りの2基については現状のまま埋戻すこととした。

工事の掘削計画については、横穴墓が所在する範囲については、一時的に掘削範囲からは除外して保存をすることとし、次年度に試掘調査を実施し保存協議を行うこととなった。



図 164 調査区近景



図 165 不時発見状況



図 166 玄室近景



図 167 精査完了状況

1号墓：本横穴墓は、標高36mの低丘陵の斜面の造営されており、南側には間隔をあけずに2号墓・3号墓と並んでいる。

玄室は一辺約3mの正方形の平面形を有し、床面はほぼ平坦で一部には排水溝と見られる溝が巡る。玄室壁は床面から緩やかに弧を描いて天井へ達する形態で、玄室床面から天井部までの高さは約1.4mを測る。玄門部長は約83cmあり、羨道側は幅75cm、玄門側で幅1.0m、高さ65cmを測る。羨道部は幅約2.2mを計測し、平面形は羽子板形を呈する。

なお、本古墳については羨道部の壁面に後世の線刻が確認されることから、近年まで開口した状態にあったことが確認されており、玄室内についても埋葬時の状態は残されておらず、玄室内の作業では、副葬品等の遺物は確認できなかった。

8. 調査所見 本横穴墓群はこれまで知られていなかった横穴墓群であり、近接する西迫東迫横穴墓群と西迫遺跡を含めた一連の横穴墓群と捉えて良い。なお、本遺跡については改めて試掘調査を実施したうでの保存協議が必要である。また、保存協議の結果、現状での保存が困難な場合は記録保存のための発掘調査が必要である。

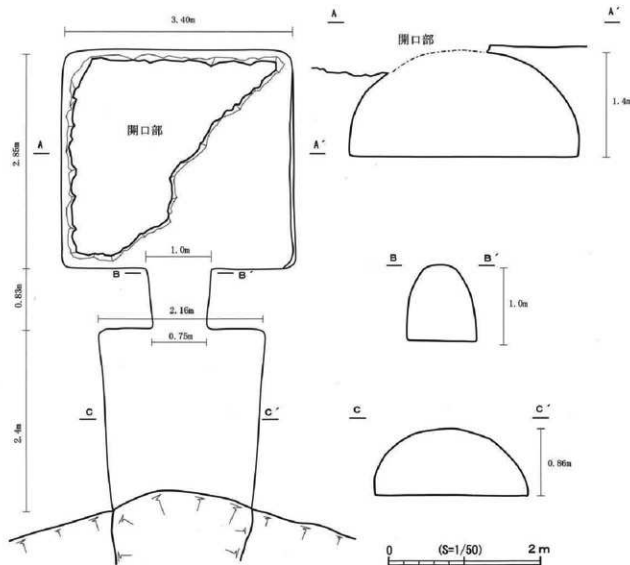


図 133 1号横穴墓 略測図

第27項 鹿島区大六天地区

1. 調査原因 南相馬消防鹿島分署建設
2. 調査地点 南相馬市鹿島区江垂字大六天内
3. 調査期間 平成27年8月19日～
平成27年9月20日
4. 調査対象面積 4,380㎡
5. 調査面積 195㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内の4箇所調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。



図 134 鹿島区大六天地区位置図

調査対象範囲内には後世に大規模な盛土が行われており、現地表面から約3m掘り下げても基盤層に到達しなかった。この時点で湧水ならびに調査区壁面の崩落が始まったことから、これ以上の調査は行わなかった。調査の過程では、埋蔵文化財は確認できなかった。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。



図 135 調査区位置図



図 168 調査着手前



図 169 調査状況

第28項 原町区比丘尼沢地区

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区上北高平字比丘尼沢地内
3. 調査期間 平成27年7月30日～平成27年9月30日
4. 調査対象面積 9,600㎡
5. 調査面積 116㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
文化財主事 山梨千晶 (長崎県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発予定地内の地形に合わせて、17箇所の調査区を設定して、埋蔵文化財の確認作業を行った。

試掘調査では、現地表面から20～60cmの深さで、基盤層となる黄色砂質土に達した。基盤層上位の堆積土はいずれも明褐色砂質土で、流出した基盤層が再堆積したものである。

遺構は基盤層上面で確認した。主な遺構には製鉄炉跡2基、廃洋場2箇所、木炭窯跡6基、竪穴住居跡2軒である。いずれの遺構も一部が確認されたため、遺構の全体規模は不明である。製鉄炉は2基を確認した。1号製鉄炉跡は北斜面に開析した沢部にあり、2号



図137 調査区位置図

製鉄炉跡は南斜面に開析された沢部にある。製鉄炉の下位に地膨れ状に盛り上がった廃滓場がある。廃滓場からは羽口や炉壁等が含まれていることから、本製鉄炉跡は踏みフイゴを有する箱形炉と考えられる。

木炭窯跡のうち1～3号木炭窯跡は北斜面の標高50m～60mの付近に並列するように構築されており、4～6号木炭窯跡は、南斜面の標高56m～60m付近に3基が並列するように構築されている。堅穴住居跡は北斜面の10T、南斜面の17Tで確認した。

8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、平安時代の製鉄関連遺構を確認した。従って、本地区内で土砂採取を行う場合には事前に保存協議を要し、保存が困難な場合には記録保存のための発掘調査を要する。



写真 170 調査着手前（南斜面）



写真 171 調査着手前（北斜面）



写真 172 11T 木炭窯跡検出状況



写真 173 13T 木炭窯跡検出状況



写真 174 16T 木炭窯跡検出状況



写真 175 2号製鉄炉作業場

第29項 原町区石神地区

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区
石神字北明内地区ほか
3. 調査期間 平成27年7月22日～
平成27年9月14日
4. 調査対象面積 43,500㎡
5. 調査面積 340㎡
6. 調査担当 埋蔵文化財調査員 濱須 脩
主任文化財主事 吉岡弘樹
(山梨県支援)



図138 原町区石神地区位置図

7. 調査成果 今回の試掘調査は、石神字北明内と赤坂の2地点で実施した。調査は開発予定地内に幅1mと2m、0.5m×3mの調査区を設定し、遺構・遺物の確認を行った。

北明内地区：北明内地区は、丘陵の北斜面から尾根筋を挟んだ南斜面までが事業範囲となっていたが、事前の分布調査では南に向かって伸びる尾根は急傾斜で、遺構が所在する可能性は低いこと、地形観察でも木炭窯跡等の痕跡が見られないことから、試掘調査の対象範囲外とし、尾根筋から北側に向かう緩斜面を試掘調査対象範囲とした。

試掘調査では、北斜面に形成された谷と尾根筋に、幅1mと2m、0.5×3mの調査区を42箇所を設定して遺構・遺物の確認作業を行った。

調査で確認した基本土層は、現地表面から0.4～1.2mの深さで、基盤層となる黄褐色砂質ロームを確認した。3Tでは少量の縄文土器片が出土し、7T・34T・35T・37T・40Tでは木炭焼成土坑を合計7基、21T・26Tでは竪穴住居跡2軒を確認した。

26T：26Tは、谷底から西側斜面の上部に向かう地点に設定した調査区であり、竪穴住居跡(S11)を確認した。

表土(LI)の下層には、基盤層の再堆積と思われる暗褐色砂層(LII)が約10cmの厚さで堆積し、その下層には黄褐色砂質土層(LIII)が約30cmで堆積している。遺構検出面となる黄褐色砂質ロームはLIII下層で検出した。

S11：S11は26Tの中央で確認した。確認できた範囲は西部の一部であることから、竪穴住居跡の全体規模は不明である。確認さ

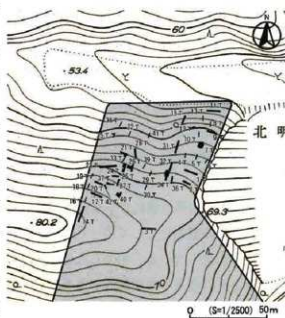


図139 調査区位置図(北明内地区)

れたカマドを竪穴住居跡西辺の中央に位置すると仮定した場合、竪穴住居跡の南西角とカマド間の距離が約2.5mを計測することから、竪穴住居跡の1辺は約5m前後の規模を有すると想定される。

竪穴住居跡西壁には、カマドと斜面上部に向かって伸びる煙道を確認した。また、カマドの焚口付近ではカマド

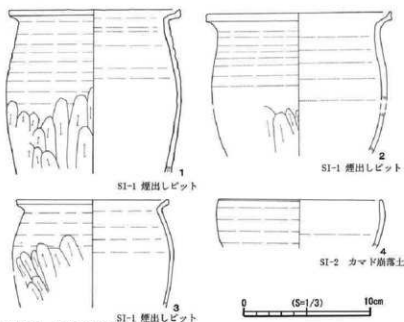


図 140 北明内地区出土遺物

の構築材に用いられたと考えられる被熱した礫が出土している。竪穴住居跡内の堆積土からは少量の土師器片が出土し、また煙出しピット内からは土師器の甕3個が上下に重なるような状態で出土している。これらの甕はいずれも底部が打ち欠かれた状態で据えられていることから、煙出しピットの補強のために設置された可能性が高い。

図140-1～3は、SI1の煙出しピット内に設置されていた長胴甕である。いずれもロクロを用いて整形されている。器形は、頸部で一旦括れ、口縁部が強く外傾したのち短く直立して口縁端部に達する。内外面ともにロクロによるナデが残るが、外面には体部中央から下半部に縦位のヘラケズリが加えられている。

21T : 21Tは尾根部の平坦面に設定した、幅1m×6mの調査区である。表土(LI)直下には、約20cmの暗褐色砂層(LII)が堆積し、その下層には黄褐色砂質土(LIII)が約30cmの厚さで堆積している。遺構検出面となる黄褐色砂質ローム(LIV)はLIII下層で検出した。調査区内からは竪穴住居跡1軒(SI2)を確認し、少量の土師器が出土した。

SI2 : SI2は調査区の東端で確認した竪穴住居跡である。調査で確認できた範囲は、竪穴住居跡の北東部の一部と、本竪穴住居跡に伴うカマドおよび煙道である。竪穴住居跡の大部分は、調査区外に伸びているため全体の規模は不明であるが、竪穴住居跡の北辺と南辺間の距離から、約2m前後を計測する小型の竪穴住居跡の可能性はある。

カマド自体は壊れてしまっているが、カマド周辺からは被熱痕のある礫が出土しており、カマドの構築材として用いられた可能性がある。また、カマドの天井崩落土内から土師器鉢が出土している。出土した鉢は、カマドの上に置かれていたものがカマド天井部の崩落とともに埋まった可能性がある。

図140-4は、SI2のカマド崩落部分から出土した土師器鉢である。ロクロ整形されており、調整は内外面ともにロクロナデが残る。遺存する口縁部径は約13cm、残存高は3.7cm

である。

赤坂地区：赤坂地区は、丘陵北側斜面から尾根を挟んだ南斜面までが開発対象範囲とされたが、事前の分布調査では、南斜面の2地点で木炭窯跡の可能性のある地形の変化が確認されたことから、18・19Tを設定して遺構の確認作業を行った。

北斜面では、製鉄炉跡や木炭窯跡等の可能性のある地形変化が確認されたことから、17箇所調査区を設定して確認作業を行った。



図141 調査区位置図（赤坂地区）

試掘調査では、現地表面から20cm～1.2mの深さで基盤層となる黄褐色の砂質ロームを検出したが、遺構・遺物は確認できなかった。

8. **調査所見** 今回、北明内地区と赤坂地区の2地点で試掘調査を行った結果、赤坂地区では保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、今回の土砂採取計画に際しては改めた保存協議の必要はない。

北明内地区では、開発範囲内において平安時代の堅穴住居跡等が確認されたため、北明内地区内で土砂採取を行う場合には、事前に保存協議を要し、保存が困難な場合については記録保存のための発掘調査が必要である。

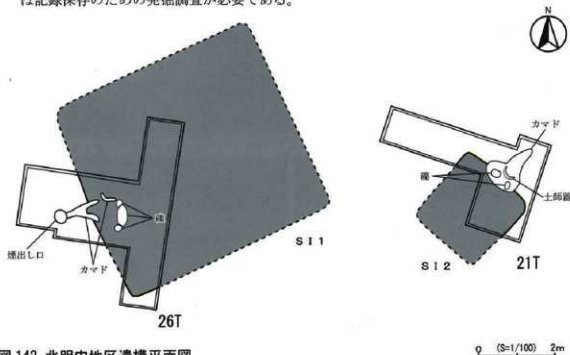


図 142 北明内地区遺構平面図



写真 176 北明内地区 調査着手前



写真 177 北明内地区 調査着手前



写真 178 26T S11 調査状況



写真 179 21T S12 調査状況



写真 180 S12 土器出土状況



写真 181 赤坂地区 調査着手前



写真 182 6 T 調査状況



1. S1-1 破出しピット



2. S1-1 破出しピット



3. S1-2 カマド跡跡土



4 (表) S1-1 破出しピット



4 (裏) S1-1 破出しピット

写真 183 北明内地区 出土遺物

第30項 原町区入道泊地区

1. 調査原因 土砂採取
2. 調査地点 南相馬市原町区上北高平字入道泊地内
3. 調査期間 平成27年5月8日
4. 調査対象面積 7,809㎡
5. 調査面積 70㎡
6. 調査担当 主任文化財主事 荒 淑人
文化財主事 吉岡弘樹 (山梨県支援)
7. 調査成果 今回の試掘調査では、開発計画地内の7箇所調査区を設けて埋蔵文化財の確認作業を行った。いずれの調査区でも表土の下層には褐色土が20cm前後堆積し、その下層で基盤層となる黄色ローム、砂礫層を検出した。遺構・遺物は確認されなかった。
8. 調査所見 今回の開発計画に際しては、開発範囲内において保存協議を要する埋蔵文化財は確認されなかったことから、改めた発掘調査等の措置は必要とせず、慎重な工事施工が望ましい。

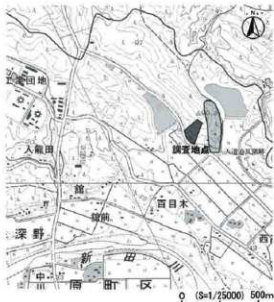


図 143 原町区入道泊地区位置図

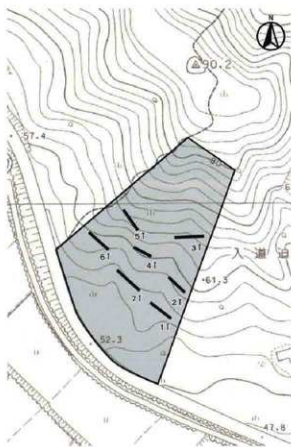


図 144 調査区位置図



写真 184 表土除去作業



写真 185 2 T 調査状況

報 告 書 抄 録

ふりがな	みなみそうましないいせきはつちつちょうさほうこくしょ10					
書名	南相馬市内遺跡発掘調査報告書10					
副書名	平成26・27年度試掘調査報告					
シリーズ名	南相馬市埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第24集					
編著者名	荒淑人・藤木 海・佐川 久・濱須 脩					
編集機関	福島県南相馬市教育委員会文化財課					
所在地	〒975-0062 福島県南相馬市原町区本陣前1丁目70 TEL0244-24-5284					
発行年月日	西暦2017(平成29年)3月31日					
所収遺跡	所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東経	調査期間 上段:着 下段:完	面積(m ²)	調査原因
八幡林遺跡 (8次調査)	南相馬市鹿島区寺内字八幡林内	212500041	37° 41' 50" 140° 57' 19"	140403 140403	12	集合住宅建設
榎内遺跡 (3次調査)	南相馬市鹿島区横手字来北ノ内	212500024	37° 43' 03" 140° 57' 36"	150226 150226	2	個人住宅建設
榎木沢C遺跡 (5次調査)	南相馬市鹿島区浮田字榎木沢内	212500635	37° 71' 39" 140° 92' 41"	150324 150327	220	鹿島S A 駐車場造成
大内館跡	南相馬市鹿島区大内字南館下地内	212500060	37° 40' 40" 140° 59' 39"	141009 141010	40	土砂採取
小山田古墳群	南相馬市鹿島区小山田字戸ノ内	212500028	37° 42' 35" 140° 56' 11"	150209 150220	12	森林再生事業
戸ノ内遺跡 浮田太田切遺跡	南相馬市鹿島区小山田字戸ノ内内ほか 浮田太田切	212500679 212500680	37° 42' 44" 140° 55' 57"	141215 150227	455	土砂採取
真野古墳群A地区	南相馬市鹿島区寺内字八幡林内	212500036	37° 41' 53" 140° 57' 13"	141127 131206	50	個人住宅建設
今宮遺跡	南相馬市鹿島区柳窪字今宮地内	212500092	37° 43' 27" 140° 53' 11"	141106 141117	260	工場用地造成
桜井B遺跡 (11次調査)	南相馬市原町区上狹佐字原田地内	212500178	37° 38' 26" 140° 59' 30"	141028 141028	20	個人住宅建設
桜井B遺跡 (12次調査)	南相馬市原町区上狹佐字原田地内	212500178	37° 38' 26" 140° 59' 29"	150302 150302	6	個人住宅建設
桜井C遺跡 (2次調査)	南相馬市原町区上狹佐字原畑地内	212500177	37° 63' 89" 140° 99' 58"	141210 141210	16	個人住宅建設
高見町B遺跡 (4次調査)	南相馬市原町区高見町1丁目地内	212500348	37° 38' 24" 140° 59' 20"	150316 150323	20	個人住宅建設
上狹佐原田遺跡 (5次調査)	南相馬市原町区上狹佐字原田地内	212500348	37° 38' 14" 140° 59' 39"	141117 141117	20	市道拡幅改良
三島町遺跡 (2次調査)	南相馬市原町区三島町2丁目地内	212500372	37° 38' 34" 140° 57' 21"	140422 140422	21	集合住宅建設
入竜田遺跡 (3次調査)	南相馬市原町区深野字入竜田地内	212500335	37° 40' 45" 140° 55' 30"	140707 140725	327	土砂採取
泉館跡 (2次調査)	南相馬市原町区泉字館前地内	212500229	37° 39' 01" 141° 01' 08"	140729 140821	540	除染土等 仮置場造成
萩原遺跡 (6次調査)	南相馬市小高区羽倉字萩原地内	212500450	37° 35' 05" 140° 56' 00"	140912 140912	12	携帯電話中継 無線基地
谷中遺跡 (2次調査)	南相馬市原町区上高平字谷中地内	212500165	37° 38' 58" 140° 50' 07"	141201 141201	20	駐車場造成

前向遺跡	南相馬市原町区泉字前向地内	212500674	37° 38' 46" 141° 00' 31"	140513 140603	174	太陽光発電施設建設
沢田館跡	南相馬市原町区上高平字沢田地内	212500641	37° 38' 47" 140° 57' 45"	140908 140908	8	個人住宅建設
内城遺跡	南相馬市原町区富田沢字堂下地内	212500277	37° 39' 00" 140° 55' 25"	141030 141030	20	土砂採取
深野館跡	南相馬市原町区深野字館地内	212500133	37° 40' 22" 140° 56' 05"	141125 141205	117	太陽光発電施設建設
梨木下西館跡	南相馬市原町区大甕字梨木下地内	212500304	37° 36' 40" 141° 00' 06"	141217 150115	130	土砂採取
北新田本町遺跡	南相馬市原町区北新田字本町地内	212500408	37° 65' 15" 140° 95' 74"	150317 150318	70	集合住宅建設
原町区栄町地区	南相馬市原町区栄町3丁目地内	—	37° 38' 12" 140° 57' 57"	150303 150303	22.5	災害公営住宅建設
原町区深野地区	南相馬市原町区深野字入籠田地内	—	37° 40' 49" 140° 55' 43"	150224 150225	2.5	土砂採取
原町区高見町地区	南相馬市原町区高見町1丁目地内	—	37° 38' 22" 140° 59' 07"	141112 141112	10	南相馬防災センター建設
小高区塚原地区	南相馬市小高区塚原字一丁目地内	—	37° 33' 47" 141° 01' 14"	140909 140909	26	海岸防災林造成
榎内遺跡 (4次調査)	南相馬市鹿島区横手字川原地内	212500024	37° 42' 45" 140° 57' 37"	150420 150423	60	集合住宅建設
榎内遺跡 (5次調査)	南相馬市鹿島区横手字御所内地内	212500024	37° 42' 58" 140° 57' 20"	160303 160303	16	個人住宅建設
八幡林遺跡 (11次調査)	南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内	212500041	37° 41' 52" 140° 57' 01"	150529 150529	2	排水用水路設置
八幡林遺跡 (12次調査)	南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内	212500041	37° 41' 49" 140° 57' 02"	150619 150622	36	個人住宅建設
八幡林遺跡 (13次調査)	南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内	212500041	37° 69' 75" 140° 95' 54"	150622 150714	52	住宅地造成
真野古墳群A地区 (2次調査)	南相馬市鹿島区寺内字八幡林地内	212500036	37° 41' 53" 140° 57' 13"	150715 150715	900	個人住宅建設
楸木沢C遺跡 (6次調査)	南相馬市鹿島区浮田字楸木沢地内	212500635	37° 71' 39" 140° 92' 41"	150601 150603	220	鹿島S A駐車場造成
八郎内遺跡 (7次調査)	南相馬市鹿島区横手字町田地内	212500657	37° 42' 36" 140° 57' 48"	151124 151124	2	個人住宅建設
鷲内遺跡 (2次調査)	南相馬市鹿島区寺内字鷲内地内	212500101	37° 70' 17" 140° 95' 58"	160328 160331	300	養護学校敷地造成
桜井C遺跡 (3次調査)	南相馬市原町区上洪佐字原畑地内	212500177	37° 38' 20" 140° 59' 44"	150924 150924	1	個人住宅建設
桜井C遺跡 (4次調査)	南相馬市原町区上洪佐字原畑地内	212500177	37° 38' 21" 140° 59' 43"	151026 151029	24	個人住宅建設
桜井D遺跡 (15次調査)	南相馬市原町区上洪佐字原田地内	212500175	37° 38' 20" 140° 59' 33"	150914 150917	88	集合住宅建設
桜井原畑遺跡 (4次調査)	南相馬市原町区桜井町2丁目地内	212500171	37° 63' 99" 140° 98' 12"	150527 150602	46	個人住宅建設
堤下B遺跡 (2次調査)	南相馬市原町区北泉字堤下地内	212500340	37° 38' 24" 140° 58' 50"	150416 150428	53	土砂採取
戸ノ内遺跡 (2次調査)	南相馬市鹿島区小山田字戸ノ内地内	212500679	37° 42' 42" 140° 55' 46"	150430 150601	143	土砂採取
陣ヶ崎B遺跡	南相馬市原町区上太田字陣ヶ崎地内	212500195	37° 37' 82" 140° 56' 46"	150529 150529	10	個人住宅建設
信田沢古館跡	南相馬市原町区信田沢字嶺崎地内	212500312	37° 65' 17" 140° 92' 12"	150608 150612	41	土砂採取

果掛場遺跡 (2次調査)	南相馬市原町区賀浜字果掛場地内	212500350	37° 38' 01"	150615	26	市道改良
			140° 59' 42"	150615		
果掛場遺跡 (3次調査)	南相馬市原町区賀浜字果掛場地内	212500350	37° 37' 59"	160218	20	看護学校建設
			140° 59' 45"	160218		
追合C遺跡 (3次調査)	南相馬市原町区金沢字追合地内	212500442	37° 40' 16"	160112	52	土砂採取
			140° 59' 45"	160114		
切付遺跡	南相馬市原町区馬場字切付地内	212500411	37° 36' 45"	150722	12	個人住宅建設
			140° 55' 43"	150722		
橋本町A遺跡	南相馬市原町区橋本町1丁目地内	212500180	37° 38' 01"	150723	10	集合住宅建設
			140° 57' 44"	150724		
袖原古墳群	南相馬市原町区大甕字森合東地区	212500249	37° 36' 00"	150625	28	土砂採取
			141° 00' 36"	150629		
大穴遺跡	南相馬市小高区大富字大穴地内	212500509	37° 34' 40"	150422	66	太陽光発電施設建設
			140° 56' 08"	150423		
鹿島区永田地区	南相馬市鹿島区永田字永田地内	—	37° 42' 59"	160328	14	土砂採取
			140° 58' 01"	160331		
原町区下太田地区	南相馬市原町区下太田字西追地区	—	37° 36' 46"	160112	100	工業団地造成
			140° 59' 24"	160112		
鹿島区大六天地区	南相馬市原町区江垂字大六天地区	—	37° 41' 55"	150819	195	南相馬消防 鹿島分署建設
			140° 57' 46"	150920		
原町区比丘尼沢地区	南相馬市原町区上北高平字比丘尼沢地区	—	37° 39' 55"	150730	116	土砂採取
			140° 58' 04"	150930		
原町区石神地区	南相馬市原町区石神字北内地区ほか	—	37° 64' 45"	160722	340	土砂採取
			140° 92' 93"	160914		
原町区入道追地区	南相馬市原町区上北高平字入道追地区	—	37° 40' 31"	150508	70	土砂採取
			140° 56' 33"	150508		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八幡林遺跡 (8次調査)	集落・散布地	縄文・弥生・古墳	—	—	
榎内遺跡 (3次調査)	散布地	縄文・弥生	—	—	
楳木沢C遺跡 (5次調査)	製鉄	奈良・平安	木炭窯跡・木炭焼成土坑	土師器	
大内館跡	城館	中世	—	—	
小山田古墳群	古墳	古墳	古墳4・横穴5	—	前方後円墳外
戸ノ内遺跡 浮田太田切遺跡	散布地・集落	縄文・平安	竪穴住居跡・魔湊場等	縄文土器	
真野古墳群A地区	古墳	古墳	溝・土坑	—	
今宮遺跡	散布地	奈良・平安	—	—	
桜井B遺跡 (11次調査)	集落・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
桜井B遺跡 (12次調査)	集落・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
桜井C遺跡 (2次調査)	集落・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
高見町B遺跡 (4次調査)	散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
上沢佐原田遺跡 (5次調査)	集落・散布地	弥生・古墳・平安	竪穴住居跡 掘立柱建物跡	土師器・須恵器	

三島町遺跡 (2次調査)	散布地	古墳・奈良	—	—	
入竜田遺跡 (3次調査)	散布地	縄文・弥生	—	—	
泉館跡 (2次調査)	城館	中世	—	—	
荻原遺跡 (6次調査)	集落・散布地	旧石器・縄文 平安	—	—	
谷中遺跡 (2次調査)	散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
前向遺跡	集落	奈良・平安	堅穴住居跡・土坑	土師器・須恵器	
沢田館跡	城館	中世	—	—	
内城遺跡	散布地	平安	—	—	
深野館跡	城館	中世			
梨木下西館跡	城館	中世	堅穴住居跡4・土坑	土師器・須恵器	
北新田本町遺跡	散布地	縄文・古墳 近世	—	—	
原町区栄町地区	—	—	—	—	
原町区深野地区	—	—	—	—	
原町区高見町地区	—	—	—	—	
小高区塚原地区	—	—	—	—	
榎内遺跡 (4次調査)	散布地	縄文・弥生	—	—	
榎内遺跡 (5次調査)	散布地	縄文・弥生	—	—	
八幡林遺跡 (11次調査)	集落・散布地	縄文・弥生 古墳	—	—	
八幡林遺跡 (12次調査)	集落・散布地	縄文・弥生 古墳	—	—	
八幡林遺跡 (13次調査)	集落・散布地	縄文・弥生 古墳	堅穴住居跡・周溝・土坑	旧石器・土師器	
真野古墳群A地区 (2次調査)	古墳	古墳	—	—	
鍛木沢C遺跡 (6次調査)	製鉄	平安	—	—	
八郎内遺跡 (7次調査)	散布地	古墳・奈良 平安	—	—	
鷺内遺跡 (2次調査)	集落・散布地	縄文	遺物包含層	縄文土器・土師器	
桜井C遺跡 (3次調査)	散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
桜井C遺跡 (4次調査)	散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	
桜井D遺跡 (15次調査)	集落・散布地	弥生・古墳 奈良・平安	—	—	

桜井原畑遺跡 (4次調査)	集落・散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安	竪穴住居跡	土師器	
場下B遺跡 (2次調査)	集落・散布地	弥生・奈良 平安	—	—	
戸ノ内遺跡 (2次調査)	集落・散布地	縄文・平安	竪穴住居跡・土坑	縄文土器・土師器	
陣ヶ崎B遺跡	散布地	縄文	—	—	
信田沢古館跡	城館	中世	木炭窯跡(近代)	—	
果掛場遺跡 (2次調査)	散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・中世	—	—	
果掛場遺跡 (3次調査)	散布地	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・中世	—	—	
追合C遺跡 (3次調査)	製鉄・散布地	弥生・平安			
切付遺跡	散布地	奈良・平安	—	—	
橋本町A遺跡	散布地	旧石器	—	—	
袖原古墳群	古墳	古墳	—	—	
大穴遺跡	散布地	縄文	—	—	
鹿島区永田地区	古墳・製鉄	古墳・平安	古墳4・鹿澤場	土師器	前方後円墳2 円墳2
原町区下太田地区	古墳	古墳	横穴3	—	
鹿島区大穴地区	—	—	—	—	
原町区比丘尼沢地区	製鉄	平安	製鉄炉(鹿澤場)2 木炭窯跡6・竪穴住居跡2	土師器・須恵器・ 鉄滓	
原町石神地区	製鉄・集落	平安	竪穴住居跡・木炭焼成土坑	土師器	
原町区入道迫地区	—	—	—	—	



印刷 2017年 3月31日
発行 2017年 3月31日

南相馬市埋蔵文化財調査報告書第24集
南相馬市内遺跡発掘調査報告書10
—平成26・27年度試掘調査—

編集 南相馬市教育委員会 文化財課
発行 南相馬市教育委員会
〒975-0062 福島県南相馬市原町区本陣前1丁目70番地
印刷 株式会社 こはた印刷所
〒975-0002 福島県南相馬市原町区東町2丁目99番地
